

やまざと

金沢大学ワンダーフォーゲル部・OB会

会報 11号 ('99夏号)



(フカバラノ尾根からの笈岳)

OB会会長の挨拶

15期 奥名 正啓

OBの皆様、それぞれにご活躍のことと思います。

今年の春の小屋酒場は、犀川ダムまでの道が崩壊したまま復旧ならずやむを得ず中止としました。そう多くもないベルクハイムへの機会を失ってたいへん残念に思っています。道路の様子を偵察にいつてきましたが、車でダムまではともかく立派な足と意気込みがあれば十分ベルクハイムへ行けそうです。このダムまでの道はほとんどの皆さんにとってはあまり楽しい思いはないのではないかと思います。改めてぶらぶらとゆっくり歩いてみるといういろいろなものが

目に止まります。特に新トレではただただつらい思いをした時期はこんなにも木々の葉や花が鮮やかで美しいとは思っていませんでした。やっと最近になってその美しさに気づきあちこちと出歩くようになりました。

今もって寺津のゲートから先は一般車両の通行止めが続いています。また、目を転じて白山はどうかというと、岐阜県側の平瀬～大白川も道路の損壊により今年は通行不能。白山一里野～岩間温泉もいつ完成ともわからぬ工事を延々と続けています。さらに、室堂センターの改築工事のため平成13年までは宿泊はできるもの

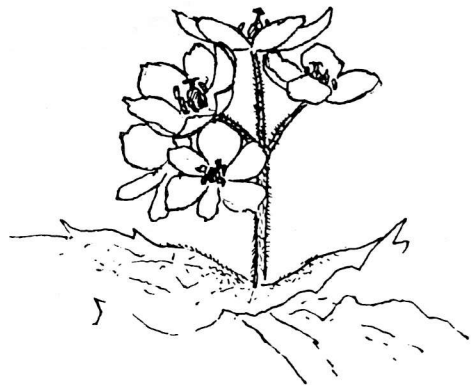
の食事は提供されないこともあり、白山への登山者数は大幅に減って自然破壊が少しでも食い止められるのではないかと期待？されています。

白山はもちろん火山ですが、その大部分2500m付近までは堆積岩が隆起したもので、実際の火山はその上に乗ったわずかな部分でしかありません。この堆積岩はもろく崩れやすいためあちこちで道路の崩壊が起こっているのかもしれない。また、山自体も崩壊が激しく、ほうっておけばどんどん崩れてしまうため特に激しい地域で砂防工事を行っていると聞きました。こうして白山を守ることが自然を守ることなのか、あるいは崩壊するものは崩壊させておくのが自然なのかはわかりません。

閑話休題。金沢城内は長い間発掘調査を行ってきましたが、これもいよいよ終わり跡地およびその周辺地域（県庁移転にともなう跡地）利用に移るようです。そうなると城内はもちろんまわりも様相が一変することになるでしょう。今はまだ発掘のあとが残るだけで、意外に狭い気もしますが雰囲気だけはまだ残っています。OBの皆様の中にはこの城内キャンパスでさまざまな思い出を刻んできた方も大勢いるのではないのでしょうか。そんな記憶を確かめられるの

はもうあとわずかの時しかないようです。今年金大では創立50周年として催し物が目白押しで、そのなかに市民の親しめる大学をうたっています。かつての市民の中に堂々と学生がその一部を占めていた時代もあり、それに比べて角間に移ってしまっただけからは一歩も二歩も遠ざかってしまったような気がしています。これを機会に市民としての学生が復活するかどうか。

さて、おぞましい試練の場でもあったり、時には安らぎを与えてくれたりした我が高三郎は我々金大ワングルとそのOBがいつまでも守り続けていくべき山です。そしてその起点となる小屋酒場ベルクハイムもまた同じです。使い続けてこそ価値があり、またそうしてこそ守られていくものです。秋には華やかな小屋酒場を催すことにしましょう。そこで多くのみなさんに会えることを楽しみにしています。



サンカヨウ

秋の山小屋酒場

9月25日（土）、26日（日）

予約は9月10日までに事務局へ。

詳細は、後日、個別にお知らせします。

電話 076-222-9288

E-mail settyan-f@muc.biglobe.ne.jp

OB会会計報告

(平成10年12月1日～平成11年6月30日)

《収入の部》

OB会費納入	1,533,360
前田顧問より	10,000
預金利息	312
計	1,543,672

《支出の部》

OB会報(やまざと) No.10 印刷費	231,000
〃 郵送料	151,730
通信費	28,162
写真代	10,252
文具費その他	47,769
計	468,913

《差引剰余金》

前回(10.11.30現在)繰越金	760,478
収入の部	1,543,672
支出の部	468,913
差引合計	1,835,237

*年会費振込みがまだの方に振込用紙が同封されています。

銀行振込の場合は

北陸銀行本店 普通預金 223703

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

まで。 お名前の前に「期」もご記入下さい。

・平成11-15年分をお願いしています。

・年2,000円ですが、できるだけ、5年間一括払いでご協力下さい。

事務局から

事務局長 舟田 節子

シヴィアな数字のお話です。

前回繰越金760,478円中、707,169円は35周年の繰越金です。（会報10号10ページ参照）つまり、5年間の年会費については、5年間でほぼ使いきったということになります。

6年前、創部35周年にOB会設立（実は何回目かの設立）を総会決議したものの、KU WVには、OB会がない実績と伝統の方が横たわっていました。そのため、活動の基盤となる年会費の納入も、どこまでの義務があり、どんなサービスが受けられるか曖昧なままでのお願いとなり、実際、希望・願望の次元のお答えしかできかね^{ない}のが正直な所でもありました。かたやに厳然たる出費をかかえながら、物綺麗に「お願い」以上を越えられない。それでも試行錯誤のうちに、5年間を経過してきました。

35年の歴史、500名近い卒業生の数字以外は不明だらけであり、多少明確さを加えようとすれば世代ギャップにもろにぶつかることにもなりました。

そんなこんなの5年間は、「OB会がなかった時代」の戦後処理に必要な時間だったのだと思います。その間、350余名のOBからの年会費振込を支援とし、「全卒業者」に送付を維持してきました。

ちなみに、会報10号で数字をあげれば、印刷費プラス郵送費は38万円。これを全送付対象者数でわれば一人830円。年会費振込者実数で割れば、1,080円。会報10号はこれまでより割高ですが、これを年2回送付すれば、年2,000円をオーバーしてしまいます。もちろん「会報を薄くしても、年1回にしてでも、全卒業者送付の方が重要」の意見もあります。が、たかが5年、されど5年。戦後は終わったと事務局長は考えています。

全卒業生がOBであり、OB名簿に掲載され、記念行事にも参加できます。会報送付のみ、年会費振込と対応させていく予定です。つまりOB名簿と別に送付リストがあり、そのリストは、事務局長が財布を眺めて棒線を引きしていきます。

なお、棒線については、卒業後数年、海外赴任、同期代表に問い合わせの上など、相応の配慮は加えられています。

また、会報形態については流動的です。今回、かなりをホームページからの打ち出しで構成しました。能率よく、されど、ワングルらしさはにじませたい・・・の試行錯誤をやっています。

研究室

ソ連の崩壊以来、労使関係も従来の資本主義対社会主義の対立から、資本主義対資本主義の関係で考えな

ければならなくなっている。一口に資本主義といっても、福祉を重視するヨーロッパ型の資本主義、市場第一のアメリカ型資本主義、そして権威主義的なアジア型資本主義と、それぞれに違い、労使の力関係や法体系などにも差が

明らかになっている」と意欲を燃やす。昭和六十三年から平成元年にかけて文部省派遣在外研究員として、ドイツ(当時は西ドイツ)のブレーメンに滞在、ベルリンの壁崩壊前後の東西ドイツ、ソ連をつぶさに見て

きた。その体験がドイツ、ロシアに対するそれまで以上の関心の高まりとなって表われ、研究テーマや地域活動に反映されている。地域にあつては石川県ロシア協会の理事長を務め、『イルクーツク・バイカル湖』や『データで見える石川』ロシア語版の刊行、シベリア抑留展の開催など、ロシアとの友好親善に貢献している。また学内では、ワンゲーフオーゲル部の顧問を務める。名前だけの顧問ではなく、現役部員といっしょに二十日の荷物を持つ冬山合宿にも参加する。「年間二十日の山行目標が、忙しくて半分しか達成できないのが残念」という。

専門は労働法。最近ではヨーロッパ、アメリカ、アジアの比較労使関係に注目し、研究テーマとして力を入れている。



金大法学部

前田 達男教授

アジアの労使関係に注目

ある。労働法を分析することから逆に各国の政治・経済システムを解き明かすことができるのではないかと考える。近年は金大にもアジアからの留学生が増えており「彼らのためにも、欧米の先進資本主義システムから何を学び、何を他山の石とするかを

OB一言通信

*松尾 秀邦 元顧問

大出君が逝かれた時はすぐ近くの白峰村で仕事をしており、金沢に所用があって出掛けた時7期村田泰恵に遭難死を聞き、彼女の案内で、大出家に出向きました。ご夫婦共に元気での便りを頂戴していたのですが…。年齢50は若過ぎる…と思える今日にしても若すぎた。

皆様も油断せず御健康でお過ごし下さい。

*田村 昭夫 0期

拝啓 写真ありがとうございました。スキーには私一人参加させていただきます。但し、家族が私と行動を共にすることを嫌った訳ではありません。念の為。

*登内 郁夫 3期

卒業(OBとなって)36年が過ぎ、会社の方も今年からOBの仲間となりました。毎日が日曜日となりましたが、何かと退屈せずに忙しく

過ごしています。

今までは朝早くから通勤ラッシュにもまれて
出社。夜は微薫をおびての帰宅の連続でしたが、
朝はゆっくり寝ておれる為か、夜更しが多くな
り、パソコンに取り組んでおります。

今年は金沢の方へも是非足を伸ばしたく思っ
ています。しかしながら、新しいキャンパスの
方には一度も行ったことがなく、ただ城内にあ
った部室（私達の時にはスポーツセンターの裏）
は現在はないと思いますが、一番思い出が深い
です。

インターネットのホームページ開設とのこと
早速アクセスしてみます。今後ともよろしくお
願い申し上げます。

*大崎 進 6期

平成10年

1月 宝満山（福岡）

3月 高千穂峰、韓国岳（鹿児島）

4月 雁保山（熊本）

5月 御池岳、藤原岳（三重）

9月 九重・黒岳（大分）

肝心の8月八ヶ岳が雨とともに流れた。



*合津 尚 6期

40周年記念「やまざと」を受領しました。懐
かしい顔、ほとんど忘れてしまった人々の再見。
何か心がはずむ思いがしました。暗い話題の多
い今日このごろ、あの様な人生の一時があった
という実感の再確認ができました。

さて、大出さんの事故の記事には何ともつら
い気持ちです。本人もさることながら、家族の
方も今後大変な事と存じます。生ある限り死は
突然訪れます。常に考えるけれど、どうしよ
うもないではないかと開き直って生きてきました。
つい先日一人て近くの山（沢）で転落。同様
な事故になりかけました。他人事ではないので
す、全く。釜石周辺には1350mまでの山々が多
く、週末には良く出掛けます。春になると熊と
の遭遇が気になります。

おわりに、1月17日東京北区のフルマラソン

大会で、3時間50分で完走。これからは二流（
三流ではなく）のマラソンランナーだ！

*澤田 孝雄 7期

前略 OB会報ご送付いただきありがとうございます。
7期連絡員を村田さんに代わり務
めさせていただきます。

7期の会費納付状況を見て、我が期のメンバ
ーの納付状況が立派なのにびっくりしました。
他の期の状況は知るよしもありませんが、メン
バーの性格が出ているように思い、喜ばしく思
いました。未納者とか退会表明者に対しては私
の方から一切連絡等しないつもりでいますので、
ご了承下さい。

ところで私事ですが、姓について訂正をお願い
します。 敬具

*寺本 典生 10期

この三年間、半年―1年で転々と職が変わり
ましたが、どうやらこれで当分腰を落ち着け、
仕事に取り組みそうです。勤務校（三重県立川
越高等学校）は近鉄名古屋本線の伊勢朝日と富
洲原の中間にあり、車窓からよく見える所です。
近々、第二名神が学校の横を通るということで、
夏ころから工事が始まりますが、その筋のOB
がおられましたら、ご協力よろしくお願いしま
す。

ただ、残念なことが一つ。本校には、山岳部、
登山部、もしくはワンゲル部なるものが無いこ
とです。立場上、私が顧問になるから作りまし
ょうといえないことが、かえすがえすも残念。
一人、寂しく休日に鈴鹿の山々をふらつくつも
りです。

*長岡 正利 11期

会報を戴く都度、返信ハガキを出さねばと思
いつつも、ついついそのままとなるのが常なの
で、今回はそうなる前に。

改めて、出版おめでとうございます。ものが
届くと、この存在感・充実感は格別ですね。

拝見しつつ改めて振り返ると、最近は何年1回くらい追悼の辞の類を書いているのに気付きました。昔、白井大先輩から田村さんとおっしゃる雲上人のような大先輩の話を伺ったのがずっと残っていましたが、何となく往時想った風貌にぴったりのような…。「もうすぐ逝く」などとお書きでしたが、存命中(?)にお目にかかっておきたい方のお一人です。人生はもうそう長くもない。

写真が鮮明となったので、随分色々楽しく拝見しました。

*小西 外士郎 12期

4月1日の異動で、秋田県の大館市から南の福島県郡山市に住所が変わりました。いつか、会津磐梯山に登りたいです。

*仁藤 早苗 14期

皆さんお元気でしょうか。40周年記念行事の写真になつかしい顔々。え！とかなるほどと楽しく見させていただきました。又、今回、大出さんがなくなられた事知りました。私が卒業して次の年くらいに、金石の赤地さんの家に正月かな、遊びに行った時、大出さん、松世さんにお会いしたのが最後です。とてもおだやかな人という印象でした。

こちらは四日市のはずれ、鈴鹿山脈の麓です。桑名で寄りましょうとかあったけれど、ここからもすぐ近くです。声かけてくださいね、森川さん。今はハウスのトマトや、鶏が産んだ卵の世話をしています。毎朝、朝日が入道が岳を照らす時がとてもきれいです。では又よろしく。

*松縄 宏 15期

前略御免下さい。幹事御苦勞様です。多難な金融情勢、リストラ勧奨にもガマンして勤務しております。先般ワングルのホームページを見て懐かしく、小屋を訪ねたいとのいよいよ望郷に近いものを感じています。

寒暖の差著しい中、御自愛専一の程、お祈り致します。

*祖父江 直久 15期

今年の15期の同期会のことですが、9月の第2土、日(9/11、12)と内定しました。場所は三重県桑名郡木曾町の本曾岬温泉です。1月に佐野君と偵察に行って温泉につかってきましたが、お湯がよくてポカポカしました。

本曾岬町というと弥富町の隣で、2月9日に不発弾が爆発して有名になりました。当日は何か爆発するか分かりませんが、旅館一軒貸切なので、大いに騒いでも大丈夫です。近くには長島温泉、なばなの里、長良川河口堰といった名所もあります。

佐野君の方から案内が届くと思いますが、15期以外のお近くの人にも是非御参加下さい。

*佐野 哲雄 15期

4月より東京支店勤務となりました。20年ぶりの独身(单身)生活はどうなるのでしょうか？周りからは、羽根を伸ばし過ぎない様にとばかり言われております。東京出張の折りには是非御連絡下さい。

(別便) 通勤時間はちょうど1時間。前とあまり変わらないので、こちらへ来るまでは、自由な時間が増えると思っていましたが、意外に増えませんでした。掃除、洗濯、炊事と19年ぶりの单身生活は、まだペースがつかめません。改めて女房の苦勞と有り難さを知った次第です。

*川端 俊朗 16期

金沢を離れ、いつのまにか23年が経ってしまいました。清水君の原稿を何度も何度も読み返し、思わず涙をおとし、家族に笑われております。今もあの頃の情熱や心根があるかどうか、自分に問い掛けています。それにしても、よく語り、よく飲んだものだと思います。

今年は是非倉谷へも行ってみたいと思っています。皆さんに会えるのを楽しみにしています。

出張中の車中にて

*川村 高弘 17期

2度目の海外勤務をはじめて1年半。今回は子供の学校のため、単身赴任です(U.S.A ピッ

ツバグ)。17期はOB会では全く目立ちませんがEメール通信のおかげで、同期のコミュニケーションは良好です。アメリカ東部出張の折は連絡下さい。

*森 博彦 18期

住所変更をお願い致します。

*横井 恒雄 18期

ようやく春めいてきましたが、いかがお過ごしですか。大変遅くなりましたが、別途、会費を送金致しました。

「やまざと」10号、大変興味深く読ませていただきました。40周年記念行事の様子や、清水氏の「青春の記」は特に面白く、かつなつかしく拝読いたしました。

毎々編集の仕事をしていただいている舟田さんを始めとした事務局のみなさん、ご苦労様です。

昨年末よりメールを配信くださっている奥名新会長殿、いつもありがとうございます。

歌集を見ながらつい口ずさむといったノスタルジックな世界と生涯現役という元気が同居した不思議な世界に心浸るばかりで、活動には参加することもできず、心苦しい気分にもなります。

正月に蓼科ピラタススキー場に行きましたが、八ヶ岳や白峰三山を見るとそそられるものがありました。暖かくなったら甲府周辺に出掛けたいと思っております。

取り敢えず遅くなりましたが、歌集も併せて送っていただいたお礼まで。



*中村 元風 20期

いつもお世話ありがとうございます。楽しく読ませていただいています。

さて、現在山代温泉のホテル百万石の依頼で、日本百名山を百枚の絵皿にするという仕事をしています。現在15枚完成していて、すでに飾ってあります。

正確には百名山を少し入れかえて、ふるさと

百名山とし、里から見た百名山とし、大阪の金剛山や兵庫の六甲山も入れます。医王山も入れてしまいます。

完成は今年中をめどとしています。全国の各地方で、どの山をふるさとの山と思っているかという取材を続けながらの制作で、OBの方に電話でお聞きすることもあるかと思っています。

草々

*竹中 敏 21期

北陸の方はだいぶ雪がきたようですが、いかがですか。

「やまざと」届きました。年会費に関して御配慮いただきましてありがとうございます。

今、通勤電車の中で書いています。左側の窓には、甲斐駒や南アルプス、右側には、八ヶ岳が見えています。それではまた。

*興井 隆 23期

年明け早々、上高地へトレッキングに出掛けました。積雪はまだまだ少なかったのですが、はじめて「スノーシュー」なるものを履いて歩きました。これ、いわゆる西洋カンジキです。カカト部分が開放されているので、和カンジキよりかなり歩き易い。しかし、これ履いていると、バックする時必ずこけてしまいます…。

”前進あるのみ”という人にはお勧めのアイテムです！

*仲村 正一 24期

金沢市内の医王山近く（太陽ヶ丘）に移転しました。こちらに来られたら一度遊びに来て下さい。

*浅井 浩一朗 26期

平成5年ー平成9年ロサンゼルス勤務。

平成9年ー現在オランダ勤務。

近々日本帰国の予定はなくOB会に参加できず残念です。

（事務局注；出産のため帰国中の奥様から電話をいただきました。）

*二木 博子 27期

9月29日、第2子、真依（まい）を出産しました。我が27期も今は出産や育児で大忙しで、なかなかOB会活動に参加できないようです。

本人から連絡があったかもしれませんが、後藤孝志さんの住所変更です。

*米山 亮一 28期

また引越をして住所変更となりました。誠にこそれいりますが、今後は新住所の方に御連絡お願いもうしあげます。

*多久 聡美 31期

転居致しました。



*蒲原 道子 36期

前略 いつもありがとうございます。「やまざと」楽しく読ませてもらいました。主人の追悼山行の事、2ページに渡り大きく載せていただき、本当にありがとうございます。毎年、剣に行ったあとお墓参りに家に寄ってくれます。今では息子、娘がたくさん増えて楽しくしています。

つい最近も、34期のメンバーとスキーに行ってきました。とはいっても、私は十何年ぶりでしたので、足が痛くてたいへんでした。

名古屋の方に来ることがありましたら是非寄って下さい。いつかお会いできる日を楽しみにしています。

またお便りします。よろしくお願いします。

*柴田 祐介 37期

「やまざと10号」落手しました。40周年ではお世話になりました。また、写真までいただきありがとうございました。

*三浦 永士 38期

転勤のため住所変更

*西馬 由岳 38期

三菱電機株式会社に入社しました。会社の寮

は4人部屋でなかなか楽しいです。でも狭いです。トイレだけはきれいです。

実家までは1時間半くらいなので、ちょこちょこ実家に帰るつもりです。ですから「やまざと」は実家へ送って下さい。

以上、近況報告でした。

*小西 陽介 39期

働き始めてから山が遠くなってしまいました。行きたいな、とは思っているものの、休みの日は寝てはせかりです。月に何回も山に行っていた頃が懐かしいです。

払込取扱票中の通信

(5年分です…などは削除してあります。)

*西尾 皓史 3期

いつもOB会のお世話頂き、有り難うございます。今後ともよろしく願います。

*北 正昭 3期

5月の連休後に、3期のOBが30数年ぶりに医王山に集い、散策の後、白峰の湯に浸り、楽しい2日間を過ごしました。3人のOGを含め総勢11名が、それなりに年輪を重ねた顔のことは忘れ、夜遅くまでワイワイやっていました。来年は春に立山のつもりです。詳細は西尾君より届くことでしょう。

*金岩 孜 5期

いつもお世話になりありがとうございます。

*亀田 武 5期

画番号、霊番号が次のとおりとなりました。

*久島 俊也・洋子 5期・6期

やまざと会報10号 楽しく読ませていただきました。なつかしいあの顔、顔、顔…。学生時代、憧れていたあの先輩も、それなりに年を経て。今度又チャンスがあったら是非参加したいです。とりあえず1万円送ります。これでしば

らく会費納入の脅迫から解放されるのではと思いますが…。ただ今、俊也は東京単身赴任中。私、洋子は毎日のんびり近くの山の散策を楽しんでいます。

*池田 進 6期

ご苦勞様です。どうかよろしく。

*中川 皓三郎 6期

いつもお世話になりありがとうございます。

*穴田 昭一 8期

遅くなりましたがよろしくお願ひします。

*小谷 太平 8期

御苦勞様です。また会える日を楽しみにしています。

*大石 由美子 9期

いつもありがとうございます。



*白井 勇 9期

会報ありがとう。楽しく、懐かしく、そして悲しい10号でした。

*石田 清久 11期

大峰山には毎年登っていますが、もう一度山小屋、白山へ行ってみたい。大出君が亡くなったとのこと、びっくりしました。

*加藤 忠好 11期

毎度お世話になっております。冊子の方、愉快に読ませて頂きました。特に家内が喜んで、会員以上に楽しんでいましたので、この会費は家内の負担という事になりました。楽しい会の御蔭です。スキーどうでしたか？来年は行けるかと思っています。

*小西 外士郎 12期

4月1日転勤で住所変更となりました。

*野村 益己 12期

4月24日以後、大阪方面へ転宅します。転宅先は未定です。

*清家 雅幸 14期

大出さんの訃報を知り、誠に残念でなりません。新入部員にとって3年生は”雲の上の人”と言われたものですが、大出さんはそのような感じのしない温和な人でした。心よりご冥福をお祈りいたします。OB会費遅れまして申し訳ありません。

*坂尻 忠秀 15期

やまざと10号ありがとうございます。OB会のこれまでの5年間をうけて、さらに着実に発展していくことを祈ります。地元OBとしてできるだけ協力していきたいと思います。(いつも原稿を出さなくてゴメンナサイ)

*川端 俊郎 16期

OB会を運営していただいています事務局や現役諸氏に感謝しています。お役に立てずすみません。今年あたり是非Berkheimへ行ってみようと思っています。その折りはよろしく。

*小島 敬・幸子 17期

会費の振込がたいへん遅くなりまして申し訳ありません。今後ともよろしくお願ひ致します。

*渡辺 和文 17期

OB会のお世話ありがとうございます。近々小生も電腦化します。

*堤 善明 18期

お世話になります。よろしくお願ひ致します。

*横井 恒雄 18期

毎々御苦勞様です。遅れましたがOB会費を送らせていただきます。

*佐野 吏 19期

E-メールアドレスを下記に変更して下さい。

*河嶋 敏郎・京子 20期・21期

いつもお世話にばかりなって、申し訳なく思っています。今後ともよろしくお願いします。

*谷井 陽呂子 20期

いつもありがとうございます。

*中村 元風 20期

いつもありがとうございます。なつかしく、楽しく読ませていただいています。

*鈴木 康之 23期

住所等変わりました。

*荒戸 美雅 25期

山歩きはほとんどできませんが、仕事ではよく歩きます。頑張ってください。

*酒井 教雄 26期

98年12月に住所変更しました。

*益川 珠美代 26期

OB番号をわざわざ全員分書いて下さるなんて、大変な手間じゃありませんか？自分の番号を必ず本人に書いてもらうようにしては。アッ私も。

*山口 雪枝 26期

2月12日に3人目、男の子が産まれ「あきら（亮）」と名付けました。名付け親は、長男の康太郎です。（漢字は親があてました。）

振込遅くなってすみません。

*山田 健治 30期

遅くなりまして申し訳ありませんでした。今後ともよろしくお願いいたします。

*石川 明弘 36期

舟田さんもE-mailアドレスとうとう取得。電子化の波ですな。

*樫村 美智子 36期

いつもありがとうございます。何か手伝えることがありましたら御連絡下さい。

*蒲原 新太郎 36期

大変遅くなって申し訳ございません。今年もよろしくおねがいします。

(大笠山をめざして)



E-Mail 便り

「落書帳復活！」の夢が現実になりました。パソコンを敬遠される方もあるでしょうが、インターネットに限れば、簡便な機種もあります。偉そうなことは言えませんが、まあ道具です。昔の説明書と今のを比べると、固有名詞が普通名詞になってしまっているというか、常識のようにカタカナ語が並んでいて、ほどほどに使い始めてみられた方がベターとも思います。

とはいえ、HPの様式が変更されてから、私の文豪JX-S500には右端が写らなくなってしまいました。どうすりゃいいんべ・・・と思いながらほかっておいたら、奥名さんに打ち出してもらった原稿の一部がやはり右端が切れて届きました。どうやらこれで対処がわかったというか・・・どのみち奥名さんの所しか頼れないのです。

右端の穴埋めを考えましたが、私の国語コンピューターでは無理でした。よって以下の方、右端5文字ほどが切れたままで掲載されています。ご容赦下さい。

11期森川様 15期上馬様、坂尻様、松林様 17期川村様、小島様
18期井上様、大西様、横井様 21期竹中様 26期畠山様
33期寺島様 36期石川様

FROM: 前田達男 <maeda330@kenroku.kanazawa-u.ac.jp>

SUB: Thank you for "YAMAZATO" vol. 10

ワンゲル顧問の前田です。

「やまざと」第10号 受け取りました。ご送付有り難うございました。

振替口座の番号もどこかに書いてあると、会費相当分振り込みます。

銀行だと開店時間を待って出かけなければなりませんが、郵便局は角間移転の際に招致したので、生協に出かけたついでにでも用を足せます。

“Now”は公式ホームページ専門委員会が直接管理しているコーナーです。ホームページを金沢大学の「営業戦略」として位置づけ、学生諸君の自発的な活躍ぶりや卒業生の皆さんとの対話、金沢大学の近況などを伝えていくことによって、城のない金沢大学の地盤低下を防ぎ、金沢大学をおおいに売り出していこう。こういう意図で出発したのですが、なかなか趣旨が浸透せず、特に「営業部」（＝学生部）の意識改革がネックとなっています。ワンダーフォーゲル部にたどり着くには、トップ頁（キャンパスライフ）⇒楽しむ⇒サークル紹介（体育系サークル）⇒ワンダーフォーゲル部とたどらなければなりません。★をつけて自主ホームページの存在を示すなど、委員会の方で多少の改善の手も加えていますが、あまりのまだるっこさに当面の策として“NOW”を利用しているという次第です。

前田達男 金沢大学法学部

920-1192 金沢市角間町

Tatsuo MAEDA Faculty of Law Kanazawa University

Kakumamachi, Kanazawa 920-1192 Japan

E-mail: maeda330@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

Tel: +81-76-264-5379

Fax: +81-76-234-4067 / +81-76-264-5405 -13-

3期 登内 郁夫

99年2月15日

“やまざと”第10号、有難うございました。
金沢の方は大雪とのことですが如何でしょうか？
こちら千葉県野田市は寒いですが、今冬は雪はまだ見ません。

定年後は野田と郷里の信州伊那との行き来で、耕雨読、時折酒
とあっていましたが、寒日炬燵暖日散歩、毎晩晩酌時折図書館
といった日々です

8期 篠島 益夫

99年5月10日

いつもKUWVや金沢の近況連絡頂き有り難うございます。

行事にも出たいのですが、折角の機会も今までは全部参加出来ていませんが、その
後のベルクハイムで記事を見て楽しさ、懐かしさを想像しております。

それでも、今も自分のワンゲルを思い出した様につずけております。

この5月8日の土曜日も四国の剣山に家内と登りました。ひさしぶりの2000
メートル級でしたが、

中・四国では少ない白樺林を抜けての歩きは山らしい雰囲気味わう事が出来まし
た。

剣山は名前とは大違いの女性的な山容の山で白山周辺の山のイメージを思い出しま
した。

これを契機に、大山、蒜山、四国のイシズチ山を今年のターゲットに見ようと
思っています。

8期 山村 嘉一

98年07月17日

OB会のお世話本当にご苦労様です。
小生も遅れ馳せながら電子メールをやり始めて、年賀状にアドレスのあった人にメールを
出したら、さっそく吉田幸造君が返事をくれました。

さらに、今日帰宅したら「やまざと」が届いていて、吉田君の第二便に貴君のメールアドレス
があって取り急ぎお便りいたしました。
OB会の世話は本当に大変だとお察しいたします。
よろしく願いいたします。では、いずれまた。

98年11月27日

いつもメールありがとうございます。読むたびに返事をするのですが、つつい(ワンゲル
人の典型的な欠点!)……で、
スキー場便りが気になる頃になっての秋山の話です。10月3～4日、家内と二人で、白山の
南麓でテントに泊り、別山から千振尾根を市ノ
瀬に
下るといふ、自分にしては超ロングコースをやってきました。テントは二人で超高級ホテル
に泊ったつもりで、ゴアテックスの2～3人用を
買いました。ついでにゴアのスーツも、でも年のせいで寒くて熟睡はできませんでした。幸
いかな天気は絶好で、眺望もベストで、
久々に素晴らしい山行き(こんな言葉を使うのは気恥ずかしいのですが)でした。
パソコンの習熟度が一向に進まず、メールもなかなか手軽にホイホイという訳にはいきま
せんが、いずれまた……。

Re: ワンゲルOB通信 スキ-mailbox:/C%7C/Program%20Files/Netsc...87@infosys.nttdocomo.co.jp&number=7

Subject: Re: ワンゲルOB通信 スキ-へのお誘い
Date: Tue, 12 Jan 1999 16:40:48 +0900
From: 伊藤 俊成 <tito@infosys.nttdocomo.co.jp>
To: ma-okuna@pa2.so-net.ne.jp

9期の伊藤俊成です。

金沢もすっかり雪国らしくなったとのこと、
心踊り、かつ心休まる感じがするのは金沢生まれのせいでしょうか。

私がまだ高校生だった38年の豪雪を今思い出しています。

- ・あちこちで屋根雪を降ろしていたこと
- ・私も屋根に上って活躍したこと
- ・スコップの雪を自分の身長よりも高く投げ上げねばならなかったこと
- ・堅町商店街の通路が2階の高さになっていたこと
- ・桜橋の欄干がはずされトラックが雪捨てしていたこと
- ・.....

そういえばワングル時代は近郊にスキー場がなかった（獅子吼、大倉岳、白峰程度）ため、見上峠や医王山さらには卯辰山や大乗寺山でもスキーをしていたから、そのころは金沢も相應の雪があったということでしょうね。

さてご案内いただきました「OBスキー」の件ですが
今年はぜひ参加したいと思っております。（今のところですが・・・）
よろしく願いいたします。（温泉と雪見酒だけになるかも）

ついでに、スキー合宿といえば必ず思い出すことの「その1」

- ・私が2年生の1月、所は山の坊スキー合宿（懐かしい人は古い人）
 - ・その初日、スキーも初めての1年生のT君が足を骨折
 - ・スノーボードで平岩の駅まで（引っ張ったのは救急隊？）
 - ・3年生のFさんと糸魚川の病院でレントゲン、確かに、見事に骨折
 - ・ギブスをはめ金沢のT君の下宿まで連行
 - ・T君はワングルでも有数の偉丈夫、肩を貸しながらの移動だが足がつっかえて難航
 - ・駅の階段が特につらかったなー
 - ・そういえばあの時初めて2等車に乗ったっけ（3等車のある時代）
 - ・尻のポケットにはみんなの合宿費用（の一部だが大金）
 - ・翌日再び山の坊へ、とても良い天気だった
- そういえばT君、今はなにをしているやら・・・

伊 藤 俊 成

NTT移動通信網株式会社
情報システム部 ビジネス企画第二担当
〒135-0061 東京都江東区豊洲5-4-9 KR豊洲5F
Tel 03-3532-6585
Fax 03-3532-6668

9 期 伊 藤 俊 成

98年03月01日

OBスキー合宿ではお世話になりました。

ピーカンの最終日、後ろ髪を引かれる思いで野沢温泉を後にしました。
ちょっと時間があつたのでスキー博物館にまで足をのばし教養を着けてまいりました。
でも解らないことがあっても質問しないで下さい。

またお会いしましょう。

98年04月28日

素晴らしい写真をありがとう。
都会？の雑然さに免疫となつてしまった身には何となくホッとするというか、心に一時の安らぎを与えてもらった気がしました。

いよいよ明日からGW・・・
その前哨戦かディズニーランド（舞浜駅）を経由する我が通勤電車も、いつも以上に若者の熱気であふれかえていました。

私のGWは30日に休みを取り久しぶりの大型7連休。
自然との接点はゴルフ程度、あとは出たとこ勝負のだらしなさ・・・
ゆったりと心と体のリフレッシュにあてたいと考えています。

お元気で！

99年05月26日

9期の伊藤俊成です。
元気でやっていますか？

すぐに報告しようと思いつつももう一週間前のこととなりました。
9期保田敦君の歓迎会を名目に仲間が集まり、非常にささやかな
「飲み会」を敢行しましたので報告します。

1. 実施した日: 5月19日(水) 18時ごろより21時前ごろまで
2. 集まった人: 9期 伊藤博道、清水一、鍋島武、保田敦
吉田洋次郎、そして小生
11期 青柳健二
3. 集まった場所: 一応は港区赤坂の某所
4. 飲んだ量: 健康を考慮して常識的
もともと会社で何かあったのか「しこたま飲むぞ！」と
宣言した男もいたが良識が邪魔をするようで……
5. 話した中身: あんまり覚えていないが
 - 景気問題: さすがに酔う前は時節柄か決算状況の情報交換
 - 単身赴任: H君の場合は寮母さんが顔を見てから夕食を暖めてくれるそうで
自宅のとき以上に快適とか？(奥様ゴメンね)
 - スキー: A君と小生が参加したOBスキー合宿の話は盛り上がり無し
一応来年は都合をつけて皆で温泉行とするかなんてことになったが……
N君はスキーなど最初はちっとも面白くなかったそうだ。
2年の暮から正月にかけてスキー合宿前の八方尾根等のスキー行で
やっと面白いと感じたとか(初めて知りました)
そう言えばHリーダはじめ、あの時のメンバのうち一人を除きここに
揃った
ことになるね。思い出話に花が咲きました。
(長野オリンピックの女子滑降のスタート地点あたりにテントを張って、
スキーに興じ？、正月を越したパーワン)
 - 離婚問題: ワンゲルではまだ離婚話を聞かないが、それはワンゲル活動を通じて
忍耐を学んだからだとの結論
娘をもつ某君は早速、婿はワンゲル出身者にしようとの決心
 - 頭の毛: 昔と変わらぬ人が多い
養毛剤でも育毛剤でもない発毛剤「リアップ」を必要とする人はここには
いないねと皆でなぜか納得
 - 三悪筆: 脱サラで〇〇士を目指すS君、肉筆が必須なのに大丈夫かな？
そういえば9期には有名な三悪筆がいましたね、せっかくノートを借りても
判読困難だったよな、でも3人とも頭はよかった(みんな大学院)
 - パソコン: メールの添付文書から発展して、2000年問題、プロバイダ、INSネット
等々時代を反映、みんな苦労してます
6. おわりに:
まだまだいろいろ話したが、とにかく楽しかった。特に保田君とは20数年振りという
人も多かったが、とてもそんな感じはしなかった。すぐにワンゲル時代に戻れるのは
どう言うことなのだろうか。でもとっても素敵なことであることには間違いない。
大切にしよう。
とりあえず7月にゴルフをすることで散会、今年は秋口にもう一度集まる機会を作る
こととするか……

9期 保田 敦

99年03月04日

OBスキー合宿のあった週末から3日まで北海道に娘とスキー
に行ってきた。

帯広を起点にし、サホロと富良野で粉雪の新雪を十分楽しみました。

気づいた事を二つ下記します。

山と同じく、利用客に中年の男女が多い事。但しボーダーは若い人。
人が少なく、コースに我々のみが度々あり。不景気の影響か？
おかげで高速ターンと新雪を堪能しました。

2月28日の日曜日は地吹雪がひどく帯広で沈殿していましたが、
野沢はどうでしたか？来年は合宿に参加したく思っています。

99年03月10日

来年のOBスキー合宿は是非参加したいと思いますが、
スキーの足(?)並みの方は若いときには滑れません。
約3年間に11期の森川氏と白馬で一緒にしましたが、彼の後ろについていくのが
やっとでした。

では又お会いできる日を楽しみに。

99年04月15日

HPの運営ご苦労さまです。
この度名古屋から東京に転勤になりました。東京は単身赴任で、約20年ぶりの東京生活です。
電子メールの宛先は変わりませんので東京在住のOBの皆様よろしく。

9期 山中 重夫

99年02月12日

40周年の会誌と歌集送付ありがとうございました。
特に歌集は、歌を忘れたカナリヤには、ありがたかったです。
その内CDでも出していただければ、更に有り難いです。
当方も百名山のうち59山を終了し、今年は、北海道に挑戦する予定です。

99年5月25日

5月の連休に四国の剣山、5月15日に九州の開聞岳に登りました。百名山は、61山になりました。
8期の篠島さんも剣に登られたとの便りをみてレターしました。

11期 青柳 健二

99年xx月xx日

野沢でのスキーから1週間たちましたが、皆さんお元気ですか。
土日メリストなので、ご挨拶おくれましたが、
楽しいスキーをありがとう。そしてごくろうさまでした。
久しぶりに、強風降雪の中でのスキーと翌日の新雪の中での
爽快な滑降。良かったなー！。外湯にも4回入ったし、宿の料理も
上手かった、教祖さまを交えての酒宴・茶宴もいつものながらのkuwu
の醍醐味でした。
私のスキーとは言えば、無理して夜行バスで入ったのがたつたのか
もう一つ調子に乗れないスキーでした。スキーの性能ではカバーできぬ
体力の衰えを、ちょっと感じてしまいました。
今シーズン、もう一回滑りたいと、スケジュール／場所を検討している
ところです。(ああ金沢の人がうらやましい。)

では、来年もまたよろしく、お願いします。

99年04月04日

お元気ですか
武蔵野・新座は、春の盛りです。
日曜日の今日は、カメラを手に自転車で武蔵野の春の探索を楽しみました。
目的は、お花見の定番桜ともう一つ、北向きの傾斜面に咲く可憐な花そう「かたくり」の花。
ここの一週間、冷え込んだ日が続いて、この日曜日に共に満開を迎えて、見事に咲きそろって
いました。
ルートは、自宅近くの駐車場裏(かたくり)、新座墓苑(桜・かたくり)、本多緑道(桜)
和光森林公園(桜)、大泉の清水山公園(かたくり・桜)
11時に家を出て、途中のはお花見どころで、屋台のやしそばで昼ご飯。後は、桜の
花をめぐって一回り。自転車で、ゆっくり花見を楽しんで、3時間弱のコースです。
ところが、思わぬおまけが付いたのだった。からの間に、あるのが自衛隊の朝霞駐屯地
ここが、市民解放日だったんです。入る機会がめったに無い場所。よしや！と入ったら、これが
面白い。中は、桜の樹も多く、花見気分もたっぷり。イベント開場は、「団子3兄弟」のちびっこ
のど自慢。そして、圧巻は、装備陳列で、戦車・大砲・ミサイル・バツカ砲・機関銃・ピストル
と並んでいたのだ。
でも、戦車は、ホンモノなんだが、なぜかオモチャに見えて、今、ユーゴでは戦争中なんだが、
日本の軍隊がこれで良いのかと。先の日本海の捕物でも、逃げられちゃう訳だわなーと。
だけど、出店には、面白いものが格安で出ていて、しっかり得した気分になっちゃたのだから
私も軟になったものです。30年まえ、冬の雷で自衛隊機が墜落し、小松基地反対のデモに
参加した、金大ノンセクトラジカル闘志も衰えたりか。
さて、平和な日本の春をたっぷり楽しんだ一日でしたが、我が街の隠れた自慢が、「かたくり」の
花なんです。大泉の清水山公園が、この近くでは有名で、見物客もいっぱいでした。
新座墓苑には、黒目川の斜面林があり、市で保護しています。
でも、一番見事な群落は、我が家近くの高橋さん家の駐車場裏の斜面林で、隠れた名所なんだ。
今年もしっかり咲いてくれました。実際、この近くは、農家の地主の相続税対策で、こんな雑木林
が、どんどんミニ住宅に変わってしまうんです。いつこの花が消えてしまうか心配なんだ。
でも、この地に住んで、20年。しっかり生き延びてくれているんです。高橋さん家のおじいちゃん
が元気な間は、大丈夫なんだ。おじいちゃん元気で長生きして下さい。そしてこのかたくりの林も
と祈っているんです。
かたくりは、北向きの清水が湧き出る斜面にしか咲かないと言われる。そして、採って植え替えて
も決して定着しないそう。そして、種子から花が咲くの7年もかかるそうです。
3月中旬から芽が出て、桜の咲く頃に開花し、1週間程度が見頃。その後結実期に入り、5月
中旬には葉も枯れて地表から姿を消してしまうんです。1年のうち、かたくりが地表に姿を見せる
のは3ヶ月程度なんだ。
練馬区作成のパンフレットの受け売りですが、こんな話を聞くと、この花がいつそう可憐で
いとおしく感じませんか。
予定の時間を大きく過ぎて、最後にまた、このかたくりの林にもどって、なにか平和で、幸な
気持ちになって、我が愛機ミノルタα707を、可憐な花に向けたのでした。

99年4月4日 1101 青柳 健二

99年04月10日

1週間たって、東京・南埼玉の桜は3分散り、今日は午後から雨となり、桜吹雪が雨に濡れています。金沢は、今が桜の盛りでしょう。兼六園の、そして石川門とその下の公園の桜も満開でしょう。

桜とは、不思議な花。日本人は、誰もがこの花の開花で春の到来を実感し、気持ちが華やぎうきうき気分になるものです。そして、その花が、あっさり散り、青葉がしげりだすのを見て、新しいエネルギーが自分の身体の中からも湧き出てくるような気持ちになってくるのです。よし、今年は〇〇に挑戦してやろう。そんな、1つの決心をしたくなるのだ。日本の学校の入学式・新学期が、4月であるのは、やはり意味があると言えましょう。

さて、私としては、どうしてやろうか。テレビで、96歳の大学新入生の話をしていた。歌川なにがしという浮世絵師とのこと。それに比べれば、まだ私も若い。

よし、なにか新しい勉強でも始めよう。

と決心しても、現実には、マスターズのゴルフが気になるし、松坂君の野球も気になる。

そして、さしせまっては、5月の5連休をどうしようか。まだ予定が決まっていない。

舟田の節ちゃんからのたよりでは、雪の上にいるでしょうとのこと。ああうらやましい。

さあ、どうしたものか。

では、また。

11期 加藤 忠好

99年06月03日 今年の5月8日の写真です



標高2900m宝剣岳付近です。

体力に全く自信のない私でしたが、通勤用のジョギングシューズを履いて千畳敷までロープウェイでしたが、

高校時代の悪友が山靴を2足持ってくるものだから、おまけにスパッツも持ってくるものだからつい、フラフラとそれを履いてしまった。

お陰で、昔が蘇り、300mの雪面を登ってしまった。心臓と足の筋肉がびっくりしていたが、時間をかけてここまで来た。

登れば、ガイド並のポーズはとれる。経験の有難さよ。

というわけだ。ビックリした??

11期 上村 人史

99年03月05日

スキー合宿ではお世話になりました。去年に引き続き、今年も参加させていただきました。スキーの方は日頃の運動不足がたたってか不調でしたが、皆さんとお会いできて楽しかった。それに、間所さんのお子さんたちがかわいかった。

また来年もよろしく。

船田さん、OBスキー合宿の写真、ありがとうございました。

請求のありました「やまざと」の原稿を送ります。

さて、森川氏から「次の原稿を早く書けよ」と言われていましたが、さて気にもとめずにいたところ、恐怖の赤ペンが同封されていました。いつまでも延ばし延ばしにしているのは船田さんに申し訳なく、森川氏の陰謀にはまることにします。

以下の文章の舞台は故郷の高鷲村です。私が親しくしている方の活動の紹介の形で故郷に起こっている問題の一つを紹介します。なお、この文章は久米繊維工業グループの社長が発行するメールマガジンで紹介され、Nifty常務の京増さんにも転送され、富士通関係者に配布されたことがありますので、関係者は目にしたことがあるかもしれません。

板橋分水嶺

岐阜県と福井県の県境には白山連邦の大日岳という山があります。この山からは長良川・庄川・九頭竜川の流れが始まっています。長良川は愛知県に、庄川は富山県に、九頭竜川は福井県にと、分水嶺になっています。この山から分水嶺沿いに東に下ると板橋分水嶺です。ここは湿原地帯となっており、日本海側と太平洋側の境界がはっきりしません。このような場合は、分水界と呼ぶのが正しいのですが、習慣的に呼ばれる分水嶺の方が相応しいように思われます。「山の両斜面に降った雨は伏流水となってここへ湧き出てきます。ここは雨が降ると池のようになったそうです。その時期は、ここで日本海と太平洋の魚が交流できたんですよ。」村の植物園の西村由紀さんはこのように説明してくれました。

彼女は'97.4に高鷲村の教育委員会に就職した若い植物生態学者です。村に来てすぐに、この板橋分水嶺は東海北陸道建設工事による埋め立てが始まりました。彼女は就職するとすぐに湿原の植物の移植を始めました。全国からボランティアが集まり、移植を手伝ってくれました。もちろん、村人も建設工事の人も手伝ってくれました。運んだ量は軽トラックで50回程になったそうです。'97.9にこの湿原は、ほぼ消滅してしまいました。この時点からは、工事で場所がなくなるまで1人で作業を続けていくことにしたそうです。大勢の力を借りる人海戦術的作業は、もう少ないからです。また、組織されていないボランティアの受け入れは、連絡、宿泊の手配、お礼など、それだけでも大きな負担になるのです。

今まで多くの学者がこの地に来て、湿原植物は貴重だから保護するようにと指摘していったとのこと。水芭蕉などは観光資源としての保護はされましたが、他の植物まで積極的に保護しようという村民は現れませんでした。都会に住んでいながらそのようなことを言っても、共感を呼ばなかったようです。しかし、彼女の文字通りの泥をかぶった作業に、「そんなに一生懸命になるほど貴重な物なのか」と感じてくれているようです。との彼女の言葉にもあるように、少しずつみんなの気持ちを動かしつつあります。中学生環境サミットのセミナーでの彼女の説明の後「本気で私も木を植えた男になりたいと思う」と主催者の一人である建設会社の社長がメーリングリストで発言していました。彼女こそ高鷲村の「木を植えた男」かもしれません。

私も9月6日に初めて移植に参加してみて、どんな作業かを実感できました。雨の中での作業だったので、終わった後は震えながら帰りました。後から気が付いたのですが、草の葉で擦り傷だらけになっていました。8月中頃には彼女の左手はかぶれていました。かぶれたときは顔も体もひどかったそうです。そんなにまで続けてきたからこそ、農作業や土木作業などの労働に慣れた村の人たちも心を動かされたのでしょう。私が参加した時には、村では建設会社社長、役場職員、診療所医師、ゴルフ練習場オーナー、ホテル経営者、教員などが泥にまみれて一緒に作業をしていました。

彼女の自然保護はこうに、声高に叫ぶのでもなく、自ら体を動かす活動です。少しずつ理解者が増えていきます。わずかな期間ですが、今では多くの彼女のファンがいます。高鷲村の少し南に大和町という町があり、そこに古今伝授の里という博物館があります。その館長もその一人です。10年前のバブルの頃の箱物行政の最中に精神文化による地域振興を提唱し、ほとんどの人からの反対を乗り越えてフィールドミュージアムを実践してきた人です。実践してきた者同士だけがわかりあえる共感があるのではないのでしょうか。

なお、板橋湿原は消滅しましたが、彼女の守るひるがの湿原はまだ残っています。長良川の源流の地にスキーやゴルフやテニスなどで訪れる予定のある方は彼女のホームページを一度ご覧になって下さい。そして、ひるがの植物園を訪れてみて下さい。自然に対する優しさが感じられることと思います。ひるがの植物園 <http://www.takasu.org/plants>

--- 西村さんの「ひるがの湿原に咲く花」より引用 ---

昭和の初めまでは、日本で有数の面積を持つ南限の高層湿原が、ひるがの高原のほぼ全域に広がっていました。今では、その5%も残っていません。何千年もの昔からここに生き続けてきた湿原の花たちも、絶滅に瀕しています。湿原の花たちはとても繊細で、移植しても長く生き残っていくことは難しいのです。天然記念物や保護地に指定されている湿原はわずかで、その他にも貴重な湿原植物の自生地があります。そこが指定地でも指定地外でも、そこに生きている花にとっては最後のすみかです。これ以上追い詰められることのないように願います。花は、あなたのためにではなく、自分の子供を残すために必死で咲いています。花をむやみに手折ったり掘り取ったり、決してしないで下さい。また、そのような人を見かけたら、その花のために勇気を持って注意してあげてください。

=====

最後に引用した「ひるがの湿原に咲く花」はA4版カラープリンター出力全6枚で、2枚ずつ表裏あわせてラミネート加工を施したひるがの湿原植物69種の花暦と50種についての写真と解説です。皆さんに紹介したいのですが、残念ながら文章にできませんでした。以下の事情によるものです。

これは現地で人気が高まってきて、学校から大量注文を受けるなど、大変な状況になってきました。印字速度が一番の原因なのですが、1.彼女が睡眠不足になる 2.パソコンが占有されメールが来なくなる 3.僻地のためインク切れ時は岐阜まで買い出しが必要 4.意外に費用がかかる と大きな負担がかかっているようです。

上村人史<kami@nsk.org>

故郷の長良川、庄川、九頭竜川流域に広域コミュニティ <http://www.nsk.org/>
NPOのためのインターネットツール <http://www.nsk.org/db/>

11期 長岡 正利

99年04月21日

過日、きさらぎ2月の声とともに、OB会誌が届きました。一段と厚く、懐かしい皆さんの(年を経た)顔写真が見易くなっており、改めて、孤軍奮闘の舟田事務局長様には挟み込みハガキにて、発行お祝い申し上げようと思いつつも、取りあえずメールにて。

この休日、今冬一番の冷え込みです。昨夜遅くに勤務先から車で戻る途上、突然の吹雪に包まれ、久々に、飛び交う雪片の感覚を味わいました。冬型気圧配置のもとでは晴れ上がるこの地(関東やや北部)でも、寒気の吹き出しが強くなると、風向きによっては、千曲川上流域から高崎さらに筑波方面へと、細く雪雲の道が出来るようです。

しかし、日の出とともに、陽射しの強さはやはり春そのものの。

今年は、近年には珍しく北陸からの時折の雪だよりなどあるものの、こちらでは、この地に移って20数年間での一番の暖冬傾向。年末から咲き始めた水仙はもう終わりに近く、北陸の残雪期の山々に咲くマンサクもだいふ花を付けています。昔、白山麓から小さいのを移した山桜もつぼみが膨らみ、このところの強い陽射しに誘われるかのように、数羽のメジロがよく訪れるようになりました。

午後になって、梢を鳴らす寒風の中で次々と広がりはじめた乱れた雲からは、刷毛で掃いたように、降雪が碧空に滲むように広がってはいるものの地上までは達せず、夕暮れとともに空は再び冷たく晴れ上がって、夕映えの中で関東平野を隔てて見る富士山のシルエットが実に見事でした。

実家(富山県の山より)に電話すると、昨夜からまたも50cm位の雪との由。しかし、寒風強しとはいえ、今日見た空の色、この陽射し、確実に春は進みつつあるようです。

さかのぼって数日前、今回の寒波の先触れとなった雨模様の朝方、戸口から外を覗くと、裏日本での時雨・雪模様の日の匂いが感じられました。他の人へは何とも説明し難いのですが、この地では一冬に数回だけ、ふと瞬時に感じることもある、紛れもない冬の匂い。

湿った雪と長靴の底からの冷え込み。北陸のあの積雪の感覚がふと思い浮かびました。

つついとい長くなりました。では、また時間のあるときに、気まぐれなメール差し上げます。

(Niftyにご加入の方があれば、山の展望と地図の、「FYAMAP」フォーラムを是非ご覧下さい。貴重な知識・楽しい話題がいっぱいです。)

99年4月21日

慌ただしくてゆとりもない中で、狭い庭先での自然の変化と、天気図から、白山麓の季節の移り変わりなどを想ったりしています。

OB通信とその後のご連絡、ありがとうございました。行きたいという願望のみ、取り敢えずお伝えしておきます。5月下旬のその頃は、小屋への手前の道筋では、タニウツギの花が満開だったことを記憶しています。

昨日の日曜も、午後は雨。

今年は、桜見に好天が合致せぬまま、今は八重桜の季節となり、このところ、緑が急に目立っています。兼六園の菊桜の満開も近いことでしょう。昔は、あの花を見ても何とも思わなかったものですが。

雨ごとに思わぬ緑の増加。先週は、サンショの新芽をとうふに乗せて春の匂い。昨日はようやく出始めたウドを捜してきて、夜はその天ぷら。春はいいですね。

11期 森川 功

99年03月22日

御元気ですか？今3/22、20:30分です。
3/20~22と青柳、小山両氏と21世紀に向けて、
11期スキー合宿を志賀高原でやってきました。
生憎の天候で、ゴンドラは全然乗れず、春スキーの積もりが、
真冬なみの寒さ、やはり、合宿は厳しいですね？
未練たらたら、青柳氏は22日もう1泊して、
23日に再度、焼額ゴンドラに挑戦予定。
小山氏は来週日帰りで、晴れたら八方尾根とのこと。
同期ながら、この中年パワーには頭が下がります。

99年04月01日

夕日寺自然園どこですか？
石川百低山といい、金沢に6年いた私が知らない所が多いですね！
私も散歩と言うか歩く事が好きで、野田山、刑務所、卯辰山、美大等よくブラブラしたものです。
卒業してから加藤忠好君の家(東長江)に泊めてもらい
二人で工学部まで地図を片手に歩いた。

新しい出会いは少なくなったが、新しい発見はあるものです。
OBスキーやパソコンで奥名君と親しくなったり、
青柳氏がこの年になってから、スキーが上手くなったり、
40周年で井上夫妻の家に泊まり、井上夫妻の下娘さんと知り合いになり、
スイスから、年賀状をもらったり……

でも、一つ言える事は、自分から行動を起こさなければ
何もないということです。

ベルクハイムのお誘いいただいたが、
5月は立山へスキーに連れて行ってくれと、
小山氏を口説いているところですよ。
でも、9月の祖父江君の別荘には参加させてもらうつもりです。
事務局長了解済みです。よろしく！

99年05月07日

5月5日、ゴールデンウィークも終わりです。
みなさん、いかがお過ごしでしたかな？
名ガイドに恵まれ、好天にも恵まれ、32年ぶりに立山春スキーを楽しんできました。
それも、2日も続けて一ノ越から御山谷を滑走するという幸運に恵まれました。
本当に幸運としか言いようがない。名ガイドに感謝！感謝！
5月1日朝、名古屋を出て高山線経由で、高岡へ。
連休初日なのに、列車は空いている。
途中予定通り飛騨古川下車、ここで、まるまる太った「コイ」が泳いでいるを見て今日から皕月を実感。
山樵館、まつり会館、文化館等を見学。文化館では「体験と遊び」のコーナーで千鳥格子を分解して、
再び組んでみるのをトライしたが、なかなか組めず、もう1組バラシてみたが、組めず。
ついに、ギブアップ。係りの人に組んでもらう始末。後で聞いたらそれぞれ、少しずつ異なっていると、
一度この知恵の組木に挑戦することをお勧めします。ここで、酒を購入、宅急便で我が家へ。味見は

再び高山線に乗り富山経由高岡19時下車。
人込みを掻き分け御車山祭の山車のライトアップを見学(ガイドの指示)。
祭は18時で終了するが、18:30~20時展示ライトアップされている。山車は7台あり、1台はからくいた。山車には「前田家の紋」があり、再度ビックリ、20時駅で小山氏とランデブーに成功。
(小山氏は5/1は仕事。また高岡は奥さんの実家の祭)

5/2朝、日帰りの予定で小山氏の車で出発、立山駅5:30頃着。
凄い人、やっとケーブルのキップを買ったが、9時の券。
室堂直通的のバスがあるとの事で、再度並んでキップ購入。7:40発
天気よく、大日、薬師、遠く白山まで、見える。
一ノ越着、富士山は見えないが、笠ヶ岳、後立、裏銀等視界良好。
一ノ越から見る御山谷は広いスリバチ状の谷、斜度も20~30度で絶好のゲレンデ。
春の日を感じつつ、……………！(言う事無し)

約1時間歩いて黒部湖へ、ケーブルカー、ロープウェイ、トロリーバスで、室堂へ、バスに乗ろうとして、ここで、雷鳥温泉雷鳥荘と言う名前に惹かれて
TELして見ると、泊まれるとの事。ふと考えて予定変更、雷鳥荘の手前で雷鳥が3羽と1羽御出迎え。
24時間入れる風呂に入るが、温泉の感じがしない。
浴衣を着た人やミニスカートの人もいて、どこにいるのか分からない。
夜中☆を見におきるが、見られず。「明日天気になあれ！」と祈りつつおやすみ。

5/3曇り、雷鳥荘から、ダダー筋一の越を目指す。
途中で、ガイドのアドバイスで、道から少し離れた草地で休憩。
下を見下ろすと雷鳥が、5~6羽いる。よく見ていると、飛んでいる。小山氏は飛ぶのを初めてみた
私は32年ぶり、2度目である。それにしても道のすぐ横で休憩していたら、見られなかっただろう。
さすが、名ガイド。
一ノ越着、後立、裏銀は見えるが、さすがに笠は見えない。
20世紀最後のスキーをセータで楽しむ。今日は少し固く、昨日とは全然違う。
まるで、別の所を滑っているみたい。行ったことはないが、外国で滑っているみたいな風景である。
ロープウェイ待ち、1.5時間。昔懐かしい、尻制動で競争。小山氏演技9.8、森川9.0着地も含めて
室堂からのバスはガイドの指示で一番前の席を確保。実に優秀である。ゆっくり、雪の大谷や称名清
美女平でケーブル待ち1時間。立山行きの臨時のバスで下山。普通この下りはバスは出ないとの事
結局、今回は美女平のケーブルに全然乗れず、来年再チャレンジ予定。
極楽坂スキー場横の「亀谷温泉」で当然途中下車。これが、11期のポリシーである。
今年4月にリニューアルしたとのこと。泉質は硫化水素泉とのこと。アルカリ質で肌がぬるぬる。
桜をみながら、スキーの余韻に浸る。言う事無し。
5/4小雨。雪、温泉の後は花。ということで、砺波のチューリップフェア見学。
考えてみると、金沢在住6年間一度も見た事が無く、無理を言って、小山氏に付き合ってもらった。
ここで、26日発売のふるさと切手「兼六園の四季」を購入し、高岡駅まで送ってもらい、
高岡から高岡までの5月連休は終わった。
ただ、21世紀にも是非立山春スキーに行きたいと思っている。(小山氏とは5月中旬予定で合意)
それにしても、富山市はいいところだね！温泉付立山日帰りスキーができるとは！
再度、名ガイドに感謝！

15期 上馬 康生

98年11月03日

いつもOB会通信ありがとうございます。
10月25日に白山へ日帰り登ってきました。御前峰ピークに立つのは2年ぶりでした。今回の目的は
千蛇ヶ池を撮ること、
そして自分の体調を知ることでした。体の方は、まだまだ完全ではありませんが、日帰りで行って来ら
しとしなければと思っています。
池の方は完全に雪がなくなっていました、厚い氷で蓋がされていました。
それから御宝庫の斜面を転がり落ちる岩の音を何度か聞きました。雪が解けても氷で蓋をし、それで
やっぱり
御宝庫が崩れ落ちて蓋をするのかもしれませんが。悪い蛇はいるとは思えませんが。
紅葉は全般にあまりよくありませんでした。今年の山の紅葉はどこもあまりよくないと言うことですが
した。

11月1日には福井県の松岡町立図書館へ一日行って来ました。
この日から今月16日まで、小生の写真展を開いてくれることになり、行って来たのです。
できればこのことを会員に知らせたいのですが、何とかしていただければうれしいのですが。

上馬康生写真展「白山の四季 ―ブナ林と高山の自然―」

15期 宇野 潔

99年04月21日

相変わらずお元気でうらやましく思います。
実は、僕も嫁さんと先日の土曜日に水芭蕉を見に
「六甲山高山植物園」に行ってきました。

いつか、取立山で見た水芭蕉とは月とスッポンでしたが
久しぶりに可憐な姿をながめました。
カタクリも咲いていました。ショウジョウ袴も・・・。
季節的にはこれからで、5月~6月が最盛期みたいです。
家から30分程で行けます。自然には勝てませんが、いろ
んな花が解説付きで見られて、ものぐさにはいい所です。
ゴールデンウィークにでも来られるなら喜んで案内致し
ます。

ところで・・・4月の金沢行きは無くなりました。
奥名に借りを返せなくて残念です。
今のところ、5月11日に北国新聞に行く予定ですが、泊ま
れるかどうか不明です。
また、連絡します。

15期 坂尻 忠秀

99年02月07日

ようやく、ホームページにアクセスしています。入試情報を見るために金沢大学のHPには、何度かア
ながら、ワングル
のページが"NOW"の中にあるとは、10号の図解を見るまではわからなかったのです。情けないで
(葉書)を書いて、
切手を貼って、ポストに入れてなんてやっているこ
とに比べれば、なんて楽な通信手段なんでしょう。 やまざと10号を受け取りました。毎度のことな
れだけのものを発
行してくださると、感
心しています。事務局長からの度重なる催促にも関わらず、ほとんど原稿らしきものを送ったことのた
ば、かなり気が引
けます。でも、40周
年を迎え、OB会長、副会長、事務局長とも15期になっているので、あまりぐうたらなOBにならない。
ます。では、また。仕事場(輪島高校)のPCから

15期 松林 知一

99年xx月xx日

やまざと第10号受け取りました。ありがとうございます。私めのへたな写真をたくさん使っていたた
いて、恐縮しています。さて、私め、この1月から仕事の環境が一変し、土、日も休めないキビシイ事
られています。前回の「や
まざと」で、ス
キー合宿に参加しようとの一文を掲載していただきましたが、えらそうなことを言った張本人が、
ない状態になってしまい
ました。まこと
に、面目ありません。でも、まあ、早晚クビになりそうですので、そうなったら、また率先して参加させ
す。そのときまで、みなさ
ま、しばしの
おいとまをいただきます。それまで、ごきげんよう

99年02月21日

きょうは朝から雪。帰りに駐車場から車を出すのに一苦労しました。
雪なんかきらいです。なんで北陸には雪が降るのでしょうか。
雪が降るから腹が立ちます。
どうしてかって？
だって雪が降ったら、スキーに行きたくなくなるじゃないですか。
野沢温泉はどんなに楽しいだろうと、つい思ってしまうじゃないですか。
いまの私には、スキーのことなど考えている暇はないのです。
雪さえ降らなければ、スキー合宿に参加できる人をうらまなくてもすむのに…
スキーなんかきらいだ！
雪はもっときらいだ。
みなさんもスキー合宿などに惑わされることなく、仕事に精を出しましょう。
早く春にならないかなー。

99年03月10日

ご無事でなによりでした。
もんもんとしながら、土、日が過ぎるのを待っておりました。
ことしは結局、ただの一度もスキーをはきませんでした。
それで、もし、今シーズン、まだスキーに行く元気があるようでしたら、
瀬女・一里野の共通1日券がありますので、謹呈いたします。
ご連絡ください。(艇か4600円のところ、タダにしておきます)。

15期 間所 新一

99年02月18日

OB合宿、娘のほうも何とか説得し、家族4人で参加させてもらう予定です。
今年初めてのスキーなのでとても楽しみです。
また、世話をかけますがよろしくお願いします。

99年03月03日

日曜日、3:45pm頃野沢を出発し、途中松本付近で見事30kmの渋滞に捕まり、町田の家
に着いたのは11時過ぎでした。それでも途中の諏訪SAで食べたわかさぎのフライ
定食もおいしく、今年初めてのスキーの余韻が残っており、大満足の2日間でした。家族
そろっての参加で皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございます。

P.S. 清酒手取川は何故か私の手元あります。なくならないうちに横浜に来てくださ
い。

16期 金森 廣

99年02月18日

今週末から約1ヶ月ほど、ロッキーのふもとのコロラド州へ仕事で出かけます。冬ですので登山は出来ないでしょうが、スキーは出来ると思います。面白い話があったらお伝えしましょう。

OB会幹事の皆さんにもよろしくお伝えください。いつもご苦労様です。

金沢は吹雪ですか。2/11には八王子では5cm程の積雪がありました。明日から出かけます。さあ準備しなければ.....

99年03月08日

コロラドに来て3週間になります。私が滞在している町はFort Collinsで州都のDenverから北へ車で約1時間のところ。隣の町がLovelandと言う名前のとおり素敵な町でRocky Mountain National Parkへの入り口になります。Hewlett Packardはこんな田舎町にも事業所があってFort CollinsのホテルからLovelandの会社まで牧場の牛や馬を見ながらのドライブです。晴れた日にはRockyの山並みがきれいに見えます。この週末はWinter Park Resortというスキー場に行ってきました。リフトの終点が標高12,060ft(約3,700m)で富士山の頂上と同じ高さです。もっともDenverがMile High City (1 mile=1600m)と呼ばれるように既に高い標高にあるのでそんなにすぐ登ったという気はしません。ただ、ここしばらくスキーをしていなかったのが今日は太ももが張って歩くのが大変です。まだ、年のせいにはしたくはないですね。OB会スキー合宿いかがでしたでしょうか？OB会の行事にもいつかは参加したいと思っています。それでは皆さんによろしく。

16期 清水 重仁

99年xx月xx日

お元気ですか。
1月もあつというまに月末です。このたびの寒波では、羽島でも15センチくらい積まりました。

昨年末のメールでもワングルホームページ更新の案内をいただいていたようですが、不謹慎なことにやっと昨日たまたま拝見しました。

以前とは比べものにならないくらい洗練されたと思います。又、今回、故大出氏への弔辞には非常に感激いたしました。

今後のますますの充実をお祈りします。

さて、私のメールアドレスは以下のように変更したほうがよさそうですので、以後よろしくお願いします。

新メールアドレス BYR01544@nifty.ne.jp

99年05月12日

毎度お世話になります。
5/10付けメールにて春の山小屋酒場が中止となる旨、承りました。当方としましては、別の予定をキャンセルしても参加すべく準備しておりましたが、誠に残念です。今年もおいしい山菜などにありつけると思っていましたし、小屋の新しいトイレもぜひ使わせてもらいたかったのですが...。
小屋の周りも含めてダムまでの道も相当荒れているのでしょうか。次の機会があればよろしくご案内ください。

17期 川村 高弘

99年03月11日

私は U.S.A Pittsburgh に暮らしております。雪がよく降ります。冷えるときは -14度ぐらいです。このような ホームページが 開設されているなんて 知りませんでした。今は Eメールなしには やって いけません。17期の 仲間といながらにして 情報交換でき楽しんでい奥名さん 私を 覚えて いますか？確か 夏合宿で 私が 花の名前を まったく 知らず 奥名さんに ずいぶん 笑われた ものです。また 双六小屋の トイレに 奥名さんの 名前が いたずらがきで 書かれていて 後から 消した 後が あった なあ と 突然 思い出 しました。いずれにせよ 昔の ことになりました。海外暮らしで こんなに 楽しい ホームページに であえるなんて 最高です。ありがとうございます。

17期 小島 敬

99年02月02日

ワングルがホームページを作るとは、時代ですね。お陰で、香港に居ながらにして金沢の様子やワングルく分かります。
大変懐かしく、また、楽しく拝見させていただいています。在香港 17期 小島敬

1998年3月から、香港駐在です。ちっぽけな香港にも1000m近い山々があり、豊かな自然が残され縁あって、香港新潟県人会に入会し、香港の山を登っています。元メンバー(1998年2月帰国)の香港ホームページがありま

すので、ご参考までにお知らせします。http://www.dragonserve.com/hkipc/html/h-yama.htm 香港 小

17期 長田 正文

99年02月01日

やまざと10号本日届きました。また夜更かししそうです。HP開設は、とてもよいことだと思います。同期の連中に早速知らせます。

17期 渡辺 和文

99年04月24日

世の流れにとかく遅れて乗る小生もようやく電子メールを自宅に開設しました。
先月、野々市町に住む義弟の娘の中学入学祝いを届に行きました。大きなショッピングセンターができていてその変わりように驚きました。好天で白山から医王山までの春の山並みが何よりでした。
E-mail:mkwatana@gw1.gateway.ne.jp

99年05月03日

メールありがとうございました。
ご無沙汰いたしております。
KUWVホームページの山の紹介拝見しました。
野田山は見る事ができましたがそれ以前のものを
見る方法をお教えてください。
ワングル酒場への参加は思案中です。
ダムからの1時間は少々不安があります。
濃厚なフイトンチッドを久しく吸っていませんの吸いたくも有ります。
シュラフと武器と非常食と皆さんへの酒さへ持っていけば
一宿できるでしょうから、何とかなるでしょうから。

18期 井上 茂良

99年02月04日

昨日届いた"やまざと"のなに金大およびワングルのホームページについて記載しており、早速アクテナかなか催し等に参加できない者にとっては、雑誌での情報も貴重ですが、直ぐ分かることことから、ジは大変有難く、
今後の楽しみが出来たような気がします。時間的に大変でしょうが、最新情報にアップデートしてくだ

18期 大西 正晴

99年02月07日

ホームページの充実ぶりに驚いています。また、たくさんのOBの方が利用されているのを見て、時代の業に従事している私自信ひしひしと感ずります。さて、40周に参加して以来、OB会が少し身近なものに感じられるようにまた、長い間、行っていない白山や北アルプスの山々にもう一度登ってみたいと思うようになりました。暇も金も体力も限が、チャンスを作ろうと思います。なお、個人用のメールアドレスを獲得しました。
makkie24@mb.infoweb.ne.jpです。よろしかったらメールでも。

18期 横井 恒雄

99年xx月xx日

お便りいただきありがとうございます。そして恐縮しています。
9月のOB会に出席できず、残念に思っています。
金融ビッグバンというよりはこの経済不況で会社も大変、金融機関の端くれにも厳しい風です。
ざりとて、年末には藝科で2泊3日のスキーを楽しもうと計画しています。
家族はアウトドアが嫌いでスキーならなんとかという具合です。来年は一人関東の山を目指そうと考
子供もそろそろ
中学受験を考えており、ちょっと遊びに行けそうもないので、親父は行けるか心配しております。その
はこたえていま
す。
うれしい、たよりでした。またお便り下さい。露天風呂の月見酒か…… そんな気分でやりたいですね

99年05月04日

拝啓 若葉の候いかがお過ごしでしょうか

5月2日に家族4人で夜叉神峠にハイキングに行ってきました。

高速道路は大渋滞で、夜叉神バス停駐車場も満車でしたが天気は快晴で大変素晴らしい一日でし

400m程登った峠小屋からの北岳、間ノ岳、農取岳のながめは素晴らしく、今年は雪
が多く一段ときれいな山並みでありました。

ラーメンを作りながら、昔、黒戸尾根から甲斐駒を登り、鳳凰三山を超えて下ってきたこと

等思い出して、大変に幸せなひとときでありました。

今年は登山をしようという気分になって帰ってきました。

21期 竹中 敏

99年xx月xx日

んにちは。

秋の写真ありがとう。
今年は、仕事の関係で、金沢に立ち寄りました。小立野大地の向こうに、高三郎と大門の姿を見る事
しました。

これからも、通信楽しみにしていま
すので、宜しく願い致します。

26期 畠山 潤

99年04月20日

新潟県上越市に在住です。しばらく山から遠ざかっていました(子育てのため)が、今年から少しずつ
始めようと思っています。先週上越市郊外の南葉山にスキーを担いで行ってきました。滑降距離
短いものの、久しぶりのジャンプターンが決まり、なかなかの斜面でした。妙高、頸城山群が近く、
は残雪也多そうなので、楽しみです。
33期の奥出君の通信にあったように、最近ショートスキーがブームになっています。実はこれ、山
春山などの下山に便利だということで試したのが始まりだと聞いています。というのも、私も同じ理由
年ほど前から愛用しています。スキーというよりグリセードに感覚に近い感じがします。時に、夏の
滑りに良くもっていききましたね。何しろ軽いし短いので伸縮できるストックと組み合わせれば、やぶこ
やロッククライミングもOKです。剣の三の窓、長次郎、平蔵、北岳大かんば沢、針ノ木沢、白馬雪
ど名だたる雪渓をこれでほとんど滑ったことがあります。欠点は短い分(私のは60cm)バランス取
難いことで、35度以上の堅い斜面では(例えば平蔵谷)かなり緊張しました。最近120cmぐらい
カービングタイプが出回っていますので、買い換えるとするとこれですね。
それでは。

33期 奥出 俊一

98年11月25日

1998年11月25日
HP、名簿の作成ごろうさまです。

最後の砦「現役の部屋」は開きそうでしょうか？
逐次、山行予定などを流してもらい、
こちらは大町・白馬口の天候、積雪の様子などわかる範囲でお答えできればと思っているのですが。

今日は雨飾山西麓、県有林の山じまいに行ってきました。
先週の寒波で、はやくも20～30cmの積雪。
根知谷郷の家々も、雪囲い、軒先の大根干しと、万全の冬支度でした。

99年03月30日

卒業、入学、就職、異動のたよりを聞くと兼六園の桜を思い出します。
ちらほら咲きはじめた頃でしょうか？
ここ大町では桜はおろか、梅もまだつぼみです。

ミニスキー・レポート
この冬は全長90cmのミニスキー（通称 FUN SKI）を購入、
1～2月のゲレンデ練習を経て、3月からは山で試運転をはじめました。
1回目は富山・新潟県境、境川の奥の初雪山。
大平の集落からワカンで歩いて6時間。まっしろな頂から日本海へ
飛び込むようなターン……とはいかず、上のほうは鏡の如きアイスパーンで肝を冷やしました。

第2回は春分の日、地元、梶池～風吹大池～紙すき牧場（北小谷）。
天狗原までヘリコプターで上がってくる小娘ボーダーたちを尻目に、
いざ野性の滑りを……と意気込んだものの、にわかに吹雪模様となり、
コンパス頼りに紙すき牧場へ滑り込んだのは夕闇迫るころ。
でも、来馬温泉に浸りながらブナの巨木の間の深雪ターンを
思いかえしてなかなかの気分でした。

ふつうの山スキー板と比べた感想として、シール登高に適さない
などのマイナス点を差し引いても、とにかく軽くてコンパクト。
登高時にヤブにひっかかるようなことがなく、車や列車で移動の際
にもザックサイドにびったり納まり◎。
何より、板が短いということは足がこんがらかるような転びかたには
ならないということでした（上手な人は長い板でもそんな心配は無用
ですが……）、このことが林間や細尾根の滑降でも安心感をもたらし
てくれます。
初雪山で唯一出会ったおじさんも、偶然ワカン&ミニスキーの組合せ
で、去年は雷鳥沢や剣沢もミニスキーで滑ったと言っていました。

興味のある方は試してみてもいいかもしれません。

33期 寺島 祥文

99年02月04日

いつも、楽しみにしてやまざとを読ましてもらっています。去年の7月に転勤により、東京の住人にな
が忙しいのでなかなか、山に行く機会がへってしまいました。休暇をとってゆつくりと登山でもしたいと
す。東京近辺の方、今度、遊びにでも誘ってやって下さい。

33期 道明 智徳

98年12月09日

今回初めてメールでのOB通信をおくっていただきました。

ありがとうございました。
またぜひ送ってください。
今後のご活躍をお祈りいたします。

36期 石川 明弘

98年11月24日

すっかり、「会社の犬」となった私は、先の3連休を、「全て休日出勤」ですごし、最近弱っています。

さて、この度、我々の36期の間では、「E-MAIL網100%達成となりました。

最後のひとりは、本人の希望に関係なく、「強盗が押しかけるように」設定しました。

「携帯電話」「E-MAIL」など、いわゆる、「最近の道具」にはうとそうな、「ワンゲル」ですので、ワンゲルの達成でしょう。

は・は・は・まいったか！

36期 立川 健吾

98年11月11日

お忙しい中いつも情報を頂き誠にありがとうございます。
恐れ入りますがメールアドレスが変更になりましたので、メール送信先の変更方よろしくお願い致します。

なお、旧アドレスは11月19日(木)以降になると使用不能となります。
新アドレスは下記のとおりです。

記

【新アドレス】
F952049@e.tmw.mhi.co.jp

【旧アドレス】
F952049@ccm.tmw.mhi.co.jp

「ccm.」が「e.」になりました。

以上何卒よろしくお願い致します。

36期 樫村 美智子

98年11月03日

OB通信の電子メール、いつもありがとうございます。

11月1日付のOB通信も受信したようなのですが、文章がすべてバグっていました。
私の機械が古くておバカさんなので大量の情報にびっくりしてしまったのかもしれませんが。

お手数ですがもう一度送信をお願いします。

QZW07474@nifty.or.jp

会報の原稿も、Eメールの御蔭で（もちろん持っている人のみ）、矢の催促と入手が可能になりました。

もう少し（かなり）機器に慣れれば画面の上で編集などということがやれるのでしょうか…
「急がば回れ」という所か、結局うち直したり切り貼りしたりの方がマニュアルめくるより速いで、進歩なし。

画面上でピピッと編集できる華麗な技をお持ちの方いらっしゃいませんか？喜んで転送しますけど…。

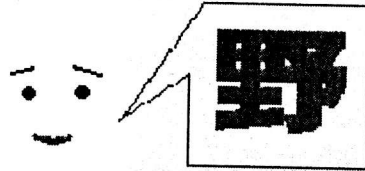
FROM:Shin Madokoro

SUB:OBスキー合宿の原稿を送ります。

節ちゃん お礼が遅くなってしまったけれど、この前はスキーの時の写真を送ってくれてどうもありがとう。それと、何よりも、スキー合宿参加の原稿書きに、私でなく家内を指名してくれたのはGoodでした。御蔭で彼女に

「感じたことを書けばいいんだから、早く書いたら？節ちゃんが待っているよ。できたら僕が出してきてやるよ」

と、実に気持ちの良いセリフを吐くことができました。（半年前に、OB40周年記念総会の参



平成11年2月27日(土)~28日(日)

長野県野沢温泉スキー場

リゾートハウス「ふるさと」

長野県下高井郡野沢温泉村6556

tel: 0269-85-2241

約7500+α

0期田村

9期伊藤

11期青柳(前日から乗り込み)

11期上村

11期森川(前日から乗り込み)

15期舟田

15期奥名

15期間所(家族全員4名)

加原稿を書きあぐんでいる私に、彼女が言った言葉そのまま)

以下は家内の野沢OBスキー合宿参加の感想文です。

野沢温泉スキー合宿に参加して

15期 間所の妻 美智代

「行きたくない。一人で居る」

「ダメ。一緒に行こう。」

すったもんだのあげく、中二の娘麻衣と、中一の息子拓平と四人で、野沢温泉でのOBスキー合宿に参加させていただきました。子供達は前日まで期末テストを受けており、娘の方は提出物が有るからと、宿題をかかえての参加となりました。

主人から、1月末頃

「ワングルOBのスキー合宿があるから行こう」と言われ、

「まあ嬉しい、今年初めてのスキーだわ。どなたがいらっしゃるの?」

「奥名と節ちゃんとかー」

何も知らずに軽い気持ちで出掛けました。

ところが、何と、ワングルの教祖様を始め、9期、11期の、主人から見れば大先輩の方がずらーり。節ちゃんの様子がいづもとは何かちと違う感じ。奥名さんも心なしかおとなしめ。主人なんかだいぶ遠慮しているー。

”どうしよう”と思ったのも一瞬、野沢の雪景色の素晴らしさ、スキーの楽しさで、どっかへ吹っ飛んでいってしまいました。目まぐるしい程のお天気の変化の合間を縫って、二日券を無駄にしないよう楽しませて頂きました。

びっくりしたのはスノーボーダーの人が一人もないこと。スキー場ってこんなにおとなしかったっけ?って感じ。ボーダー禁止ができるスキー場ってのにも感激しながら、疲れた体は露天風呂で癒して、民宿ふるさとのお料理もとっても美味しく、本当にすばらしいスキー合宿でした。

行く、行かないと文句を言っていた娘も、一階のホールを一人で貸し切り、宿題も仕上げ、大満足。

一泊二日と短い時間でしたが、恐そうに見えた大先輩の方々も、気さくな方ばかりで、とても楽しいスキー合宿でした。親子ともども参加させて頂き、本当にありがとうございました。

森川さんと節ちゃんには、沢山写真を送っていただきました。ありがとうございました。

今写真を見て、ニヤニヤしております。どうしてかって、子供の次に、私が一番若いからです。来年も是非参加させて頂きたいと思っております。



奥名 舟田 青柳 田村 上村 間所 森川

伊藤 麻衣ちゃん 美智代さん 拓平君

勝手知ったるゲレンデとなった野沢。昨年より時期早く、かつ雪は平年並でまずまずのコンディション。昨年のごとく、11期が圧倒的技量優勢で余裕を見せつけましたが、今年は15期だって本命カードあり。チャーミングな奥さんと可愛いお子さんをひきつれて、さっそうと滑る間所一家を彼等は羨ましそうに見てましたよ。そう、涎垂れてましたよ。スキーチョンガーもいいけど、うまければうまい程、奥さん子供達と華麗なシュプールを描いてみたいのが夢になるのでは…。下手な残り組は、そんな「野望」なんて持つはずがなく、怪我しないうちに帰ろっと、最後はゴンドラで悠々下りてきました。

田村さんは、もちろんヒーロー。目を丸くしていた観客多数。間所さんちの拓平君が喜んで「ほんとに滑るんか見たい」と追いかけていきました。あのキラキラ一杯の目…どっかで見たとね…そう、うちの子が珍しい動物を見た時があんな目をした…と気付いたら、ほんと笑っちゃいました。

(舟田 記)



金沢大学ワンダーフォーゲルクラブOB会（第1～3期）会合のお知らせ

先日、標記に関するご案内をお届けしたところ、10名の方から、参加する旨の返事を頂き、大変心強く感じております。具体的な実行計画を、下記の通り、立案しましたので、お知らせ致します。

記

1. 期日：平成11年5月8日（土）～9日（日）

2. 時間、および場所

(5/8)

・12:45～13:00. 石川県石引駐車場（別紙の地図参照）に、昼食を食べ終えて、お集まり下さい。

・13:00～16:00. 車で医王山へ移動

旧見上山荘跡、西尾平、医王の里周辺散策、

医王山（白ハゲ山）登山

・16:00～17:30. 医王山→白峰へ移動

（宿泊）ホテル蛸月（石川県石川郡白峰村桑島10-1-24）

TEL. 07619-8-2828

(5/9)

・8:00～14:00. 車でホテル出発。

大嵐山登山（または、白山比叡神社参拝）、昼食、

金沢へ移動

・14:00. 解散

3. 参加予定者。（敬称略）

安藤道子、北 正昭、北野倫子、佐々木美穂子、鈴木兵一、仙田厚太郎、

高島 誠、田村昭夫、登内郁夫、西尾皓史、（あいうえお順）

4. 特記事項

(1) 服装は気軽に歩きまわれる様、軽装で山行きのスタイルの方が、望ましい。

(2) 会費は、20,000円（男性）～15,000円（女性）程度になると思いますが、後で実費精算いたします。

(3) 車による移動は、高島、北、西尾の3台の車を準備しますので、これに分乗して、移動します。

(4) 医王山登山、大嵐山登山については、天候、および体調と相談の上、ですが、出来れば、登りたいと思います。

医王山は、現役時代の懐かしい思い出が沢山詰め込まれており、これを掘りおこして見るのも意義のあることだと思います。また、大嵐山は、水芭蕉がとってもすばらしく咲き乱れる時期で、十分に、自然の美しさを堪能できると思います。

(5) 鈴木兵一さんが、「5/9（日）解散後、富山県宇奈月温泉へ行って泊まり、翌日、5/10（月）は、トロッコ電車で、黒部峡谷に入りたい。」とっております。

「一緒に行こう。」と思う方は、鈴木さん（TEL: 043-432-8286）、または、西尾まで、4/中旬頃までに連絡下さい。

(6) 連絡、問い合わせする事があれば、西尾まで電話して下さい。

（自宅の電話番号）0761-47-2947

一朝は6時30分～7時10分。夜は19時30分～21時ならOKです。－

（携帯電話番号）090-1630-7505

－いつでもOKですが、留守番電話になっていたら、メッセージを入れておいて下さい。－

同期会報告

第3期：西尾皓史 記

昨年の9月、ワンダーフォーゲル40周年記念の総会、並びに記念行事が医王山で開催されましたが、その時、第3期から、田村、鈴木、北、西尾の4名が参加し、それぞれの年代のOB諸君や現役部員と一緒に、賑やかで楽しいひとときを過ごすことができた事で、40年前の血が燃え滾ってくるのを強く感じました。

そして、余韻を残したまま1999年を迎え、その勢いで5月8、9日に同期生（第1～3期）のOB会を、当時のクラブ活動の拠点であった白山の山麓、白峰の地で催す事ができました。

小立野にそれぞれのスタイルで集まった10羽の“渡り鳥”は久方ぶり（或る渡り鳥は、互いに、37年間も会わなかったんだよ！）の再会にもかかわらず、少しの戸惑いもなく、37年前にタイムスリップしながらも、「今日の話」に花を咲かせている。

そこへ、第7期の村田泰恵さんが、“老体の渡り鳥”の行動が気になるようで、飛び込んで来て、路面電車の走っていた時代の金沢しか知らない我々を先導して、金沢大学のニューキャンパスのある角間へ案内し、いろいろと説明をしてくれました。（村田さん、ご案内いただいただけでなく、お菓子までも頂戴して本当に有難う。大変美味しかったヨ。）

村田さんに、バイバイをした後、医王山に向かい、現役時代の懐かしい思い出が沢山詰め込まれた医王の山々の景色を眺めつつ、西尾平～旧見上山荘をワンダリングしました。道路が決壊していなければ、白ハゲ山に登るつもりだったのに、とチョッピリ心残りでしたが、そのまま、車で白峰に向かいました。

本当に久方ぶりの再会なので、言いたい事、喋りたい事が胸一杯に詰まっていて、何から話をすればいいのかわからない。“ごはんだ、ごはんだ、さーたべよう、、、”で食事がはじまり、各自のプライベートヒストリーを聞きながら酒を酌み交わし、談笑しているうちに、現役時代の面影を見つけて気持ちがどんどん若返ってくる。そして、そのうち話題は、全員が共有している、37～40年前の現役時代のクラブ活動のことに移っていくと、みんなが目をキラキラさせ、口は滑らかになり、たちまち現役の渡り鳥にもどってしまったかの如き錯覚に陥り、夜のふけるのを忘れて話しに熱中になってしまった。

ある詩人の言葉に「若い時代に交り合った仲間に会う事は、気持ちをその時代に若返らせてくれる。」と言うのがあります。将に、その通りであり、老化防止、ボケ防止に役立ち、若返らせてくれる事は間違いない。

1～3期生にとっては、もはや還暦を迎える年代となり、仕事の上で現役を引退する人も、一人、二人と現れ始めたが、気力、体力の面で、個人差が顕著に出始めるのは、やはり、現役を引退した後である。そんな意味で、「年に一度は、集まって互いに刺激し合い、若返りを図ろうヨ。」とお互いに約束をした次第であります。

翌日も空は快晴、明るくなって来た早朝の 5 時過ぎに、もはや外へとびだしていった元気な渡り鳥が何羽かいた。

「自然は本当に大きい。」「空気はうまい。」「ホテルでまだ寝ている、〇〇君の鼾が聞こえるかと思われるほど、静かだ。」

朝食後、大嵐山の水芭蕉を求めて、山に登りました。最盛期は若干過ぎた感じはするものの、水芭蕉は一面に咲き乱れ、充分に、その美しさ、優しさ、そして、薄青いすてきな香り(?)を堪能する事が出来、爽快な気分で、山を下りました。

来年は、昭和34年(クラブ発足二年目)の夏期合宿の舞台となった、立山周辺で、同期のOB会を開催しようということになり、全員が元気な姿で再会する事を誓い合って解散した次第であります。

以上



佐々木 安藤 北野 北 西尾 田村 登内 仙田 鈴木 高島
(宇野) (柿谷) (加藤)

息子の入学試験に思う

0期 田村 昭夫

長男が大学入試を受ける。私の受験時代と違う。ゲーム気分で受験勉強を楽しんでいる。

それでいいと思う。43年前の私は入試の結果が、その後の人生を決定するとまで思い詰めていた。教師達も我々を煽っていた。

受験間際を読んだ、久米正雄著「学生時代」の中の「受験生の手記」には胸が締めつけられる思いがした。主人公のモデルは我々の高校の

先輩である。主人公は一高受験に二度失敗し、絶望の末、故郷の猪苗代湖に投身自殺するという筋である。

社会の風潮が若い有為な人材を葬り去るのである。昔も今も変わらない、この国の姿である。有名大学に入学するというのが、そんなに価値あることなのか。

日本人ほどブランドに弱い民族はない。戦前から現在まで、エリートと云われる有名大学出身者達によって、どれほど庶民は被害を受けたとか。西欧のエリート達は「nobless oblige」

(特権を有する者の責任)を持つ者として、国家の危機には我が身を挺して民衆を守る。しかし、この国では、有名大学出身のエリート達の自己中心と無責任さは、今や常識とさえなっている。

明治以来、西欧列強に追いつく為に創立された帝国大学の役割は、遠い昔に終わっている。官僚養成機関の東大は、もう存在意義を失って久しい。東大に右習えの、全国に散らばっている国立大学も不用となった。

現在の国立大学は地方自治体に運営を任すべし。北陸3県を例にとると、大学は一つで充分である。小規模大学にして、真のエリートを育てる少数精鋭主義を貫くべし。入試も、卒業証書も廃止して、学問を愛する学生だけを面接で入学さす。

来る21世紀は実力だけが頼りの時代である。卒業証書など、何の価値もない。授業料の受領書である。卒業証書がもらえないとなれば、学歴亡者は一掃されよう。

新開経世物語

0期 田村 昭夫

安楽死の良い方法を、香林坊の酒場「サボイヤ」(スペイン語で「救世主」)のマスターから聞いた。ブランデーに睡眠薬を入れて一気に飲み干せば、苦しまずにあの世へ逝ける由。

健康を望む向きには、ワインにおろしニンニクを入れて、毎日飲むべし。さらに「粗食深考」「公憤私笑」を心掛ければ、長命疑いなし。されど盛者必衰のことわりに従わざるを得ず。

それにつけても、昨今の閉経の女性(によしように)達の傍若無人、閉経に非ずんば人に非ずの振る舞いには腹が立つ。一方、源氏の男達はダイオキシン、環境ホルモンに冒されて、元気がない。

不肖、源の朝臣山の上田村麻呂は、閉経討伐に旗揚げした。閉経の女人達を追討するには、日頃から男性自身も鍛練せねばならない。熱湯

と冷水に逆物を交互に浸し、しかるにハンマーで打ち据え、毎朝左右のタマを強く握りしめる。閉経の姫君も源氏の荒武者に対抗するには、バナナの千本切りぐらいの荒業には耐えねばならぬ。

源平合戦は今夜もキン大ワンゲルOB、OGによって熱戦が繰り上げられるだろうが、腹上、腹下死を覚悟で善戦を望むや切なり。

ちなみに我家では、源氏が連戦連勝である。

(追記) この原稿が皺くちゃになっているのは、我家の閉経の残党の仕業なり。

(編者注; 両者の言い分を載せるのが、流布させる者の責任と痛恨する次第なのですが…)

常識的に、昭子夫人の名声は高まるばかりと思えますので、判定! 「実害なし」)

21世紀日本経済の再構築

0期 田村 昭夫

(これは日本経済新聞に投稿したものです。)

採用、不採用は未だ不明)

*要点

1. 土地本位制の経済基盤を改めるべし。
2. 鎖国して、原材料は国内の廃棄物を生かすべし。
3. 完全な地方分権経済とすべし。
4. 停年を50歳とし、自立さすべし。
5. 年金を一律とすべし。
6. 「足るを知る」経済とすべし。

(その他) 文化、教育以外の非生産分野の削減。
老人医療費の削減。

*各論

1. 水と空気と大地は共有財産である。バブル経済は土地の私有から生じたことは明白である。したがって、不良債権となっている土地を国が強制的に没収し、その勢いで全ての私有地を公有とする。土地はそれ自体には価値はない。利用方法が価値を生む。

2. 日本は資源大国である。戦後54年間、日本は世界中から原材料を輸入して、貿易立国を表明してきた。原材料の1割は付加価値をつけて輸出し、9割は国内に残っている。これを再利用せぬ方はない。その為には鎖国して安価な原料の輸入を禁止すべし。
 3. 東京一極集中の時は終わったと云われてから久しい。しかし遅々として地方分権が進まない。理由は大蔵省が財布を握っているからである。税金は地方自治体に収支を任せればよい。役人は一度手にした収益は手放したがらぬのが常である。
 4. 50歳になっても会社にしがみついている様な人間が日本の経済の足をひっぱっている。若者達の雇用を邪魔しているのは、何時までも自立出来ないでいる中高齢者層である。50歳になっても自分で収入を得られない人間は家庭を持つ資格はない。
 5. 厚生年金、共済年金、国民年金等複数制を廃止し、一律月5万円程度の年金で充分である。人間一匹生きるのにさほど金はいらない。もしこれで生きられないと云う人は、死ねばよい。高額な年金をもらう不労の輩は国賊である。
 6. 昭和31年、「もはや戦後ではない」と云われた段階で、経済成長を止めるべきだった。調子にのり過ぎた結果が現在の不況である。しかし日本は金持ちである事は変わらない。国民一人平均千万円の預金がある国は他にない。これを大事に使い、無駄使いをしなければ、当分世界の一流国の地位は維持出来る。
- *結論
- 以上を実施するには、強力なリーダーが必要である。それは現在の政治家、役人に求めても駄目である。大統領を国民投票で選出するのがもっと早い。急がねばならぬ。

山便り

山村嘉一 wrote: 赤兎山へ行ってきました。

奥名さんいつも大変お世話様です。8期の山村です。昨日は月曜日なのに会社の都合で休日になり、久しぶりに少々歩いてきました。行ったところは、最近のガイドブックに紹介されていた赤兎山。前日あたりの予報のお日様マークを信じ切ったのですが、起きたら曇り。半ばあきらめながらも、悪路とポツリポツリの小雨をついて登山口まで。霧に濡れた花と緑でも見せてもらえればと歩き始めたのですが、何と頂上では数分間の晴れ間に御前峰、別山と御対面！！きっと登山口のお地藏さんへのお賽銭の効果かも？(小生100円、家内20円) コースタイム通りには歩けない事を、これまでは家内に「あんたが一緒やから」と言ってきたのだが、今回はそうも言えない様子。大したこともないコースなのに、息切れの激しさと汗のかきかただけは、コースタイムの半分まで歩いてきたような感じ。ほんの時々小雨が来ただけで、ニッコウキスゲは満開も間近、ササユリは数輪が開花でほとんど可憐なつぼみ、ほかにいくつかの花が咲いてて、なかなか良かったです。担いでいても飲んでも汗の元の缶ビールも実に飲み頃にコントロールできて、実にうまかったです。7月25、26日には大奮発して立山は弥陀が原ホテルへ行きます。ではいずれまた。小生のOB会費は本日振り込みました。

FROM: okuna <ma-okuna@pa2.so-net.ne.jp>

SUB: KUWV 白山ぶらり

奥名@15期です

OBの皆様いかがお過ごしでしょうか。

当地金沢では梅雨の活動は今はひと休みとなり、
やや涼しく気持ちの良い日がしばらく続いています。
もうしばらくは雲が多めながらも大雨にはならない
ようです。しかしながら真夏というにはふさわしくなく、
やはり最後の梅雨前線の活動が終わらないとギラギラした
日差しはやってきません。それを望んでいる人にも
望んでいない人にも関係なく。

以下私事

7月9日(土)降水確率限りなく0に近い予報のもと朝4時起床
5時出発。一路別当出合へ。(先月スピード違反で18000円も
国庫に提供しているのでこれ以上は無用。法定速度で7時着)
一般の駐車場は別当出合から少し下ったところにあり、そこを登りたく
ない人たちがすでに路上にずらりと車を止めてある。2段構えの駐車場の
一番下はがらがらとは言わないまでも半分くらいは空いていた。
みなさん少しでも登りたくないのでしょうか。
メンバーは私とオバサン2人。
駐車場ではまづコーヒーを沸かしてゆっくりいただき30分後出発。
釣り橋をわたったところにホタルブクロがひとつだけゆれていた。
まるで銀座通りのように次から次から登山者がやってきて歩のおそい
我々はその都度立ち止まり「どうぞおさきに」と道を譲らねばならない。
そんなこんなでコースタイムの2倍から3倍程の時間がかかった。
中飯場の一つ上の林道交差あたりにあったハクサンチドリは道路整備の
草刈で見事に首を切られてなくなっていた。そのかわりでもないが、南竜へ
の水平道では少し時期ははやすぎるもののたくさんの高山植物と別山の
景色に満足。下界を雲海の下に隠してしまっはてしなく続く雲の海、
その写真をお届けしましょう。(ほんまものにははるかに及びません)

主な今回観察植物

ホタルブクロ・カラマツソウ・センジュガンピ・カニコウモリ・
ゴゼンタチバナ・イワハゼ(アカモノ)・マイズルソウ・コイワカガミ・
キバナノコマノツメ・サンカヨウ・ツマトリソウ・トリアシショウマ・
ミヤマカタバミ・

南竜付近では

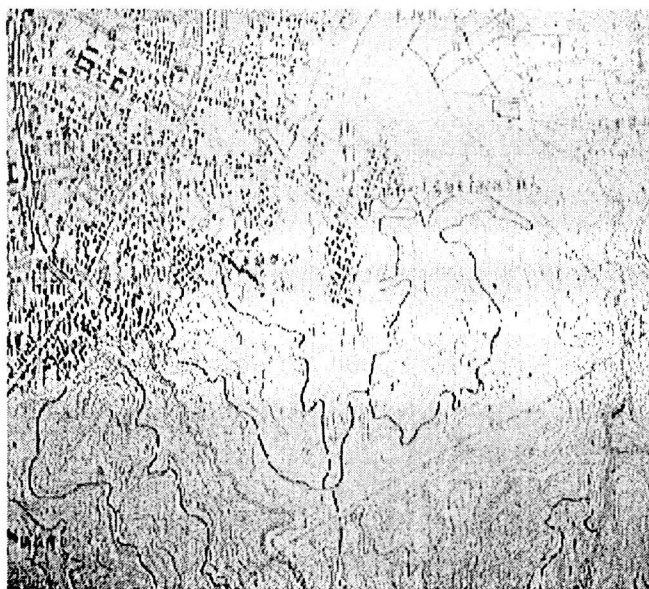
ヨツバシオガマ・ハクサンチドリ・ハクサンフウロ・ハクサンコザクラ・
イブキトラノオ・アラシグサ・ニッコウキスゲ・ミツバオウレン・
コバイケイソウ・

今回は南竜までの日帰りでした。

100m級低山紀行

石川県、特に金沢近郊の山と名の付く丘のようなところ
写真・文 15期奥名

◆満願寺山周辺地図



満願寺山 標高176.6m

この山は国土地理院発行1/25000「金沢」を4つ切りにしてその左下のほぼ中央に位置する。

ふもとの町窪1丁目2丁目はこの山を削り取って住宅地としたことが地図を見るとよくわかる。実際にこの地に行ってみるとなおはっきりする。道は狭く坂道の傾斜は相当なものがあり雪が積もった日にはかなり難渋しそうだ。車庫をのぞくところトラックのような4WD車がおさまっている。

この山の北側には伏見川が流れており、この辺から急に平野部になるためこの上流部は川幅も狭く渓谷というイメージとなり、逆に下流部は川幅も広くひらけている。

南側にはひとつ小さな谷をはさんで高橋川が流れている。この川は伏見川とくらべると源流はここから2km程遡ったところと短く、むかしの女子高校の裏手あたりで伏見川と合体する。



中腹より



ここは満願寺山の登り口に当たるところだがそれらしい案内はどこにも見あたらない。この石段を登っていくと途中左手にお地藏さんが一体鎮座している。この時節はかなり冷え込むので誰かがかわいそうに思ったのか立派なアルミサッシのフードに収まっている。藍色の座布団が2つ、信心のある人はここでお経でも唱えるところだが、生憎無信心なくせに臆病な私は百円玉を1枚放り込んで通過する。奥に見える建物(何というのか知らない「お堂?」ここでも賽銭箱が待ちかまえている)を左手に飛び石をつたっていくとさらにまたひとつ建物がある(これは金堂とでも言えそうな代物である)。

寺の様子が少し違うのは墓というものがひとつもないからかもしれない。ここが神社といわれても素直にそうかと肯いてしまいそうだ。



金堂らしき建物の裏手には気の遠くなりそうな石段が一直線に続いている。はじめはゆるい傾斜だがすぐに急斜面となる。左手はほとんど絶壁に近くそのため最後まで手すりが設置されている。真下には住宅地がひろがって時々犬の鳴き声がここまで届いてくるのでこちら側だけはまだ町の中にいる気がする。右手は一面竹林となり、そこからさきに見えるものは低いながらも山並みだけとなる。

上りも下りも石段の数を数えようと試みたが、分からなくなって断念した。

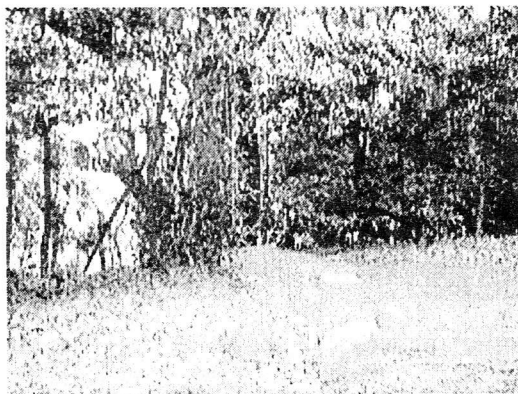
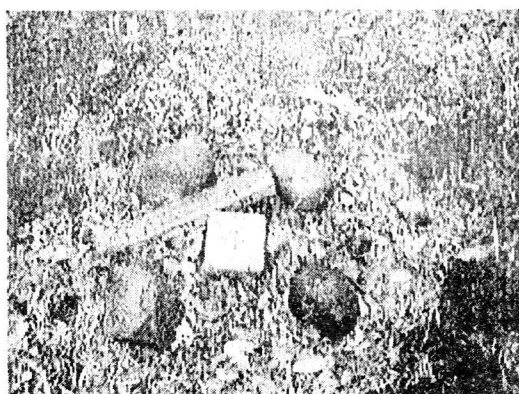
この石段はかなり上ったところで左に直角に曲がりさらに30m程進んで今度は右に直角に曲がる。最後まで石段が続き頂上にいたる。



頂上には三角点がなぜか5mほどはなれて2つある。三等三角点と記された標注は根元が朽ちて倒れている。

三角点には1等から4等まであり、3等までが地図に記載されている

1等...	970	4
0km四方		
2等...	5056	
8km		
3等...	32733	
4km		
4等...	約6万	
1. 5km		



ふもとの道は山沿いに兼六園下から桜橋を渡って寺町台へあがり泉ヶ丘高校、円光寺ときてここ満願寺山のふもとを通り額、四十万、そして鶴来方面へとびていく。この道は山間部と平野部とをわける境目を走っている。

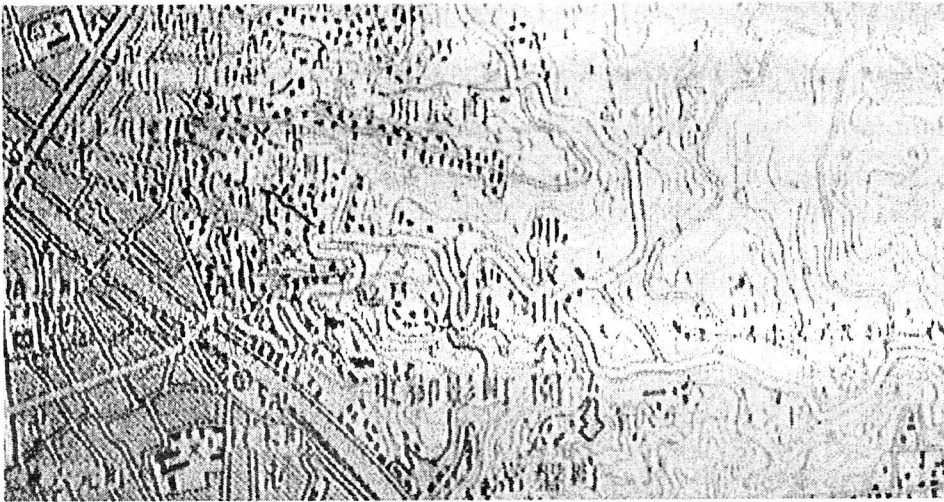
この辺の山にはとにかく竹が多く、タケノコの季節にはタケノコが出てくる隙間もないのではないかとと思われるほど竹が密生している。今度はそのタケノコの季節にやっこしようかと思っているが、一歩山にはいると全く人気のないところで景色も好いわけではなく泥棒と見なされるのは間違いない。



100m級低山紀行

石川県、特に金沢近郊の山と名の付く丘のようなところ
写真・文 15期奥名

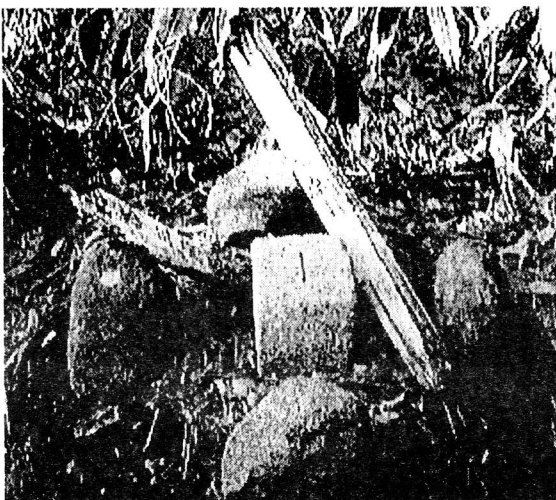
◆卯辰山周辺地図



卯辰山 標高141.2m

この山は金沢市に住んだことのある人なら誰でも知っている山である。そして我々ワングルにとっては日頃のトレーニング場所として恐れられている。しかしその山頂を極めた人は何人いることだろう。かく言う私もどこが山頂なのか今日まで知らなかった一人である。

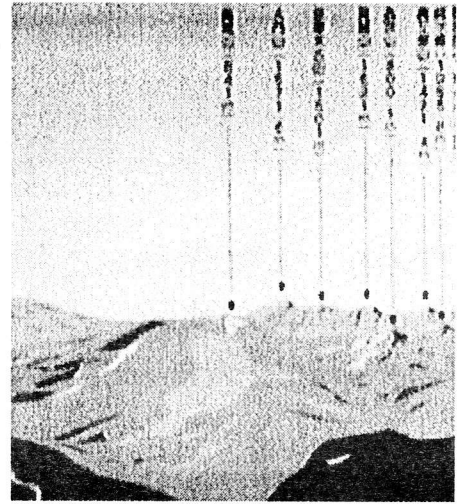
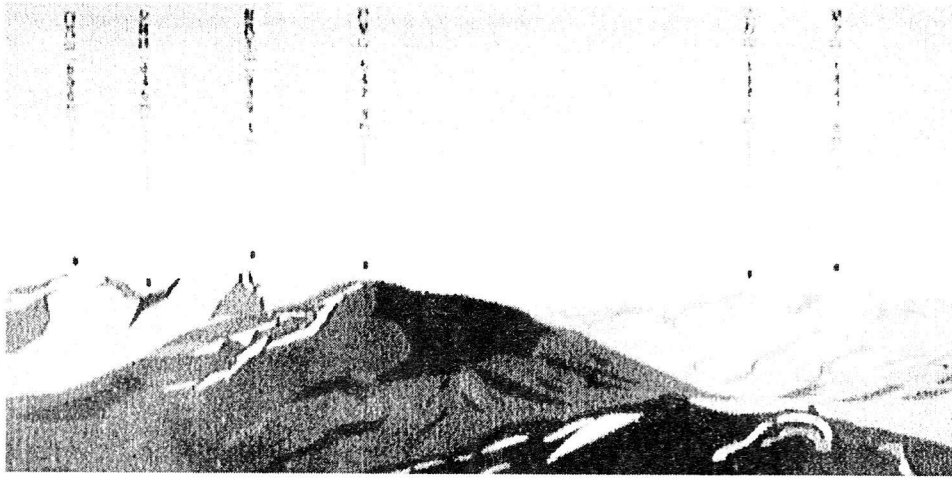
真っ先に山頂と思われる所は望湖台と呼ばれている所であろう。かつては河北潟の広々とした眺めが楽しめたのであろうが、今ではほとんどが埋め立てられてしまってとても望湖台とは言い難い。地図を見ても分かるとおりこの望湖台近辺が山頂ではない。少し北上すると横空台(おうくうだい)とよばれるところがあり、その辺に山頂があるように見える。しかし実際に行ってみるとだっ広い広場があるばかりで、山頂らしきものは見あたらない。



横空台の北の端に数本の木が植えられ卯辰山公園創設記念碑が立てられている一角がある。実はこの碑の後ろに三角点がある。まわりと比べても標高が高いとは思えないが、ここが卯辰山の山頂、標高141.2mの地点らしい。

ここは2等三角点である。





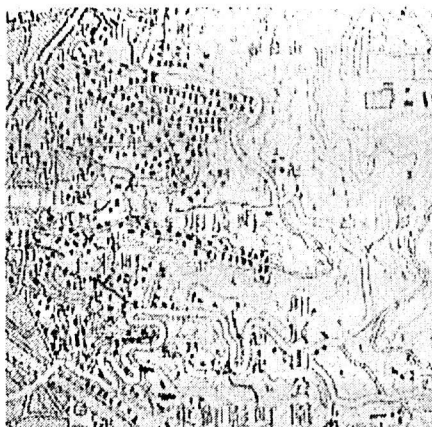
今では望湖台の区画はきちんと整理されていて、一番高いところはいわゆる展望台のようになっていて、湖を望む方角だけでなく後ろを振り向くと金沢近郊の山々がはるかに望める。そしてそれらの山々の名前と標高が記された案内図(上図)がある。わかるかな——、わかんねえだろうな——。

石川の百低山 その3 春日山の巻

100m級低山紀行

石川県、特に金沢近郊の山と名の付く丘のようなところ
写真・文 15期奥名

◆春日山周辺地図



春日山 標高112m

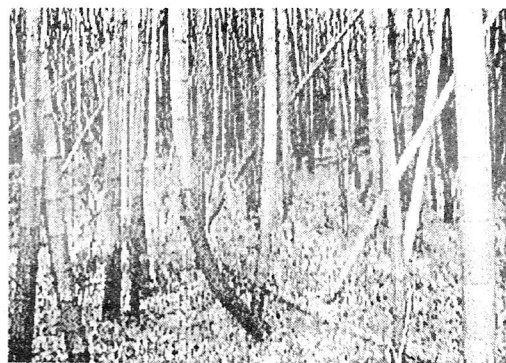
この山は卯辰山から北へ約500mのところにある。ここには三角点はなく地図上に「春日山」となっているだけである。卯辰山の頂上(前回記載)からなだらかに下りていくと見晴らしの好い墓地にでる。墓地の最北端あたりは一番細い尾根となり左手には市内の町並が、右手には東部清掃工場を真下にそしてはるかならかな夕日寺の丘陵を望むことができる。

墓地を抜けるとあたりは背丈以上もある細い篠竹に覆われている。そのなかに一本道が続いていく。しばらく行くと道は左右に分かれてしまい、春日山の頂上への道は見あたらない。むりやり直進しても標識らしいものもなく、あまりになだらかで頂上の位置はついに分からず仕舞となった。

この麓には春日町という町名が残っているが、実際にこの山は鳴和町になる。



左の写真はきっとこの辺が春日山の頂上ではないかと思われる場所で、まわりは右の写真のように全く見通しが気かないほどに竹が生い茂っている。実際はこれよりはるかに暗く、よく晴れた日でもほとんど日差しは地面までは届かない。



小さな赤い花がこんな暗いところで咲いている。



墓地の東の端から春日山方面を望んで、山全体が竹に覆われている様子がよくわかるし、山の格好もしているが実際には頂上はどこだかよくわからない。

金沢市

同じ場所から金沢市街を一望できる。左端には北国新聞社のビル、中央にはかつて最も高いビルとして脚光を浴びたことのあるスカイビル(今ではこんな名前つけられない)、そして右のほうに抜きこんでいるのが日航ホテル

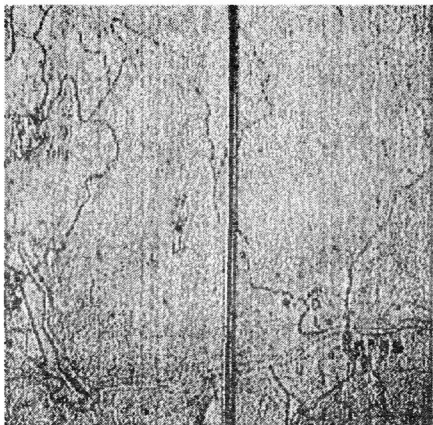


石川の百低山 その4 戸室山の巻

100m級低山紀行

石川県、特に金沢近郊の山と名の付く丘のようなところ
写真・文 15期奥名

◆戸室山周辺地図



戸室山 標高547m

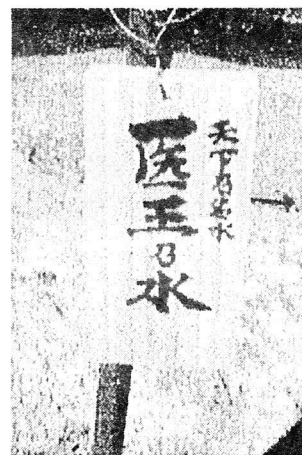
この山は金沢方面から東方の医王山をながめるとその手前に屏風のように立ちはだかっている。西側は切り立った崖となっているが東側と北側はなだらかな斜面となっていて頂上付近はむしろ平坦と言っていいくらいである。

地図は「金沢」と「福光」のちょうど境付近にあたるため左の地図は中央に切れ目が入っている。

登山はかつては地図左上の戸室別所からのぼっていたが、近年ではキゴ山むかひの医王寺あるいは放牧場入り口の茶屋裏からのぼる人が多いらしい。その横にはいつの頃からかはやりとなった名水が湧き出ている。

茶屋の横からのぼり始めた。

下界は春まっただ中という雰囲気だがさすがに季節は一步遅れている。登山道は残雪に覆われていて道がはっきり分らない。分からないということはどこを歩いても良いということ！





放牧場入り口付近の登山口



医王寺からは急な石段がまっすぐに続き、のぼろうとする人をくじけさせようとしているかのようだ。西側の崖とはずいぶん違ってなだらかな山容を見せている。



その医王寺の石段を少しばかり登ったところがかいのキゴ山をのぞむ。戸室山とキゴ山とは標高が同じでわずかに1m戸室山のほうが



はるかに医王の山々、手前にはキゴ山スキー場。今シーズン最後のスキー場には子供の声がかきこえてくる。スキーヤーよりもボーダーのほうが多いようだ。

石段をまっすぐ登っていく。ところどころにある踊り場にはなだれて落ちてきた雪がたまっているが実際の石段にはほとんど雪は残っていない。

石段を登りきると直角に左へまがりしばらくやや下りの水平な道となる。このへんはほとんど雪に覆われ、のぼったけいせきもないので道がよく分からない。

登山道らしい道となるとところに標識がたっている。そこからはやや急な登りとなり雪もあちこちに残っているため下りは滑りそうだ。その急な登りがおわるころなだらかな山頂にでる。積雪は50cmくらいはまだありそうで、三角点のあたりかも知れない。葉をおとした木々の間からきれいに晴れ渡った青空と医王の山並みがみえる。すがすがしい一時を味わった。



山頂付近から医王山方面

100m級低山紀行

石川県、特に金沢近郊の山と名の付く丘のようなところ
写真・文 15期奥名

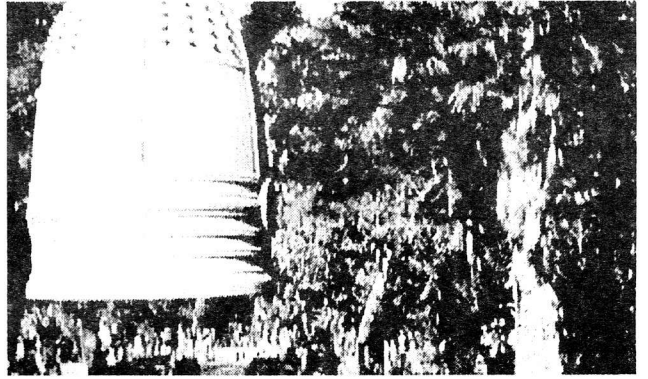
◆野田山



野田山 標高175.4m

野田山は金沢市に生まれ育った人にとっては小学生のころ遠足や早起きウォーキングなどで親しまれている。また、この山の北半分は全体が墓地となっていて相当の広さがある。もともとは前田家がこの山の斜面に墓地を作ったのが始まりとされ、その後前田家の家臣も付近に作るようになったらしい。その後一般の人たちの墓地も加わっている。

野田山というほとんど墓地を指していると言っても良い。



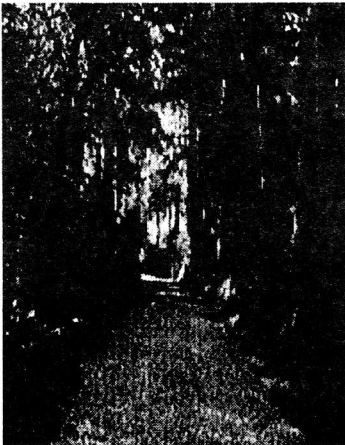
野田山と一丁前に1/25000の地図には山として名前が載っているが、どこをどう見ても山とは名ばかりで台地あるいは丘と言った方があたっている。

長坂方面からほぼまっすぐにのぼっていく道は舗装された車道である。上り詰めたあたりの右手に実践倫理記念会館があり、市内に文化ホールや厚生年金会館などなかった頃には色々な催しやコンサートなどが行われていた。それも老朽化のためか取り壊し中であつた。ここでも一つの時代の終わりを感ぜさせる。

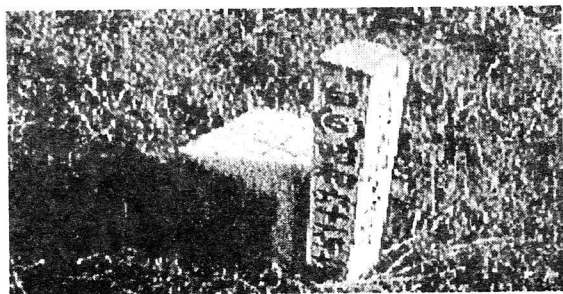
のぼり詰めから先は冬期間は通行止めとなっている。この道はほぼ真南に鶴来方面の山に向かっている。左に直角に曲がって三小牛方向に向かうならかな道を行くと、やがて「山田リンゴ園」が右手に広がってくる。その中にお椀ではなく皿を伏せたようにわずかな膨らみがありその中央が野田山の頂上である。



はるかに金沢市内を見下ろす



前田家墓地



野田山頂上三角点

三角点がリンゴ園のなかにあり、まわりを鉄条網で囲ってある。その少し壊れかかった部分を広げて進入した。リンゴの木は葉をすべて落としていて寒々とした枝をつきだしている。

この付近では皆針葉樹ばかりで、広葉樹はこのリンゴくらいのような。この西側一帯は杉が植林されていて、そこにはすでに赤茶けた花粉がたつぷりと用意されていた。ためしに小枝を揺すってみると案の定花粉がいやというほど舞い上がった。

この植林をした頃には花粉症を起こして人を苦しめることになるとは夢にも思っていなかったに違いない。

禍福はあざなえる縄のごとし

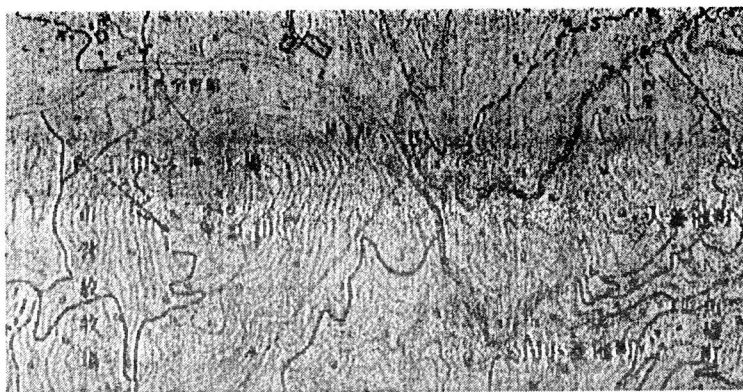


山頂付近からリンゴ園

100m級低山紀行

石川県、特に金沢近郊の山と名の付く丘のようなところ
写真・文 15期奥名

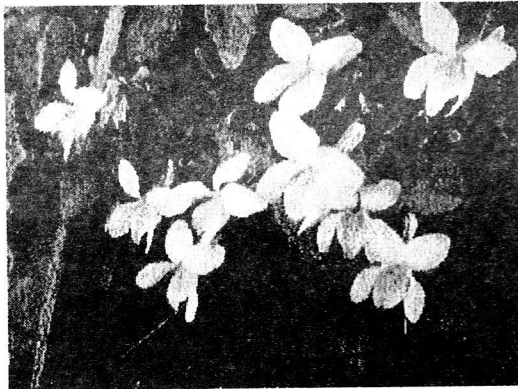
◆キゴ山



野田山 標高546m

キゴ山はワンゲル育ちにとっては誰でも知っているなじみのある山である。だからといって登ったことがあるとは限らない。かく言う私もはじめて。医王山にでかけると必ず目にしてあれがキゴ山など言いながらもあまり関心の得られない山のような。向かい側の戸室山と違ってあまり目立たないが、現在では放牧場のほかに色々な施設ができ、散歩道もいくつかきれいに整備されて家族連れなどがハイキングに訪れる。

その昔文禄の朝鮮の役で捕虜になった人が故郷のケイロ山に似ていたのでケイロ山と名付けた。あるいはケイゴ山。藩政時代の絵図には「警護山」として載っている。こちらは越中の一方向一揆に備えて砦を築き警護したためともいわれている。



放牧場への土手にさくスマレ

医王山に向かう車が難儀する最後の上り坂を登り切ると1軒の茶屋がある。そこから左手に登れば戸室山へ、右手に進めば放牧場へと向かう。右に曲がっていくと小さな池と四阿、それらを囲むように広場が整備されている。右手は土手が続きそこには春を感じたスマレやイカリソウが数多く咲いている。最も目立つのはなんといってもショウジョウバカマで重なり合って出てきたばかりの葉もよく目立つ。

広場を横切るとキゴ山への登山道がいくつかあり、それぞれに名前が冠してある。

この辺でもコシアブラの新芽があちこちに見受けられる。クロモジの若葉の緑が目には鮮やかだ。



放牧場への土手に咲くイカリソウ



キゴ山頂上

クロモジの道と名付けるほどにクロモジの木が多い。高級楊枝に使われるだけあってその枝を折って匂いをかぐとさわやかな香気が漂ってくる。匂いもさることながらその新芽の緑の鮮やかさは何とも言えぬすばらしさだ。

頂上には少し前まであった雪もきれいに消えて夏を思わせる牧草の青々とした景色が広がって、その彼方にこちらともわずかに雪を残した医王の山が望める。

本当はと言えばカタクリをさがしにきたのだが、場所を知らずに来たことがまずかったのか全くその姿を拝むことができなかった。

それでもひっそりと咲くシュンランをいくつかみつけてプラスマイナスゼロとしておこう。

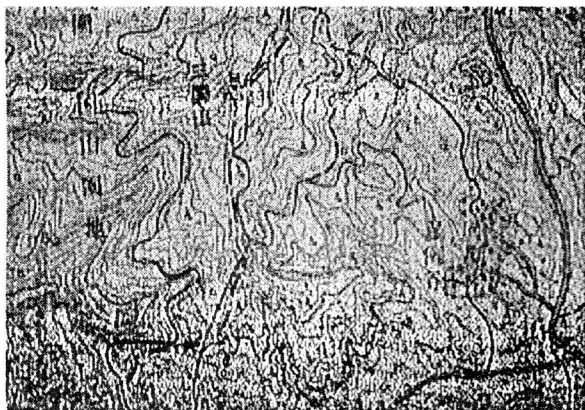


山頂付近から医王山を望む

100m級低山紀行

石川県、特に金沢近郊の山と名の付く丘のようなところ
写真・文 15期奥名

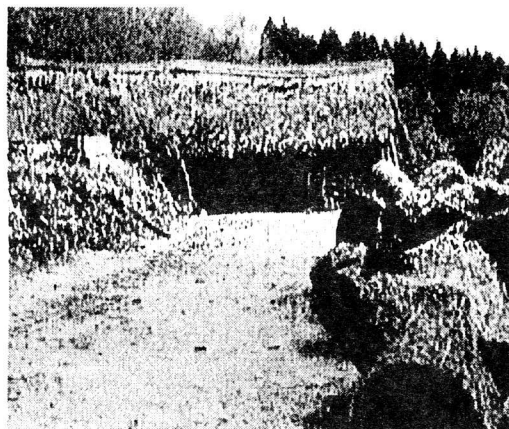
◆三国山



三国山 標高323m

三国山は津幡の北に位置し、標高は低いながらもその名のごとく能登、加賀、越中の三国を見渡せる山である。津幡を抜けて北へ進み能瀬でひがしの山間部へ向かう。富山県との県境に興津という部落があり、興津峠へうねうねと登る場所にへばりつくように20軒ほどの家がかたまっている。「こうづ」と呼びたくなるが「きょうづ」と呼ぶらしい。

峠から尾根沿いに右へ登っていくと整備されたキャンプ場があり、そこには立派なログハウスがいくつかたっていて休日にはかなりののにぎわいを見せているようだ。三国山へはそんなところを一直線に突き抜けていく。



炭焼き小屋

林道からの登山口には大きな鳥居が建っている。登山道とは言え車でも十分通れるほどの道幅があり途中の分岐までは行ける。足下のムラサキサギゴケやカキドオシをながめつつ登っていくとすぐに右手に炭焼き小屋がある。普段はどうしているのか人影もなく中は真っ暗な中に土間があるばかりで住んでいるようにも見えないが、煙はきちんと手入れがしてある。

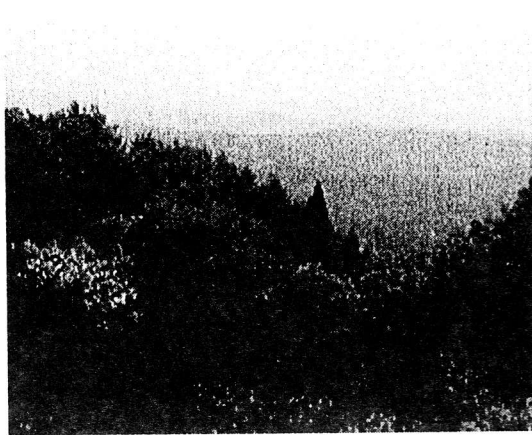
左手には竹林、右手には植林された杉林。そんな道の土手にはチゴユリがたくさんさいている。

スミレはほとんどがタチツボスミレ、分岐を過ぎてからは一面シャガの花の咲く斜面がある。



チゴユリ群生





山頂より金沢方面

山頂の少し手前の急な登りは杉と竹の林の中にあつて薄暗く、登り切ると様子は一変して明るく開けている。

頂上には登り口にあつたものとおなじ鳥居とそして祠があり、休憩用のベンチが二つほどおいてある。ここからは四方360度みわたせ、能登の海岸線、内灘の河北潟や医科大のビル、金沢方面、越中方面は山ばかりでよくわからない。天候はカスミがかつていてはっきりとは見えないが標高の割に眺望は素晴らしい。

白い花がこんもりとみえるのはオオカメノキかあるいはガマズミか

掃り道ヨメナを採取しておひたしにして食す。



山頂の祠

石川の百低山 巻8 権殿山の巻

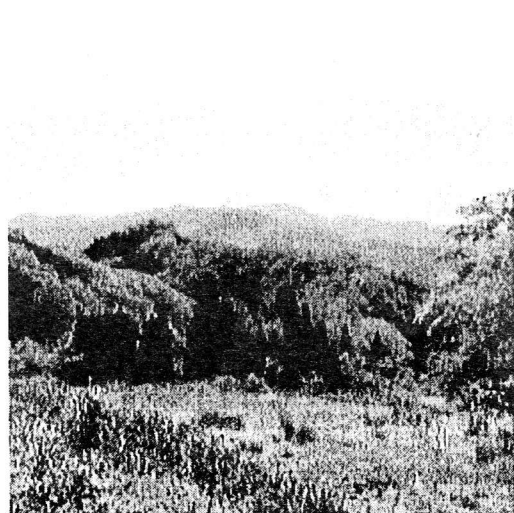
◆権殿山



権殿山 標高224m

権殿山は森本の町中から福光へ通じる国道304号を東へ向かい、途中二俣方面へ右折し古屋谷町・直江野町を過ぎて到達する北方町の北西背後にある。地図には郵便局のマークがのっているが現在は廃屋となっているようだ。北方町(部落)にはおおよそ10軒ほどの民家しかない。その民家のなかをしばらく歩くとすぐに山道となる。山道ではあるが普通車でも通行できそうな道幅で登りの度合いもたいしたことはない。

頂上には鳥居のマークがあるので、きっとお宮さんでもあるのだろうと思っていたが、お宮さんどころか山道から頂上へ向かう道すら発見できずに終わってしまった。それらしい道を見つけはしたものの、ほとんど人が歩いたような形跡がなくやむを得ず引き返した。



南方、医王山方面をのぞむ

里に近いにもかかわらず、訪れる人はあまりいないようで出会ったのは2台の車だけだった。

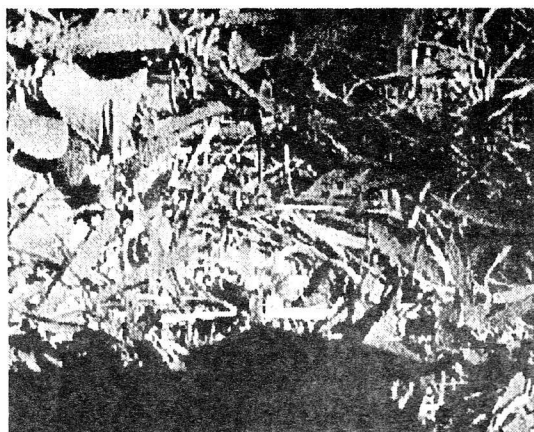
竹林の横を通った際、今朝がた顔をだしたタケノコが二つ三つみえた。

日当たりの良い斜面にはオヤマボクチが一面はえているところがあり、大きく分かれた二つの葉の間から伸び出した若い葉をいくつか採ってきた。漢字では雄山火口と書いてオヤマボクチとよぶらしい。かつては火を付ける際に起こした火を移すのに使われ、そのために火口となった。また、そばのつなぎや草餅としてうるち米にいれたりして、生活に密着したものであった。



オウレン

天ぷらにして食した。非常においしいものです。皆さんにもお勧めします。

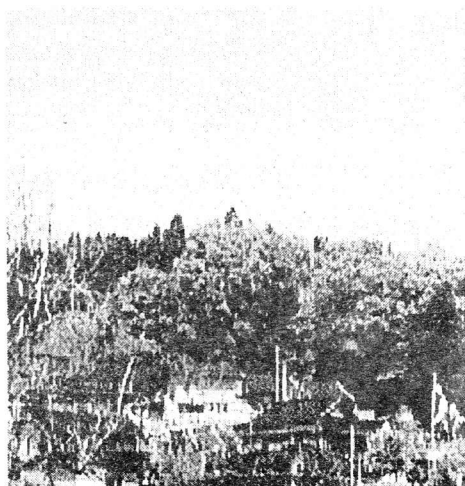


フデリンドウ

道の真ん中にフデリンドウが一ヶ所だけさいていた。地面からわずかに数センチしか背丈がなくうっかり見過ごすところだった。

北方の部落から背後をみてもなだらかな丘陵が緑に覆われているだけで山頂らしいものはみつけれず、鯉のぼりの泳ぐ町と木々の緑と快晴の空を眺めるだけで帰ってきた。

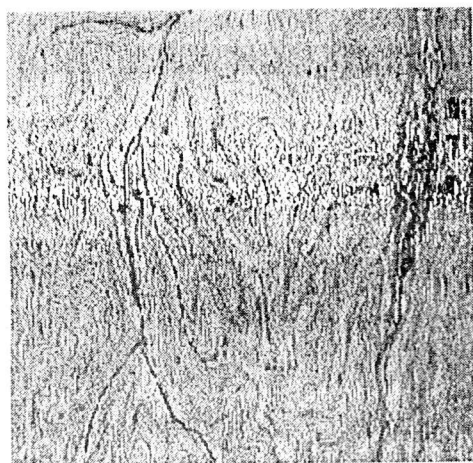
民家の近くでセリをみつけ、近くの人に断って少し頂いてきた。



山頂の祠

石川の百低山 巻9 寺尾観音山の巻

◆寺尾観音山



寺尾観音山 標高228m

加賀市役所から南へ約2km三谷温泉のある三谷川の支流に当たる曾宇川に沿って縦長の集落がある。さらに南へ舗装された林道を進むと20台ほどとめられる駐車場がある。ここから道は3つにわかれ、まっすぐ林道を進むとどこへ出るのか分からない。左へは沢沿いの道でそのまま沢をつめていくと頂上につながっているようだ。真ん中の急な登り道が一般の登山道となる。

登り口付近には薄紫のミヤマヨメナがまばらながらもあちこちに咲いている。左側の沢筋にはカタハが立派に育っていて商品になりそうだ。

養老11年(717年)二人の僧が観世音菩薩を1体ずつ持ち込み、土地の人とともに寺尾山を開き安置した。
.....

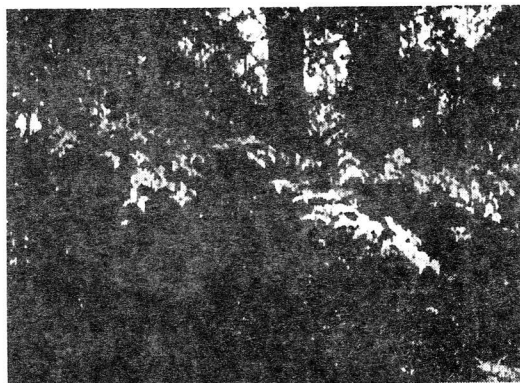
それよりこの集落を曾宇(僧)と呼ぶようになった。とは私の勝手な想像。



山頂の三等三角点

登り口からいきなりつづら折りの急な登りが続く。道はしっかりしているが水はけの悪い赤土のためすべりやすく、日の当たらない北斜面と言うこともあり、一気に尾根筋まで登ってしまいたくなる。

そんなはやる気持ちをおさえてひよいと横に目を転じると今を盛りとヤマボウシの花がきれいに葉を並べた上につきだしている。エゴノキの花が実際に咲いているところを初めて見た。ルート状の白い花がすべて下を向いて咲いている。しかしかなり高い木なので双眼鏡でしかその様子が窺えないのは残念だ。

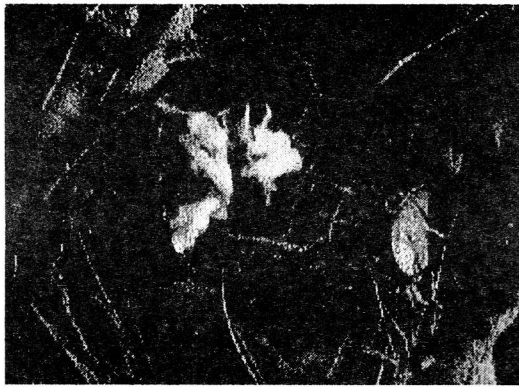


咲き誇るヤマボウシ



タツナミソウの群生

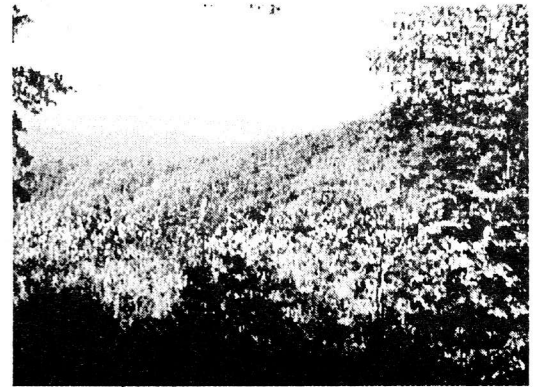
頂上のわずか手前に大きな観音堂があり、その近辺にはタツナミソウが一面に咲いていた。



ギンリョウソウ

尾根筋の道は明るくて快適

観音堂までのしっかりした道とくらべてそこからさきの山頂までの道は藪の中の道で、かなり歩きにくい。まわりには低木がおいしげり、ギンリョウソウなるものまで出現した。とりたててめずらしいと言うほどのことでもないらしいが、腐生植物といって自分自身は葉緑素を持たず光合成をしない。全身が白でユウレイタケなどと呼ばれている。なんとも気持ち悪い花。



観音堂裏から大聖寺の街を望む

山頂は三角点の周りはすべて藪で、そこまで行かないとわからない。愛想のわるい山頂ではある。

15期 舟田 節子

99年3月XX日

さて0%の4日、舟田ファミリーは福井今庄のホノケ山に向かいました。空にはタムシバ、足元にはショウジョウバカマにイワウチワ。右手に敦賀湾、左手に大日、白山、加越国境、越美国境の白銀の山々が連なる結構な展望の山でした。敦賀と武生を結ぶ幻の北陸道といわれ、ブナ林の中にもよく踏み込まれた古道が残っています。

山頂にいた小松からの夫婦と、山名を同定しながら話していたら7年前、筈ですれちがった遭難者と、彼らも1時間前にすれちがっていたとわかり、びっくり。それぞれの山にそれなりにベストシーズンというものがありますから、あちこちで「ニアミス」をやっているとわかりました。

旦那なんか調子づいて「石川県の山も書いたんですよ」なんて……。私はその件はわざわざ言いたくはないんですよ。私より登っている人ならそれこそ山ほどいる。あれは林代表にきた話であって、彼が最終責任を持ってくれるからこそやれた仕事。自慢する筋合いのものじゃない。意外とおめでたいんだわ……。

それから、またあの山がどうのこうのの話になって、「そういえば、高三郎ってのも随分骨のある山で……」そしたらすかさず「ああ、あの山はこれが整備に行ってるんですよ」もお……。そう、それは自慢できますよ。お膳立てして、現役の薄弱を嘆いたり、叱咤激励したり、これは十分苦勞しているから、誉めてもらっても罰はあたらん！。しかししかし、私としてはやっぱり旦那には申し訳なくて前後には、良妻賢母を心がけ、そっと抜け出て倉谷にでかけてたんですよ。なあんだ、旦那の自慢の種になるんだったら、これからはでかい顔して出掛けよと。あまりの教育効果に、私の方がびっくりした……というお話です。

99年4月XX日

4月17日土曜日は残雪の奥獅子吼、つづく稜線の宿(しゆく)の岩へまわっていました。獅子吼からの尾根伝いは高度感がありながら道そのものは平坦。ショウジョウバカマ、カタクリ、キクザキイチリンソウ、そして生垣並のヤブツバキの群生。視界に花のない所はないくらいのフラワーロードになっています。時折残雪が道を埋め、そこにカモシカの足跡がついているのがまた嬉しい。真正面にテカテカの白山。そこからべたっと白く大笠、奈良、見越、そしてわが高三郎が三峰それぞれに根張りをもって連なっています。残雪のこの時期、谷筋がくつきりうかびあがり、藪山がぐんと格のあがった名山に見えます。

目の前ではギフチョウがもつれあって飛びかい、
まあ獅子吼高原からの音楽は聞こえてくるのだけれど、
かなり天国に近いと思えた山でした。

気を良くして、かねて尋ねてみたいと思っていた
宿の岩へまわってみることにしました。
そこは以前河内村板尾から遡って道がわからず敗退。
その後一会員の調査で写真も撮り、分県ガイドに掲載された
(泰澄大師遥拝の地としての史蹟価値あり)ものの
やはり道がわからないと一番クレームがきた所でした。
藪の薄いこの時期、尾根筋からならねえらるだろうと
獅子吼高原とは正反対に尾根をたどっていったのです。
意外や道ははっきりとついていました。昔の送電線の
巡視路として、巡視路程度の鮮明さで。だからこの標高だと
道はあるけれど、他の季節に一般ハイカーには
お奨めできません。残雪不明箇所では二人で道を
探しつつ、ついに宿の岩を見つけました。というのは
後の話で標柱が雪で埋もれていて、これかもと何枚か
撮った写真が、本と見比べたらそうだったということです。
つまり河内村は秋に手入れをしてくれているのだけれど、
手入れ後と、早春でなければ、ちょっと無理といった所です。

さらに奥の蛇巻岩も探してみようと、こうなると
乗ってしまうのが旦那。私は今回は地図に写してこなかったん
だからもう帰ろう。旦那はせっかくここまで来たのに・・・。
夫婦で山なんて幸せ！なんだけれど、たいていは
こうやって山の中で喧嘩する羽目になります。
仕方なくさらに一時間付き合い、もう道も雪の中
で判らなくなったところで引き返しました。
なにしこんなシーズンですからね、残雪からはねあがった枝で
向こう脛から鼻の下から、したたかにバンチくりましたよ。
それでも、途中収穫のセンナやコゴミで機嫌を直し、
河内村へ下りて、タクシーで鶴来へ戻りました。

まだちょっと尾鱧の話があります。
「すみません。電話を貸していただけませんか」
と寄った家が、偶然にも旦那の昔の患者さんの家でした。
それも、そのおばあちゃんの息子さんが
例の7年前の笈の遭難者の第一発見者だったのです。
あの時もそんな偶然に吃驚したけれど、
病院でしか会っていないその人に、たまたま寄った家で
出くわすなんて・・・。
2週間前のホノケ山といい、笈がからんでくるのは
なんかあるんでしょうか。
今年は雪がたっぷりついています。
ゴールデンウィーク、もし天候にめぐまれたら
ねらってみたいですね。
難しそうかといえ、三方岩方面からは数珠つなぎなのが
ゴールデンウィークの笈の現実です。さて・・・。

99年4月XX日

25日雨の日曜日。今日はいくろゆりに同行。
雨が降ると旦那は「わしはナカオではない」と、
ちゃんと風邪をひきます。そして送ってしてくれるのです。
この軟弱者！こんな時は他のメンバーとおしゃべりが
たっぷりできるから、まあ、かまへん。
「雨の日に登るものの気がしれん」といわれても
参加者は60人。みんなこの日を空けていたんだもの。

板尾では現地出身のおじさんが、自前で小屋を
建てていました。1000万かかったとか。
県により板尾コースが復活し、望郷の思い捨てがたく、
定年を3年後に控え、財布をはたき、休日の度通って
建てたとか。17軒あった部落がここを離れたのは
昭和46年とのこと。じゃあ私の記憶も間違いではない。
2時間の行程。そのうち30分強が沢筋の雪の上。
もちろん何もみえないけれど、ガスの中に浮かぶ
新緑もまたよし。
ナカオの内5名は、帰りは小原にルートをとりました。
ルートを効率良く調査なんて、結構名目で、
心置きなく山菜取りに専念したのでありました。
この部分はワングル時代とは完全に違い、
家庭をもって芽生える領域です。「山乞食」と、
採らない主義の人もありますけどね。

そのルートを通る人の数で保護、愛護(利用もする)の
使い分けをすればいいことです。
今年の公立入試問題にあったじゃないですか。
子供にトンボ採りを楽しんでほしい。そうでなければ
トンボが住めない環境を心の痛みとしてもらえないって。
ウド、ワラビ、ゼンマイ、コゴミ、タラノメ、シオデ、
コシアブラ、フキ・・・これらを、煮て、炒めて、揚げて、
「いやみ」をちよっとふりかけて、春の味！究極グルメ！と
家で味わいました。

浅間山遭難の内一人が、学研の友人が中学生の理数指導に
雇っていた人でした。「舟田さんも気をつけてね」と
わざわざ電話をもらいました。
自分が気をつけていても巻き込まれる交通事故に比べれば
自己責任なんだし、こちとら、救助してもらえるまでの
予備カロリーも準備してるつもりなんだけど・・・。
どうぞその折りは、このネットも使って救助に来てください。

いやあ昨夜は生徒の父親から電話がかかってきて
20分近い対応の後には、顧客満足ということで
補足のお手紙打ちに追われてしまいました。
ご当人は放課後のスケジュール満杯。公式も正確に
覚えられない。親にすれば一人か二人の大事な我が子。
見ているようで見えていない。待ってやれない。

リップサービスしたって、本人の資質は変えられないですよ。
学力アップサービスは不可能なんだから、
苦情を誠意をもって受けとめ、子供の自己弁護の歪曲情報を
ソフトに訂正し、気長に励ましをと・・・。
学校が、半分しか教科書をやらず、なんかあればさえ
学級会。皆で考えましようの時代に、百点まで直しましようが
だんだんイジメになっていく。
今の小3で、大学全入が可能だそうです。一部を除けば
競争する必要がない。できるのか、わかったのか、
評価したり、差別したりしないでいいんです。

「大学生を指導します」のDMIに呆れましたけれど、
進級、卒業できない大学生への指導が商売で成り立つ時代です。

ゴールデンウィークは3、4日と岐阜県の瓢ヶ岳ともう一山。
雪の上ではないので、御安心を。

99年05月05日

29日は大山へ行こうとして通行止めで、小松の動山へまわりました。
創造の森からの新しい道を、杉の倒木を跨ぎつつ行ったら
ふっといワラビだらけで・・・「もう止めとこ・・・あった！」
で、結局蒸し釜3杯分アク抜きする羽目になりました。
出立が遅かったのと、大山を回ったのと、山菜採りのせいで
頂上着が2時。白山が見えていたのはその前後1時間ほど。
見る度に1枚ずつ白いベールを脱いでいくっていうか、
雪解けが進んでいく。「息子よ、あの雲が流れている所が
今雨が降っているんだよ。」と言うか言うわんうちに陽が陰り、
途端にシャーと霰。まあすぐ止んでさらに山乞食をやって帰宅しました。

その日、ナカオの数人は中日歩こう会の指導。5月2日はその
予備日にあたっており、春合宿は3、4日。
岐阜県瓢ヶ岳(ふくべ)は1163m。どうというほどの山では
ないけれど、白山山頂の方位盤に刻まれている中での
最後の未踏峰だったのです。(多くの文献では抜けたまま流布して
いるらしい)。現地に行けば山岳信仰の歴史があり、刻まれるだけの
名山であったとわかります。翌日は雨につき、神社巡りに終始
したのですが、州原神社などは表参道が長良川そのもの。
渡し舟で寄付いて参拝し、次に白山神社に参拝して後に登拝と
敬虔な信仰登山のルートがあったようです。

メンバーの中には、1日が白山日帰り、2日は鋸崎山。
今日は骨休めなんてすごい山女(山ンバに近いかな?)もいます。
年間100日なんて年もあって、まさに桁違いなんだけど
実は開頭手術が2回。入会してからも足の骨折をやったけれど
筋力トレをやってちゃんと復帰。あれだけウオーキング・ハイ
になれるんなら、頭開いても悪くないと思えるほど
もらった命に積極的です。
ちなみに、医王山に点在する地藏さんの赤い前掛け。
彼女が作っては御主人とつけかえています。
ご主人はかの雄山高校山岳部出身。ピアノの調律がお仕事で
素敵なお夫婦です。

社会人山岳会に入ると、大学の部とは全く違った人達と知合えます。
昔の仲間に声をかけて集まってでは、お山は遠くなるばかり。
自分の住んでいる地域で山岳会を探せば
山仲間も、行ける山も、すぐ見つかります。
OBが全国に散って、それぞれに山を続けていて
ワンゲルネットで最新山情報が交換できたら・・・。
そう、「ワンゲル」なんて枠をつける必要はありませんね。
枠の意識を持たず、ネットを広げている人達がいる。
こっちがアクセスしてみればいいんだわ！

99年05月13日

* 8日は取立山。9日は小松、兜山に行ってきました。
取立のミズバショウは今週末ぐらいが見頃。残雪の白山の
眺望も抜群で今がお奨めの山。たいそうな人出です。
ちなみに5月2日、シャクナゲで有名な富士写ヶ岳は
200人も山頂にいたそう。
今週末はたぶん鳴谷山へ行きます。シャクナゲ、ミズバショウ
が一杯の山です。
春合宿の鳴谷しか知らん人はかわいそうよね。
同じ山に登って飽きんか？と知らない人はいうけれど、
毎回新しい発見があり、同じ表情のことはないもの。

99年05月29日

29日は鳴谷山。翌日も晴れてしまい、別当出合へ植物観察に
行ってきました。本当は登りたかったけれど、
旦那は金曜日は富山の端の朝日までバイト。そこから金沢へ
帰ってきて、連日白山麓へ運転させて、登らせてというのも..
さりとて私が運転すると言っても、心配だと24年前に
ペーパードライバーに格下げされたままなんだから..
(旦那は大正解だったと言っちゃいますよ。運転させてたら
家にはおらん。..言えとる。)

鳴谷山には20台くらいの先行車。シャクナゲもミズバショウも
時期遅れ。やはり、分県ガイドの取材時が最高だったんだわ。
時期遅れの替わり、頂上手前までミズバショウがあることや、
その先の青柳新道の続き辺りにシャクナゲの群生のあるのが
わかりました。悟をおんぶしてきた時には、頂上付近にはトキソウ、
鎧壁付近はタマガワホトギスで埋まっていたし、
その前の上の二人を連れてナカオで来た時は、カライトソウと
リンドウが揺れていた。家族の成長と山の思い出が重なって、そんなことを

99年6月6日

恒例の浅の川を美しくする会。またしても前日に両隣分も掃除して
赤兎山へ向かいました。それにしても、以前「今度うちの班へ町会長が
まわってきたら、うちの番みたいよ」と言ったら、「わしゃやらん。
それくらいなら単身赴任する」と返事してたのに、本当に単身赴任に
なっちゃうんだから。いらんことは言わないもんですね。

(こんなのもマーフイーの法則でしったっけ?)

今日もくろゆりの山行につき90名近い参加者。でもここは大駐車場があるから..
と、なぜか遙か手前でストップ。勝山市主催の兎年にちなんだ記念登山が
開催されていたのです。運悪しというより、後日、その前の週に登った、そのさらに
前の週に登ったという人にそれぞれ出くわしました。
どの日も呆れるほどの満員だったそうです。やはり兎年だからでしょうか？

今日は大長山班と赤兎山班に別れており、我が家は珍しく楽な方の
赤兎山へまわりました。それは買い立ての接写レンズで湿原植物を
撮影してみたかったのと、来週は大笠の心づもりがあったからなのです。
蒸し暑い日でした。
あまりに人が通るので、「撮影できん。あとから登る。」

と言ったのを真にうけて・・・ところがいつまでたっても上がってこん。
散々に抜かれて、痺れきらして戻って見たら、慣れないレンズにふりまわされて
旦那はしっかりバテテおりました。「もう撮るな！」とカメラとりあげて・・・
恐い？ここまで責任もってついてきてくれるの母ちゃんしかおらんよ。
水を「与え」たり果物を「食べさせ」たり、やっと頂上手前で本隊に
追い付きました。

湿原の方はあまりの混雑ぶりに、他のパーティーに交じっても困ると、
頂上から動かないことになり、もちろんその日のリーダーには従いました。
白山は一段と雪がなくなっていました。今日の暑さといい、これからは
水との闘いになります。

尚、大長山の方は以前はスス竹をかきわけてのひどいドブの道だったのに、
スス竹が刈り払われ幅広の悠々登山道になっていたそうです。
やはり満員の頂上だったとのこと。

ナカオの精鋭3名は、小原峠から三ツ谷へ下りて行きました。
いいのよ、うちはナカオの落ちこぼれでも。

真夏のニュースに、バテたのも仕方がないと心なくさめて、
アリナミン飲んで、お休み！



ゴバギボウシ

6月13日

昨日は松林さんのご推薦で安全登山の座談会に出席。でも、同席の富山の
中高年代表も、実は「連れていってもらおう」のレベルのままのようでした。
世話役として会員の気儘に迷惑をしてはいるが「楽しい」まででストップ。
つまり、サポート隊に「山行面ではまるまるおんぶ」の会からの代表でした。
それは、既山岳会の人達が

月に1回はボランティアで、そのままでは危ないような人達にも山を
楽しませてあげようといった会だったようで、そんなおんぶにだっこも、
富山ならではの厚い登山者層にささえられて可能なようでした。
つまり所属するには何ともらくちんな会で、その為に350名の会員に
ふくれあがっています。今は顔も一致せず、かつ月1回の例会山行以外に
会員達は勝手に山行をし始めていて、私はこれから事故が続出するなと
聞いていました。

意図するところは親切であっても、相手の大人は勝手に判断し、自分さえ
よければで動いてしまうものです。山では半端な親切はするものではない。
きれいなカラーのガイド本が、下界の気儘を持ち込む登山者ばかりを
増やしているみたいで、懸念もすれば、自己嫌悪にも陥ってしまいます。
(このあたりを長々書いたのは、あとの伏線になるからである。)

ともあれ百万石祭の金沢を後に、富山・岐阜県境の登山口に立ちました。
まぶしい緑と、紺碧の空に残雪をまとう山並。

旦那はバテからは立直ったものの、うすら心配で「Kさんを誘ったら？」
で、今日は舟田夫婦プラスKさんの3名。

Kさんは13年前仲間とナカオから抜けてしまったけれど、
当時から私達とは気のあう人で、彼の気の良さに「おんぶ」して、

背伸び気味の山にもチャレンジさせてもらうことがあります。

大笠は私は2度目。道には迷う所なし。されど夫婦二人だけでは、登れるであろうにしても余力ゼロが正直な所。ダメもとで電話したら先約をキャンセルしてOKしてくれました。

だから好天に恵まれたのが尚嬉しい。

桂湖は満々の雪解け水をたたえ・・・それを真下に見ての恐怖の鉄梯子5脚からスタート。心臓縮んだまま今度は破裂しそうな急登が延々続くのです。

1月前かに、今日13日に「大笠山山開き予定」と紙面中に見かけたのですが、そんな形跡どこにもなし。京都や札幌のナンバー6台は停まっていたものの・・・急登はつらいけれど、この自然真っ只中がなんともいえません。このところ人のあふれる山ばかりでしたから。

天ノ又からは意外に白い白山が。先週の赤兎は南面で、こっちは北面にあたる為なのです。笈側の谷も奈良岳側の谷もグレーの岩壁をつらねていて、壮観。急登の部はここで一段落で、ここからはアップダウンの忍の字コース。でも残雪の箇所にはカタクリやコブシが、他の所にはツバメオモト、ツマトリソウ、コイワカガミ、アカモノと初夏の花が待っていてくれます。Kさんによく知ってるねえと

誉めてもらいましたが、いつもはコースタイムの半分で飛ばしているKさんだから、花を見ている時間も半分としなきゃこっちも立つ瀬がないわよ。新築の避難小屋に着く。小屋にはテント、シュラフ、ガスボリなどが設置されていました。これでどれだけ助かるかしれない。そこからトラバースして、さらに階段をはい上がり、奈良との分岐。やっぱりあった、ハクサンコザクラ。そしてルンルンの平坦10分で頂上。途中で追いついて行った単独行さんが昼寝をしていたから、そろっての記念写真を撮ってもらいました。

山岳展望も今ではCGでどうにでもなるらしいけれど、花、雪、風、音はついてきません。息を整えつつのやったぜ！が、やっぱり充実感です。秘境中の秘境に立てば、会心の笑みがこぼればかりです。

しかし、降りなければ帰れないのよね。下りは楽といっても3時間半かかり、大笠は白山の日帰りより覚悟のいる山と誰もがいます。上部の方には木製の階段がつけてあるけれど、これがまた地盤と丸太は沈下して、鉄杭だけがはみでていてやばい。「危ないよねえ」と言いつつ避難小屋から30分程下った頃、右手の枝にひょいと気をとられた瞬間左膝頭に激痛！鉄杭にひっかけたのでした。

ウウとうずくまり、さすって歩きだす。打撲とも違う異様な痛さだったものの歩けるのにホッとして、忍忍の尾根を尚も降り続けました。やっと天の又のベンチにたどりつき、やおらずボンをたくしあげてみたら、パッカリ傷が開いていた・・・。

3cm強の裂傷でもこぼれる程の出血でなかったのは真空切りみたいな切れ方をしたせい？ともあれ降りるしかない。幅広の傷バンをあてて降りてしまいました。

傷を見た旦那が「あんなのに当てたらそんなもんだ」と言い、



コオニユリ

夏山シーズン近し 中高年登山ここに注意

降りついた途端「こりゃ当分動けんなあ」と真顔になったのは
山中で動揺させてはいけないの気配りだったのか・・・。
ともあれ後はさすがにてきばきと手配してくれて、10針縫う
羽目になったのでした。
安全登山の話をしてきた翌日のお話なのであります。

新聞に載ったのは2日後。見た見た、すごいねと電話がかかってくる度、
なんとも情けなく傷は疼いたのであります。

(抜糸がすんでもう10日。卯辰山でもうリハビリ済みにつき、
お天気次第でもう動きます。ところで、ナカオは7月4日に大笠だって。
いくら何でもパスです。でも梅雨のさなかです。やっぱりあの日が
登り時だったんですよ。)

6月30日深夜

北 国

平成11年(1999年)6月15日 (火曜日)

中高年登山の魅力を表す「3K」があるといいます。一に健康、
二に感動、三が軽装備。夏山シーズンが近づいています。健康ブーム
や自然志向の高まりから山の魅力に取りつかれた中高年が多いようで
が、自らの体力の衰えに気づかず事故や遭難も多発しています。ズック
で三千級の山に登る無謀な人も見掛けるとか。山登り、山歩きが大好
きで、初心者アドバンスも出来る四人に、「失敗しない中高年の登山」
の心構えを聞きました。

出席者

森田 富美子さん(金沢 くるりクラブ)	舟田 節子さん(金沢 ナカオ山岳会)	今泉 暁子さん(高志山の会)	浦山 悟子さん(高志山の会)
---------------------	--------------------	----------------	----------------

3つのタイプ

舟田 中高年の山ファンには三つのパターンがあります。一つは若い時からの山好きが続いている人。

二つ目は若い時にやっていたけど中断して、定年などを機会に再開した人。三番目が、子育てなどが終わって余裕ができて若いころの蓄積がなくて始めるタイプ。比較的、危ないのは二三のタイプです。

森田 この前、白山に行ってきたのですが、ズック靴で登ってきた年配の女性に会いました。きちんとアイゼンをつけた登山靴で登る別のグループもいるというのに。「雪が残っていて危ないので靴をつけてください」と言ったらイヤな顔をされてしまった。

今泉 私たちの会

は平成元年に名古屋の中高年グループの遭難事故があった後、平成三年に中高年の山好きのために作られたのです。百五十人で始めたのが今は三百五十人にまで増えました。

舟田 新3Kといわれるなかでも、やはり健康志向が、今の中高年登山を支える最大のものではないでしょうか。私たちが、グループを大切にすることは、いろいろな理由があります。例えば荷物や分散して持つていくことで、装備が軽くなること。山の情報が入ること。

今泉 中高年はやはり重い荷物ではバテます。あるお年寄りの荷物を見た時、もう食料がいっぱい。特に女の人には、人にあげようと、余分なものまで担いでくるケースが多い。人の心配までして自分にくたばってしまう。

浦山 確かに軽装備の時代

語で相談されても、正直なところ返すしようがない。

今泉 あの人が行けたから、私も行けそうと思う人が多いですよ。危ない。

浦山 自分の体に合った行動、無理をしないことを基本にする。七十でも八十歳でも、自分に合った登山はできる。

今泉 鋤岳に日帰りするベテランがいて、それで健康のバロメーターといいますが、あまりお勧めできない。私たちは、ゆつくり自然観察など、草花一つも見ながら行きたい。

浦山 四十歳のころまでは限られたシーズンにしか山へは行かなかったのですが、今の会に入ってから、一年を通して低い山にも、自分の世界を見つけました。体が弱かったのが、山に入っているだけで精神的にも肉体的にも強くなりました。

組織で学ぶ

舟田 私たちの学生のころは一学年に三十、四十人のワンダーフォーゲル部員がいたのが、今は四学年でそれくら

いです。今の人は組織を嫌います。そして手続きなども嫌がります。好きな時に好きな仲間少数で山に行く。一週間以上もお風呂に入れないような生活自体を嫌がります。

今泉 山小屋もきれいになりました。ステキにワインの食事までできる。水洗トイレは当たり前という時代。靴も立派、リュックも軽くなりました。

森田 中年でも先の新3Kで山を始めると、半数以上は、観光ツアーの気分を捨てて欲しい。山でのルールも覚えて欲しい。例えば道ですれちがえば登りの人を優先する、山頂に先客がいれば遠慮する、というマナーもある。

舟田 ワンダーフォーゲルでも、中高年でも、組織で先輩から学ぶ技術やマナーがある。

今泉 地図の見方を現場で学ぶこともある。単独ではできないことです。

舟田 登山は自分の足で歩くということに尽きるのですが、一歩間違えれば命にかかわるという認識を持つことが、危険と背中あわせで、あなた任せではできないことをもう一度押さえておきたいですね。

小島 敬 香港滞在記

1999年2月7日

喧噪と猥雑に満ちた香港の街を少し離れると、そこには驚くほど豊かな自然があります。

第25代香港総督マクレホース(在任期間:1971年~82年)という山好きの オッサンが、毎週のように香港の山々を歩き、気に入ったところをどんどん自然公園に指定した為、このちっぽけな香港に、奇跡のように自然が残ることになりました。九龍半島の山岳部を東西に横断する100kmの立派なハイキングコースは、この総督の名を冠して、マクレホース・トレイルと呼ばれています。北海道の礼文島のような海沿いの草地を出発点とし、南アルプス・北岳バットレスの如く聳え立つ岸壁の横をあえぎあえぎ登り、ススキの広がる高原を抜け、シラタマホシクサの群生する湿地帯を横に見て、ライオンロックと呼ばれる岩登りの練習場を通り過ぎ、野猿の数多く棲む鬱蒼とした森を抜け、香港最高峰の大帽山(957m)を越え、静かな人造湖のほとりを歩く、全長100km(東京から御殿場、名古屋から京都)のハイキングコースです。

山仲間10数人で1998年9月から5回に分けてこのコースを歩きました。ゴール手前の湿地にウツボカズラの群生地が何箇所もありました。さすがに香港は北回帰線より南に位置するだけあって、植物も面白いのが生えている。

1998年10月中旬、日本人倶楽部に山の会のメンバー30数名が集まって立食パーティー。10月上旬の連休を利用して1週間ほどブータンの山岳部をトレッキングしてきたメンバーによる報告会だとか、香港の自然のスライド撮影会だとかがありました。会員は日本人が大半ですが、米国人、英国人、香港人、ネパール人など「外国人」もいます。写真好きな日本航空の駐在員は、香港の自然を題材にした1999年版カレンダーを作り、結構評判がいい。私もつられて3部買ってしまった。

デジタルカメラを持たない私は画像を皆さんにお見せできないのは残念ですが、香港の自然の美しさは、その意外性も含めて、なかなかのものがあります。

香港17期 小島敬

1999年2月7日

11月は香港で最も爽やかな月と言われています。この季節に、毎年、「100km Trail Walk」という催しが行なわれます。香港の九龍半島を東西に横断するマクレホース・トレイルと呼ばれる100kmの山間ルートを四人一組(リレー形式ではなく、四人全員で同時にゴールしなければならない)で48時間以内に走破するという、「体力と気力とチームワーク」を競うレースです。

元々は香港駐留のグルカ兵の訓練(四人というのは軍隊の最小単位)の為に始められたレースですが、1986年からは民間人も参加し、中国返還後の昨年は市民だけで運営されるようになりました。

100km Walkのホームページは、<http://www.hk.super.net/trailwalker>

私もひょんなことから山登りの同好者の多い新潟県人会にはいり、県人会から参加の4チーム16名の選手の一員に加えてもらいました。9月から毎週末、マクレホース・トレイルのコースを20kmずつ歩いてトレーニングを重ね、本番の11月までに180km近くを走破しました。このレースは標高差1000m近い山間コースを一睡もせずに歩きとおすという、クレージーとしかいいようのないレースです。

私のチーム「黒姫」は一人の脱落者もなく、33時間19分で完走することができました。参加760チーム中、完走したのは398チーム。私たちのチームは186番目のタイムでした。四人ともこのレースには初参加で平均年齢も47才と新潟県人会の中では最高齢チームでした。何よりもうれしかったのは、全員で一緒にゴールできたことでした。それに、選手に倍するサポート隊が2ヶ所のサポート地点で、暖かい食べ物や飲み物を用意してくれたお陰で、無事に完走することができました。選手とサポート隊が心を一つにしてゴールをめざす100km Walkは、今まで経験したことのないものでした。ちっぽけな香港でこんなに面白いイベントに参加できて大満足。会社休んで100km歩いて何になるんだと言われれば、何もありません。ただ、無駄で馬鹿なことをみんなで力を合わせて成し遂げることがこんなにも感動的だとは思いませんでした。馬鹿なことに首を突っ込んだお陰で、気の置けない仲間がたくさんできました。やはり一緒に汗を流さないで親しくはなれないのだと、改めて思った次第です。100km完走したことは香港でのいい思い出になりました。来年からはサポート隊に回り、不揃いなおにぎりをたくさん作って選手の完走のお手伝いをし、この感動を分かち合いたいと考えています。香港 17期 小島敬

1999年2月7日

1998年11月13日(金) 本日、100km Trail Walkの幕が切って落とされた。

今朝の天気予報は最低気温21度、最高25度。スカットした晴天で気持ちがいい。

地下鉄・彩虹駅には12時集合。駅に着くと、今回一度も練習に出ておらず、心配していたケイ(香港人)がいた。ケイは他のチームメンバーがわからず、別場所で待っていた。声をかけ、本多、浜、神田、大場、安本、小島に紹介。大場嬢は靴は別にして、上から下まで前身新品に包まれ、忍者みたいでカッコいい。頭にはヘアバンド。後でみんなに風呂上がりみたいだと言われていたが、この前の日曜日の最終練習で、左手の小指の付け根が折れたとショゲていた神田さんも、ただの打撲だったそうで、病院でレントゲンを撮ってもらったら「ちゃんと付いてます」と医者に言われ、恥ずかしい思いをしたそう。そのうち、中山、清水、田中、マーク、到着。ダニーは少し遅れると電話がある。浜本さんは直接行くらしい。松井さんが来ない。老年キムタクこと、木村さんも来ない。みんな人の荷物の重さを計ったりして待つ。膝が腫れてると言っていた清水さんは何とかかなりそうだ。田中さんの風邪はどうなんだろう。やたら汗をかいてるのが心配。

12:15、ダニー(香港人)を最後に全員到着。ミニバスで西貢へ。西貢からはタクシー。濱本さんが来ないダニーチームをおいて13時過ぎ、各チーム、チェックイン。

スタート地点近くのBBQ siteで昼食をとる。森Qは老年キムタクが作ってくれたオニギリ、卵焼き、ポテトサラダ等をいただく。年寄りには朝が早いのか、それにしてもマメである。安本さんは、木村さんはいい嫁になれるよと感心して言う。小島さんの荷物がやたら重い。ザックから物資を出して最点検。林檎が6個にオニギリ4個。それ以外にもオヤツ関係が沢山入ってる。中山さんが、オヤツ料金オーバーしてる、先生に取り上げられるぞと言う。確かに、こりゃちょっと多すぎる。そう言う、やおら小島さんは食べ始める。羊羹をムシャムシャ。中山さんが、よう噛んでたべなあかんでって、うけないギャグ。ランチを終え、スタート地点近くに移動。

浜本さんが来た。超軽装。ウエストポーチに水500ml、手には林檎日報、てな出で立ちである。老年キムタクが、新聞を指差し、それ便所紙?って尋く。おいおい、そりゃ、と一つも古いゾ。各チームの記念写真、全体写真を撮る。

午後3時の出発時間が迫ってきた。選手達はスタートラインに並ぶ。私と金子お兄さんは、ちょっと前でカメラを構え、選手達の使用前を撮ることにする。使用後のゴールで、この笑顔が見られるのだろうか??? 秒読みが始まり、アツと言う間に、ウンカのごとく選手達は私達の前を通り過ぎて行った。思わず後を追いたくなる。

1999年2月7日

11月15日(日)、深夜 無事100kmが終った。

ダニーチームは、ケイが病院送りになるというアクシデントがあったようだが、23時間22分という好タイムでゴールしていた。こりゃスゴイ。松井チームは、これから最後の階段を下りますと電話があつてから、なかなか来ないと思つたら、ゴール前で全員県人会のTシャツに着替え、顔まで洗っていたらしい。道理で、第2サポート地点ではあんなに疲れた顔してたのに、松井、中山、清水、田中、全員スッキリした男前でゴール。30時間を余裕で切るタイムだった。

児玉さんとの賭けに勝った中山さんは1000ドルを手に入れた。みんな、早速タカリましようね。本多チームは、児玉、安藤、森Qが迎えに出る。最初に来たのが浜さん。気付かず通り過ぎてしまい、浜さんに声をかけられて驚く。浜さんは闇夜に紛れるくらい黒くなっていた。5分ほど遅れて神田さん。いつも疲れると頭をグラグラ揺らしながら歩く人なんだが、首はちゃんと座り、しっかりした足取り。もう5分ほど遅れて、本多さんと大場嬢が来る。意外なことに一番疲れていたのが本多さんだった。やはり前日の午前様が祟つたのだろう。大場嬢が、眼を離すと落ちそうになるんですよと心配して言う。

このチーム、最後は4人で手に手をとって、雪崩のようにゴールした。31時間を少し切れた(と思う)。最後は迎えに行った私達が無理矢理走らせたのだ。30時間台でゴールさせようとして。すみません、疲れた馬に鞭うつようなことして。この後、選手もサポート隊も、安本チーム(「黒姫」チーム)を待ちきれなくて帰ることになる。このまま残して帰れないと言う河津嬢、当然待つと言う児玉親分、同意見の安藤嬢と森Qが残る。安本チームは誰の携帯電話もつながらず、いつ着くのか全然見当がつかない。checkpoint 9の通過時間から計算して、児玉、安藤に荷物番をしてもらい、河津、森Qがゴールから迎えに出る。15分ほど歩くと老年キムタク見つけた。永六輔バリの笑顔で案外元気。後は少し遅れて3人一緒。前田さんは声が出ない。膝がそうとうキテル。安本さん、小島さんは前田さんほどではないにしても辛そう。よくぞここまで来たもんだ、と抱き締めてあげたくなる。最後の階段を、前田さんは本当に辛そうに下りる。一歩、一歩、壊れかけたマリオネットのように。そして4人、横一列になって待望のゴール!

時計は午前0時を半分ほど回っていた。

選手のみなさん、サポート隊のみなさん、長い長い一日でした。本当にお疲れ様でした!

学習塾「まなび舎」開く 松本の高木さん

蔵づくりの建物の周りには色とりどりの花が飾られていた。玄関の壁に「まなび舎」の看板。多くても四、五人の少人数の授業に集まるのは、不登校や障害のある子も含め、小中高生を中心に約四十人。学校の授業の補習に来る子どもがいたら大学受験を目指す高校卒業生もいる。勉強内容などは様々な個別指導を基本に少人数で対応する。

松本市の高木美保さん（三〇）が夫の北村智明さん（三〇）と五年ほど前に自宅で始めた。

中学二年生向けの社会科の授業をのぞいてみた。

高木さんが五人の生徒に、まず紅茶を振る舞った。配ったプリントには世界地図が記されている。

「このお茶ってどこで作られているのかな？」

「中国」「インド」と子どもたちから次々と答えが返ってきた。高木さんの話は茶の産地や植民地時代の歴史、イ



子供たちに足し算を教える高木さん。ほとんどの授業は2、3人の少人数だ。松本市旭1丁目

日常題材に対話の授業 考える力深める生徒ら

「とろろ、金沢で学習塾を開いた。そして一九九三年、知人の紹介もあって松本に移り、「まなび舎」を始めた。これまでの経験から、「学力はあるのに自分で物事を掘り下げて考える力がない子が多い」と高木さんはいう。日常生活とのかかわりを重んじ、日用品を使って授業する



高校三年だった昨年、あるコンクールの作文で「障害があっても義務教育で学ぶ知識は絶対必要」と訴えた。障害があったり不登校になつたりする子どもは、学ぶ意欲があるのに周囲から十分に勉強の機会を与えられていない、と高木さんは指摘する。こうした子どもたちの交流の場をあげようと、授業のほか「課外活動」を開いてきた。「勉強を通じて、できなかったことができる喜びを伝えたい。知識や知恵は生活の中できつと役に立つはず」と高木さん。「教育のことで悩む人と一緒に歩むことができれば」と考えている。

インドやパキスタンの核実験の話まで広がっていく。暗記用に知識を羅列するのではなく、子どもたちとの会話を軸

として授業を進める。大学で障害児教育を学び、予備校の講師や養護学校の教師を勤めた。だが「学校という組織での教育には限界があるのは、知識の詰め込みだけに終わらせたくないからだ。」

「まなび舎」で三年半学んだ全身まひの女子は、通信制へ。

健康

[illegible]

高木美保さんは岐阜県出身の34歳。養護学校教師や予備校講師などを経験し、平成5年に松本市へ移住。現在は日記に学習塾・まなび舎（や）を開き、不登校やへんたいを持つ子どもたちへ資格取得をめざす。社会人としても受け入れています。いろいろな“生徒”とかわるなかで、考えたこと感じたことなどをつづけてもらっています。



行事を通じて、各校の
成績が、よく出ていた。

たし新指導要領では、
各学校の設置に生じられ
た総合的な学習の時間か設
けられなければならない。また教
育の展開については、

ところが、実際はフル
ンター作りや畑作業、散
歩なども中学の学習内容と
は程遠い授業ばかり。作
業学習もまぎらわしたフ
ログラムに基つて、手足
の機能を高めるためのリ
ハビリとして取り入れら
れるものが多い。だが、
ただ時間を費やすための

道中や旅にしろたは彼女
は「ふひひの音響をうた
へ」の歌に母の口をう
たへふひひの音響をう

私は大学時代に障害児
教育を専攻し、卒論のテ
ーマは「重度障害児にお
ける生理学レベルでの反
応」。自力で
は書けず、母が

保美木膏



障害に見に勉強は必要ない？

[illegible]

「ふは種族をわけて
ふたつ 階級の通ひつたもの
れは異國に結婚して異國
たる」。これは非難の言
語に 實にこの言葉が
いふゆゑにせむ。さうい
ふから無難といふとい
ふはかくしにくに校し
て 来つたものといふ。
にせむ。前夜の種々の
言葉が 認識不足の不飽
満に翻つたものといふとい
ふは斯ういふ。

(新編「長崎」出
版)

以是為阿世之學也

上などの場合、養護学級にはなく、普通学級の教室で授業を聞ければ、書いてことが困難でもなかり勉強になり、入試間際

[illegible]

彼女のように学びたい
意思があるのに、義務教
育もまともに受けられな
い生徒がいるのは悲しい

高木美保



これでいいの？学校教育

正法からいふと、政治の根本は
「権利がある」と中野生
に譲渡を教へたが、た
し世にたつたものは、
その世に。

また、ある公立学校の
授業を参観する機会があ
ったのですが、その英語
の授業にはかえりません
でした。授業時間の半分
以上を自分の休日の話に
費やしたあと、おもむき
に黒板を回って、教師は
背広のポケットに手をつ
っこんだまま黙々と課題
の書きを導きます。

何の説明もしないで書き終わると「英語が難しいが、手とか書つやうが、それは努力不足だ。数学で二時間、英

時は三時間は毎日勉強し
 ならぬといふはいい。な
 らぬに勉強もしない文
 句を言つては駄目だ」と
 言ふました。質問した生
 徒に對しては「教科書を
 読んで自分からいふやう
 におれの説明が理解でき
 るわけなら」と言ふまじ
 ん。新しい文法や構文の
 説明もいふにすぎず、自
 分が何となく、どうい
 のが果たして自主性を養
 へないものはあつた。歸
 間に思ふます。こんな
 授業が目の前に平然とあ
 げられたことに、本音に
 驚きました。

(課題「お金の道」生
徒)

私の郷土は空を飛ぶ

9.

また、過去の入試問題も書店で冊子になって売られ、だれでも簡単に入手でき対策を立てられましたが、これでは受験の生徒のみが中学でもらえるだけで、これは簡単に

[illegible]

(新編)「まなび舎」生
評)

核家族で共働きなのが
家では、乳児のころから
保育園は不可欠な存在し
ますが、この上の子が休みの
たびに園は「希望保育」
になります。例えば今回
の園のお預りはまだで

This is a scan of a blank sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. A single vertical line runs down the right side of the page, creating a margin. The paper appears slightly aged or off-white. There are some faint smudges and shadows across the surface, particularly towards the bottom left corner.

親の背中を見れば子は青
ひ、我儘ガタンの毎日で
寂しいだらう
けぞ、懸命に
働く親もい



母親が働くには環境・
風潮はまだまだ厳しい・
三歳前に外に出すと胃腸
が不安定になるとか、さ
らにはキレやすい子の原
因にまでなれたり。キレ
やすさについては食べ物
や環境キレ主への影響な
どもわかってまいりてい
るようです。未就学児か
ら大学入生、社会人まで
の多彩な学生の中には
だいたいなによりずうどま

(新聞型「おなひ」生
座)

下記原稿は会報のための原稿ではなかったのですが、三角テント時代の私の立場からは非常に興味深い内容でしたので、掲載します。

学生の宿命ながら、「こうした方が」と全体が見えるようになった頃には、卒業であり、執行部学年に口を出さない美風も流れているようです。しかしながら、受け継がれる知恵があってこそ創部40年の歴史は輝くと思います。

ワンゲル・テント編成と購入時の考慮点

37期 柴田 祐介

テントは就寝可能人数が決まっており、かつ装備中にしめる重量も大きい
ため、本来なら山行ごとに適切な収員数のテントを装備するのが望ましいが、
全体合宿（新トレ・小屋作業等）や夏合宿のように同時期に山行が重なる現
状では、装備すべきテント数が膨大なものとなり、その財政負担が過大、か
つ、非効率なものとなる。

ワンゲルのテント編成は、現状では夏合宿のparty 構成を可能とする装備
がまず必要となる。

不可欠員5人、1 party 平均7/8人とするならば、5/6人用(V-604・エスパスジャンボ)
と2/3人用(V-304/404・D-41/Ⅱ)とをparty 数(4~5p)が適当。また夏合宿など
でparty 間で人数が片寄ることもあるので、最大10人party 編成までを考慮
して5人用を1ヶ程度余分に装備するのが、結果的に小屋作業、冬合宿等の全
体合宿で設営テントを減らす上でも好ましい。

エスパス・ジャンボは冬期においても6人就寝が可能のため便利であり、2ヶで最大
12人party を作ることも可能であるが、金沢での取扱店ロッジが閉店したの
で、新たな取扱店が現れなければ、購入・修理が面倒となるので今後購入対
象となるか疑問である。

また、同一規模のテントならば、機種を同じにしておくでフレーム・フラ
イ等を破損したとき代替が可能であり便利である。

故に、5人用としてはV-604(竪250×210■重5.5kg)。2/3人用として、D-41/Ⅱ
の消耗・償却後、V-404(竪180×210■重4.5kg)・V-304(竪150×210■重3.7kg)の2機
種が選択対象となるが、この種のテントが通常1ヶとして使われ、団装を置
かず個装のみである事を考えれば、(V-604の5人使用時の一人当りの占有面
積と同じ)50×210mmを3人分確保できるV-304一機種のみで十分でないだろ
うか。もちろん不可欠員が変更され、3・4人の山行が出るようになれば選
択の仕方は異なることになるであろう。

Vシリーズ編成だと、5人party の時、2張り持っていくのは面倒だから困
るという指摘があるが、ザックにカバーをかけテント外に出せば、一張り
で6人寝ることは可能である。実際、他大学のワンゲルのそういう姿を夏山で
みたことがある。

不足テントについては、購入が必要となるがその取得方法には3つある。

①まずは部の懐を痛めない学生課の予算で買ってもらう方法。ただし、この方法は取得までに時間が掛かる上に、学生課に予算が無ければならないが、学生は通常、予算など知り得ない。経験的には2・3月頃に年度末調整（予算を使い切る）のためか、次年度以降の予算獲得のための実績作りか？学生課の人からお声が掛かる。

2・3月に要求を出して許可されたとしても、取得するのは5月頃になるので注意が必要。またお声掛けを待つのではなく、年度中でも学生課に顔を出したら何かと言って物をいしたほうがいいのかもかもしれない。（笑い）

何にしるまず始めに予算ありきだから6人張が欲しくても3人張しか買えないということもある。もちろんテント以外の団装も購入可である。

確認した事はないが、これらの物品は学生課の所有物でワンゲルは借り受けているという扱いかもしれないので、その場合は返納すべきなのだが…。

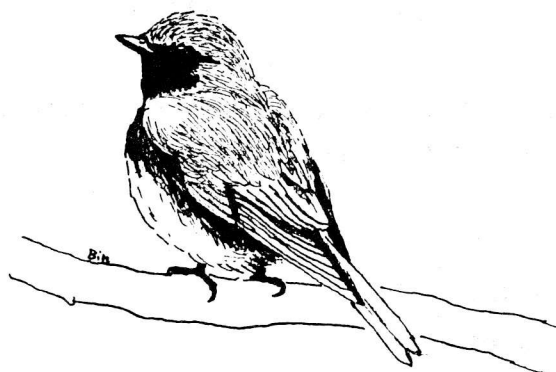
②部予算及び部員からの臨時徴収による団装購入費捻出。

新入生が有り難い事に大挙して入部したりするとテントが足りないといった事態に陥ることもある。新入生歓迎山行や新トレ内行など、山行までの時間がない時、部員からの臨時徴収という方法も採られた。

③OBを頼る。OB会が機能しだして見役との交流というと、貧乏学生？の活動を援助しようという有り難い申し出もあるが、頼みをする前にもう一度活動と団装を見直して見よう。

それでも必要なときは「〇×がいる」でなく、必要とされる理由（部員数・活動計画・団装在庫・部財政状態等）を明らかにした上でお願いしてみる。

部の倉庫には、何年もテン設されたことのないテントも眠っている。また山行中に起きたテントの破損も、下山後、迅速に修理されているわけではなく、ほったらかしのまま、次の山行を迎えるような状況にある。さらに、テント本体・フレーム・フライ・内／外張り・張り綱・収納袋のワンセットごとの管理も完全とはいいがたい。望ましいテント編成のためには、統一機種の拡充と使用機種の破損放置への注意・迅速な修理と共に、余剰テントの整理・放出による倉庫空間の整頓・管理が必要であろう。このためには、年2回(1回11月)程度、在庫の全テントを設営・診断する機会を作ることが良いと思う。



材刈



ミロバネインソウ

ワンゲル 団装一覧 テント 1995/03/31

製品名／定員	使用定員	部内呼称	備考欄
エスパース・オールシーズン (ジャンボ)	(6人)	エスパ93	内張有り 部費購入
6~7人用		エスパ33	内張有り 33期寄贈
		エスパ III	(93新トレ火傷事故時、出入口の吹流し引火)
		エスパ II	内張有り
		エスパ I	ポール無し
ダンロップ・V604 (V600)	(5人)	ND-93	V用外張有り 学生課予算(№158)
6人用		ND-34	V用外張有り 34期寄贈
		ND- II	設営時の上から見た ポールの形
		ND- I	
ダンロップ・V304	(2・3)	D-35	35期寄贈 *型
3人用		D-94	学生課予算
ダンロップ・CTC7504	(3人)	D-4 II	4人用外張有り 学生課予算s58/3(№138)
4人用		D-4 I	6人用外張代用 学生課予算s58/3(№137)
ダンロップ・DT7606?	(5人)	由佳	6人用外張有り ポール構成は6人用 **型
ダンロップ・CTC7501?(4?)		智鶴	フライ無し6人用外張代用 ポール構成は4人用 米型 多少大きい
ダンロップ・型式不明6人用?		素子	6人用フライ使用 音が高い ポール構成は4人用 米型 大きい
ダンロップ・型式不明3人用		康子	フライ無し 換気窓付 ポール構成II型

北部倉庫

ウインパー 8人用	本体 内・外フレーム 張り網 内張 1セット完備 →
ツェルト モンベル・ウルトラ・ライト(1~2人)	450g 1ヶ
ツェルト アライ・スタンダード (1~2人)	620g 12ヶ 部費購入(95/2)

1993/12/01 「城内体育館における設営診断時 未設営(余剰テント)」

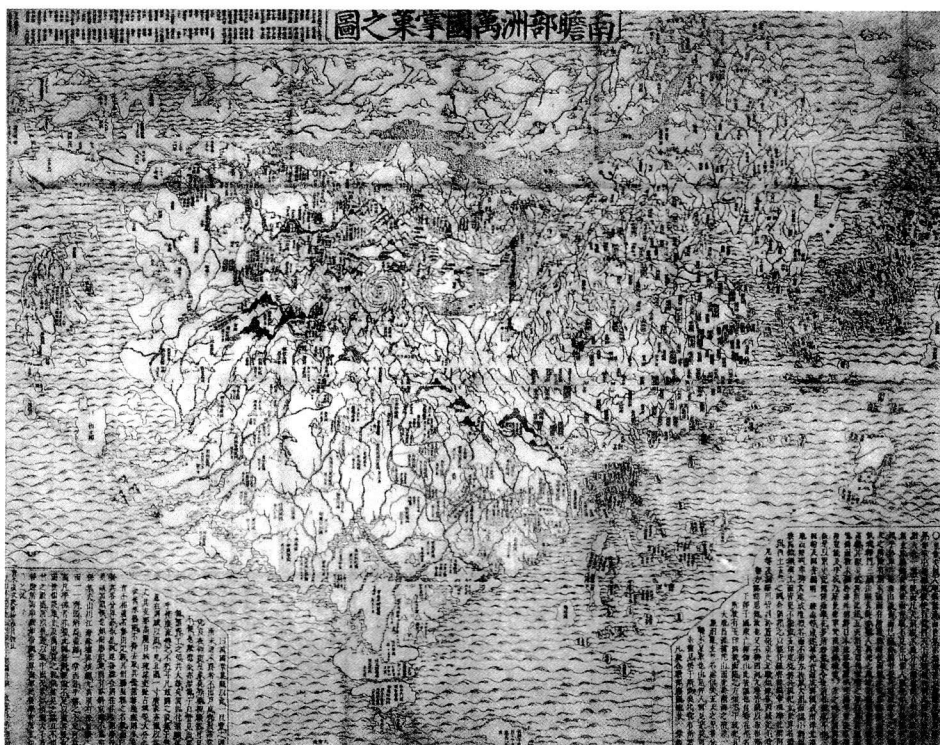
ダンロップ6人張本体	3張 (DT7606系 DTM3600系?)	
フライ	4ヶ	
外張	2ヶ	
ダンロップ4人張本体	1張 (CTC7504系?)	北部倉庫
ダンロップ2~3人用本体	1張 (部内呼称「翔子」)	↑
フライ	2ヶ	かなりくたびれたアルミ・フレーム多数 他にボロウインパー 有り

既製稿ですが、紹介させて頂きます。6月2日国土地理院と締めましたが、その前3ヶ年くらいは連載の冒頭と未了です。もし、この種のものに興味ある方があれば、連絡して頂ければ全編コピーをお送りします。なお、小生の父は、当分亡くなったのを幸い、6月18日～7月19日までバスタイン北野を歩かせてみます。国土地理院広報 平成7年1月15日 第319号

国土地理院所蔵地図史料展観(Ⅰ)

なんせん おしゅうばんこくしやうかのず 南瞻部洲萬國掌果之圖

寶永7(1710)年、浪華子
(原寸×0.09)



国土地理院には、歴史ある博物館等に比べればまことに少数ながら、世に第一級品と誇るにふさわしい古地図・地理史料が保有されている。これらは、時に賓客に対して開披するほか、関係職員以外が目にする機会がなかった。地図情報館(仮称)の建設工事がようやくに始まった今、古地図の世界に親しんで戴くためにも、これらのうちの興味を牽きそうなものについて、紙上にて披露することと

なった。

* この図の製作者浪華子とは、京洛華嚴寺の開創鳳潭の雅号である。図は一色木版刷りで、横幅一・五メートルのまことに力強い存在感に満ちた地図である。図の内容は、古代インドにおける世界観を引継いだ仏教的世界観を表現したものである。標題の左には「此圖所據内外典目」として、多くの仏典のほか、史記、

漢書等の史書、山海經、水經注等の地理書、(大唐)西域記、法顯伝等の求法僧の見聞記等、総計一〇二部の古典籍名が示されている。

例えばその一つ、多くの仏典をもたらしした三藏法師玄奘の『大唐西域記』などによれば、宇宙の中心には須弥山が聳え、この周囲を七つの山と七つの海とが環状に取り巻いて、これらの外海に人の住む四大洲がある。その南のものが瞻部洲で、その中央に阿耨達池(チベットのカイラス山麓マナサローワル湖に比定、阿耨達はアルティン・タールグという湖水があり、ここから、恒河(ガンジス)、信度河(インダス)等の、アジアの(古代インドにおいては世界の)四大河川が流れ出ているとしているが、掲載図のほぼ中央に目立つ渦巻きの部分がそれである。

例を今一つ。紀元前二世紀、漢の武帝は西を脅かす匈奴挾撃の使節として、張騫を大月氏に派遣した。張騫は所期の目的こそ果たせなかったものの、一〇年以上にわたった困難な旅は、パミールの彼方の西域諸国の知識をもたらし、ここに東西交流が本格化した。彼の奏上、「于闐の東、水は東流して塩澤に注ぐ。塩澤は地下に潜行し、その南は則ち河源出ず、玉石多し。河は中国に注ぐ。而して樓蘭・姑師の邑は城郭あり。塩澤に臨む」(史記大宛伝)また、「蒲昌海は一に塩澤といふ。…広袤三〇〇里。その水は止り、夏冬水量は同じで、水は皆地下に潜行して南方の積石山に出で、黄河の源になる。」(漢書西域伝)タクラマカン沙漠の水がロブノールに集まり、それが伏流して星宿海に湧き出でて黄河の源となり、河源には古来珍重された玉を産するといふ、その後も長く伝承された壮大な黄河河源伝説のもとであり、この図の前述の渦巻きの右に、雲にまごうような表現の流沙

をよぎるようにして、このことがそれらの地名とともに簡潔に描かれている。

ところで、わが国では、この図の成立に先立つ桃山時代以降には、当時の西欧における地理的知識(五大大陸等の概形は既知)を反映した、華麗な南蛮世界図屏風が各種製作され、諸大名や富裕層の居室を飾っていたことから、知識人の間には地理的世界観が普及していたはずである。一方、日本列島の形については見れば、その概形が姿を現わした幕府撰慶長日本図からは一世紀、民間でも同様の日本図が出版されていたにもかかわらず、ここに紹介した図に見る日本列島は、行基図の世界からそう進歩はしていない。

この図の成立の七〇年ほど前から鎖国政策は厳しいものとなっていたが、一方では西欧の諸科学は蘭学としてわが国にもたらされており、地理的知識も例外ではなかった。しかし、渡航することのできない外の世界は知識としては存在しても現実観に乏しく、仏説の説くところの世界観が一般には受け入れやすかったものであろう。なお、西欧の新知識を無視することも出来なかったようで、言訳のように、図の左端にはエウロパその他いくつかの国名が、日本の南には亞墨利加が島として描示されている。

今日の我々の目から見れば、荒唐無稽の感是否めぬものの、前二列のように、古典籍の数々に述べられた往時の知識とこの図を対照しつつ歴史地理の世界に想いを馳せるとき、たちまちに時の経過を忘れてしまうような地図の一つである。

参考

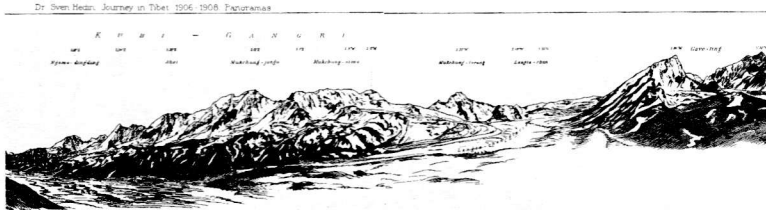
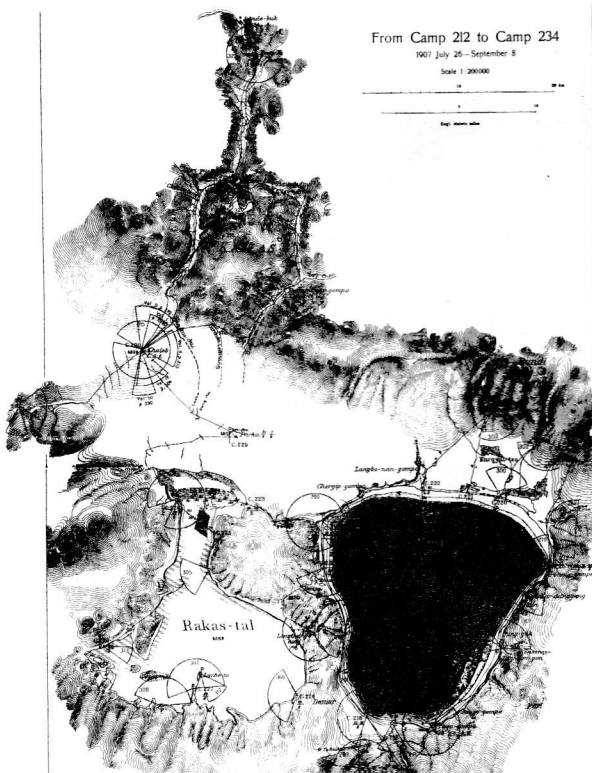
週刊朝日百科「世界の地理82」(織田武雄) 金子民雄「宮沢賢治と西域幻想」中公文庫 Aヘルマン(松田寿男訳)「楼蘭」東洋文庫 史記と漢書の訳文は長澤和俊によるもの (長岡正利)

国土地理院所蔵地図史料展観(II)

S.ヘディン『南チベット』全12巻

Sven Hedin Southern Tibet, 1916-22 ストックホルム刊

左は本書中の調査ルートマップ。カイラス山南麓マナサロワール湖の測深記録、円弧は宿営地での地形スケッチと写真の対象範囲。下はトランス・ヒマラヤ山中でのヘディンによる地形スケッチ。ともに一部を示し、左は原図20万分1×0.25 下方は全12巻の外観



本書は、スウェーデンの地理学者で中央アジア探検の第一人者、S・ヘディンによる第三次探検の記録であり、九巻のほか地図三巻からなる大著である。ヘディンは、一八九三年から単独で三回にわたって広く中央アジア、今日でいうシルクロードの地を探索し、「さまよえる湖」ロプノールや「楼蘭」遺址の発見など、数々の業績と不朽の名著を残した。その後は、一九二七年から西北科学考察団等を組織して、この地域の科学的探検を指揮した。晩年はナチスドイツ抬頭下の東欧にあって外交活動に没頭し、八七歳でストックホルムの自宅で逝去した。

以下に、本書の探検の帰途、日露戦争後の日本における講演の最後の部分を、少々長いが転載する。

なお、ヘディンは、この探検では南チベットの広大な地理的空白地帯を横断して、トランスヒマラヤ山脈を発見（山脈を計八回横断）したほか、インダス河、ブラマプトラ河等の河源の発見など、多くの成果を挙げている。

「予はこの學術的の探検に就ては終始予一人でこれを遂行したのである、別にこれについては助手をつれてあるのではない、従つて旅行中予の忙しきことは又一通りでなかった。先づ予は總て予の

探検線路の地図を出来るだけ精密に作らんと試みたのである、即ち是等の前人未踏の地を踏査しこれを世に紹介するに付ては、地図の製作はもつとも肝要なることであると信じたからである、予は探検線路の大部分は平板測量をもつて測圖しつゝ進んだ、先づ行程の距離を測るには、あらかじめ二百メートルの直線上を、或は駱駝に乗り或は馬に乗つて行進し、この全距離を進むに幾歩を要せしか、又何秒時を要せしかを測り、幾回かこの方法を繰返して其の平均数を求め、これを常に標準として行程を測りながら歩を進めた。また其の行進線路の方向は磁針によつて一々精細に測りつゝ進んだのである、然しながらこれだけでは誤差のあることは免れない、殊に日を重ぬるに従つて其の差も多く加わつて来るから、予は時々一ヶ所に滞在して晴夜に天測を試み、其の地點の緯緯度を精細に測量して圖上の訂正を行ひ、そしてこの行進中には、線路上の地物は勿論その兩側にある所のものは、出来るだけこれを精密に記録することを怠らなかつた、即ち遠方の山であれば其の頂點の方位を一々測定し、或いは湖水であれば其の周囲にある種々の地物を目標としてその形を畫き、また其の水の淡・鹹（中略）…、一の山についても、其の名稱は處によつて違ふのであるから、各方面の土人に聞き正して其の名稱を記録して置いたのである、また途上に於て屢々種々の種族の住民に出逢つたが、なるべく彼等と言葉を交へ、其の土地の種々の地名などを聞き正し、また其の風俗・習慣等を知ることには注意した。また山を越える場合等に於ては、一々其の標高を測定した、（中略）…また峠の頂からは常に出来る限りパノラマ的展望圖のスケッチを作り、是には主要なる山岳の方位等を一々測定して記入しておいた、（中略）…

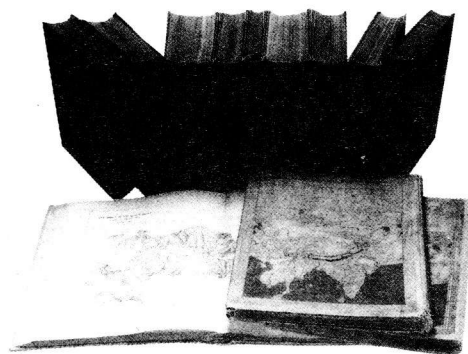
然も諸君が予の講演に向つて清聴せられたのは、予の最も光榮とする所である。また若し青年諸君等の中に本席の講演を聞き、予と志を同してアジア大陸中猶残つて居る他の未發の地方を探検せんとする人が出来たならば、これは予の最も幸福とする次第である（拍手大喝采）（山崎直方訳述によるものを原文のまま転載）

文中に、地図作成への意気込みと真摯な態度、当日の会場での歓呼と熱気が伺われる。ヘディンの地図は、明治から戦前にかけて日本の陸地測量部がアジア内奥部を含めて作成していた東亜輿地図等の原資料としても使われ、戦後も米国AMSが作成した百万分一地図にはほぼそのまま利用された。これらは、地理的・民俗的資料としての価値のほか、今日の衛星測量の時代となつても、地図入手の困難な地域の故に、なお現地を知るに唯一のものとしての存在価値を持っている。

参考

深田久弥ほか監修『ヘディン全集』全二巻・白水社（一九六四）
金子民雄監修『スウェーデンと楼蘭王国展』（図録・一九八八）
長岡正利『百万分一東亜輿地図』（一九九一・『地図』三回連載）

（長岡正利）



国土地理院所蔵 地図史料展観

(XXXXVII・最終)

新京都市計畫圖

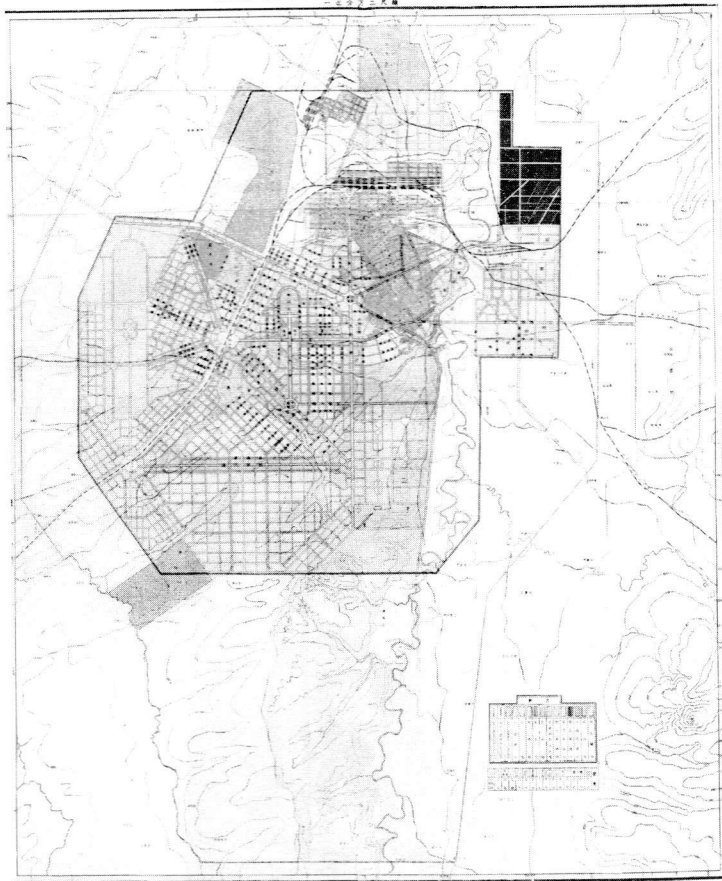
内題；満洲國新京國都建設計畫圖

付、『新京都市計畫概要』(満鐵經濟調査會, 昭和7年)

國務院國都建設局発行, 大同2年(1933)
2万分1, 印刷図, 109×89cm(×0.11)
基図は1万分1空中写真測量図の縮図,
等高線は中華民國製5万分1地形図による。

このシリーズでは、わが国が外邦地域について作成してきた各種の地図についてはまだ説明していなかったため、最終回としてその例を一点。
紹介の図は、一九三三(昭和七年)に、現在の中国東北地方に建国され、十三年間だけ存在した幻のような国、満洲国の首都、新京の都市計画図である。
満洲とは、中国の清時代に使われ始めた民族名であり、後に地方名としても使われるようになった。日本は、満洲事変(一九三二)を契機として、この国を擁立したが、関東軍司令官が政治と軍事の全権を握る植民地的傀儡国家であった。その現地事情は、建国の理想「五族協和」とは裏腹のものとなったため、中国全土

満洲國新京建設計畫圖



における民族的屈辱感からくる排日運動は、一九三七年の事変後に一層厳しく、さらに歴史は日米開戦に続いて、その国家は日本の敗戦とともに消滅した。
建国にあつての首都は、当時の中心都市で軍閥の拠点でもあつた奉天(現・瀋陽)を離れた長春とされ、新京と改称された。その頃の長春は、帝政ロシアが建設した東清(支)鉄道(ハルビン経由でシベリア鉄道へ続きモスクワに至る)と、日本が日露戦争後に割譲されていた南満洲鉄道との接続点にあたる人口十万人程度の街であつたが、ここ(図中央部や上の一角)を含む約八十平方キロメートルの大地に、ヨーロッパの都市におけるような円形広場と格子状の街路を組み合わせた五十万人都市の計画が描かれた。
計画図の概要を見れば、既成市街地に接して、北東に工業地域、南西に行政・商業・住居などの地域をおき、広大な緑地・公園を配している。さらに、凡例に見るように、十二種の用途地域が定められている。日本国内では珍しかった下水道も計画され、市内交通は、騒音に考慮して無軌道電車(トロリーバス)とされているなど、斬新な試みが読みとれる。
また、新京のほか、奉天・大連・ハルビンなどの諸都市においても同様に、日本国内では考えられないような大規模な都市計画に基づき、莫大な資金と資材、人材を投じて国土の建設が進められ、国の威信をかけたような壮大な官衛などの建築が進められた。
上述の「理想」は空虚なものであつたかも知れないが、この地に渡つた日本人の中には、国内ではもう描くことも難しくなつていた夢を求め、満洲の理想を信じて新しい国の建設にあたつた人も多かったに違いない。その善意が軍に利用され、結果として侵略に荷担して挫折していったこともまた事実ではあるが。

それらの希望を抱いた人々の、見果てぬ夢の結実であるかのように、現在のこの地は、豊富な資源を利用した工業と農業の中心地となつている。往時の都市計画はそのまま現在の市街となり、荘重な建造物が今も健在の例も多いという。

ところで、明治中期以降、日本が近隣諸国への侵略的政策をとるとともに、軍の作戦や統治上の必要から作られた膨大な各種地図がある。その作成範囲は、日本周辺に始まってアジア大陸内奥部に、さらに対外政策の変化とともに、西太平洋周縁の広域に及んだ。外邦図として一括されるこれらの地図は、秘図扱いのものも多かったため、その全貌は必ずしも明らかではない。敗戦時に三宅坂の参謀本部にあつたものは、陸軍士官学校若手教官らが、軍機密書類焼却の煙火の中を大八車で搬出したと伝えられている。占領(進駐)軍の接収を免れたそれらの地図は東北大学に現存するが、複数部数あつたものは近年になって国立国会図書館や国土地理院などに譲与された。

今は静謐の中にあるこれらの膨大な地図群の存在を想うとき、あの渺漠とした大陸にあつて、落日の美しさに見とれつつ苛酷な条件下で地図作成を進め、或いは散華した人々のこと、内地にあつては明日をも知れない敗戦後の惨苦と荒廃の中で、これらの地図を後世に伝えようとした人々のあつたことを忘れるわけにはゆかない。

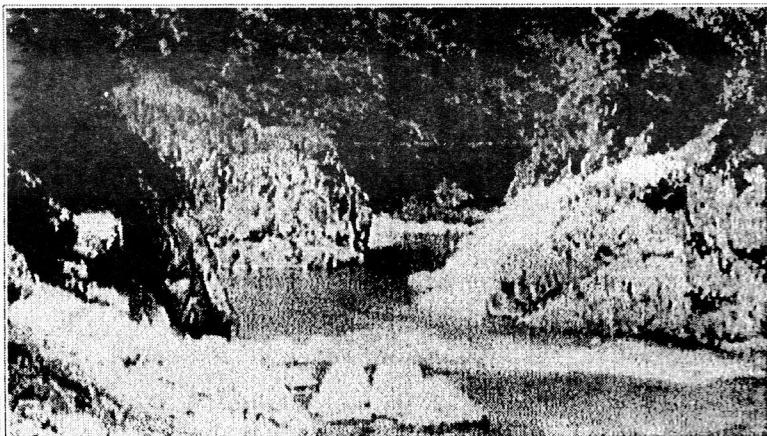
参 考

- 児島襄『満洲帝国』文藝春秋(一九七五・七六)
- 小峰和夫『満洲(マンチュリア)―起源 植民・覇権―お茶の水書房(一九九一)
- 長岡正利『陸地測量部外邦図作成の記録』『地図』31巻4号(一九九三)
- 太平洋戦争研究会『図説―満洲帝国』河出書房新社(一九九六)

(長岡正利)

小屋便り

犀川上流にはかつて倉谷4ヶ村があった。現在はそのすべてが無人となった。



ここがどこか分かるでしょうか？

中央に吊り橋が見えます。両脇に岩が突き出ています。
そうです。ここが犀川ダム建設地点です。犀川ダムができる前はこんな所だったのです。



ここは二又地区。

中央下のほうに橋が見える。

二又は倉谷川と二又川が落ち合う場所にあった部落である。この地区がダムの底に沈み、倉谷部落は沈まないものの孤立してしまうためやむなく全部落を放棄した。



ここは二俣新町。

かなりの個数の家がみえる。これはすべて犀川ダム建設によりダムの底に沈んだ。その沈む直前の村の様子。当時200人ほど住んでいたらしい。

ダムの水が渇水でほとんどなくなると、今でもその家屋の一部を見ることができる。



日尾地区

このほかに犀川を挟んで対岸に見定という部落があった。

これら倉谷・二又・日尾・見定の4村を倉谷4ヶ村とかつては呼んでいた。

「自然人」NO. 48 (橋本確文堂) のコピーです。
p. 78からご覧下さい。

Vol. 6

第2特集

はやし・しょういち

1936年金沢市に生まれる。「郷土の山を知ろう」をテーマに金沢ナカオ山岳会を設立、現在代表会員。環境庁自然公園指導員、石川県自然公園巡視員を務める。「白山を歩く」など自然関係の著書が多数ある。

●大門山と奈良岳

登山口は富山県福光町と上平村との境にあたるブナ峠にある。ブナ峠への県道は通行止めが多い道なので、道路の状態を福光町役場か上平村役場へ問い合わせたから行動する。

峠からブナの木が茂る尾根道を赤摩木古山との分岐までたどる。そこで右手の道へ入ると大門山頂上へと導いてくれる。

「魔の滝」のイメージが強い。コースの大半は沢沿いに歩くので、かなりの登山経験が必要だ。

高二郎山への登山道である長尾根を登り、口ボット雨量観測所への道へ入り、下り切った場所から左手へ入る。イワナ釣りの人が入っており、その踏み跡をたどってト谷へ下る。滑りやすい谷なので注意して下ろう。滝がかかっている場所は右側を巻く。

一又川に出ると川の中を歩くことが多くなる。滑り流れるような滝が続く、淵を巻き終えると七月でも残雪がある。ときには雪橋の下をくぐらねばならないので懐中電灯を用意していくとよい。ここまでくると尾滝は近い。

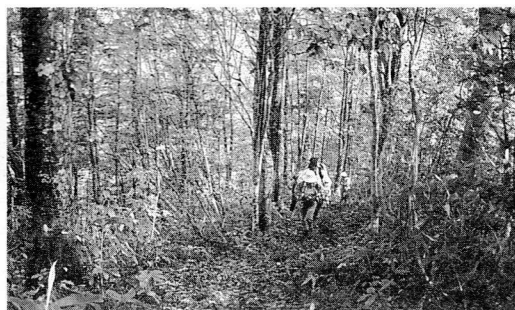


写真2 犀川の山はどこを向いてもブナばかり。新緑と秋の紅葉がよい (撮影/中村和男)

奈良岳へは先ほどの分岐まで戻り、尾根筋につけられている道をたどる。最初のピークの赤摩木古山は眺望がよい。一般の登山者はここで引き返したほうがよい。

急坂を下ったところの右側、倉谷川源流部のバシヨバ平にはミズバシヨウの群落が見られ、

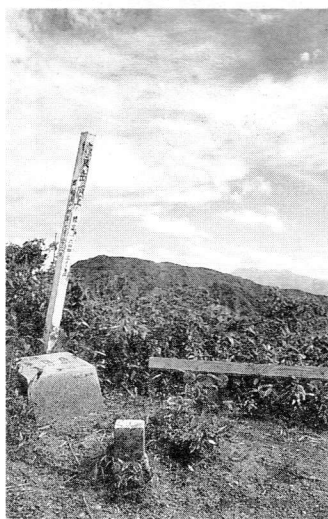


写真3 犀奥の盟主・奈良岳の頂上。奥に大笠山と白山が見える (撮影/中村和男)

二ツコウキスゲやコバイケイソウも多い。続く見越山までの間は、石川県側はブナ林だが富山県側は視界が開ける。見越山に近づくと花も多くなり、眺望もよくなる。

奈良岳へはいったん下ってから登り直す。急な下りがあつてチシマザサが茂る道を登る。登りが緩くなるほどなくして石仏をまつてある山頂に着く。大笠山や白山などの眺望がよい。

※犀奥

「犀奥」とは、山岳会グループ・ナカオ(現、金沢ナカオ山岳会)が昭和四十八年(一九七三)に「なかつ犀奥(犀川源流)特集」を発行して以来、使われていた言葉である。厳密な犀川源流域より広い範囲をさす呼称として使用される。

◆金大ワングルと犀奥の山

金大ワングル(金沢大学ワンダーフォーゲル部)が結成されたのは昭和三十三年(一九五八)、設立当初は医王山や白山に目を向けていたようだ。医王山や白山にそれぞれワングル道を開設している。

金大ワングルが犀奥の山に関心を示すようになったのは昭和三十八年ごろからである。医王山が有料化され活動の場を犀奥に求めたのが一因である。その拠点となる山小屋を倉谷に昭和三十九年に設置、翌年に高二郎山へ登る新道(長尾根・クラコシ尾根)を開設した。以後、犀奥ルートや、高二郎山・見越山間(現在、廃道)、奈良岳・大門山間(現在、富山県が整備)の登山道を開設、山小屋・ベルクハイムも二度改築している。金沢市域から登れる唯一の犀奥の山、高二郎山への登山道整備を現在も行っている。

林 正一(金沢ナカオ山岳会)

犀奥の山登山ガイド

林 正一(金沢ナカオ山岳会)

金沢の市街地を流れる犀川の流域には、最高峰の奈良岳を中心にして富士山に似ているところから「加賀富士」といわれる大門山、三つ峰のアルペン的な山容の高三郎山などの山がある。それらの山を総称して「犀奥の山(※)」と称している。かつては「秘境の山」であつたが、近年になつて全国の登山者の目にとまるようになり、登山口に県外ナンバーの車を見かけるようになつてきた。

●倉谷集落跡と高三郎山

犀川沿いにさかのぼると、車は犀川ダムで行き止まりになる。以後、ダム湖の右岸(向かつて左側)にある歩道をたどる。道の両側はタニツギが並ぶので五月の花ごきは美しい。途中のブナ林は、ダム湖に沈んだ「又集落を雪崩から守ってきた林の名残である。足場の悪い崩壊箇所を通るので、足元に注意してほしい。

ダム湖に架かるつり橋を渡り、左手へ行くとほどなくして倉谷の集落跡に出る。石垣や石碑に集落の名残を感じることが出来る。集落跡より上流へ少し行くと金沢大学ワンダーフォーゲル部の山小



写真1 犀川ダムに近づくくと前方に形のよい高三郎山がそびえる(撮影/舟田節子)

屋・ヘルクハイム(非公開)がある。この下あたりは広場になつていたので憩うのによい。ハイカーは、このあたりで引き返している。

倉谷川沿いにさらにさかのぼる。金山谷を渡つた所に長尾根とクラコシ尾根を経由しての高三郎山登山道があるが、この先にあるコシアゲ谷を渡つた所のシヤクナゲ尾根につけられた道のほうが登りやすい。とはいふものの、急坂の箇所がかなりある。ホンシヤクナゲの群落が見られ

るのが高三郎山の魅力、標高九〇〇mを超えるあたりから目に入る。クラコシ尾根を経由してきた道と合流すると登りは一層急坂となる。シヤクナゲの開花期である五月中旬ころは雪上歩きである。着いた頂上は雪で覆われているときは広いが、夏から秋にかけては三角点の周囲は背丈以上のチシマザサに囲まれていて眺望はよくない。

下山は合流点まで戻つて左のクラコシ尾根の道へ入る。この尾根もホンシヤクナゲが多い。岩が露出している場所もあるので足元に十分注意してほしい。ブナ林に入ると長尾根との合流点に近い、砺倉にある口ポット雨量観測所への分岐で右へ入る。しばらくはブナ林の下りが続き、ユキツバキが目立つてくるようになると急坂に変わる。この下りは疲れた足にはこたえる。金山谷へ下つた後は来た道に戻る。

●犀渾

犀川の源流のひとつである「又川」にかかる滝で落差三十mほどある。遭難者を出したこともあつて

◆倉谷の歴史

寿永三年(一一八三)、砺波山の合戦で敗れた平家の落武者が住んだと伝えられている。倉谷が記録に登場してくるのは、前田利家が金沢城へ入城してから。利家が水を献上し、佐々との戦いの際に陣屋設営にあつたとある。そして三百年もの間、金銀を産出した鉱山の歴史が倉谷に花をそえる。慶長十三年(一六〇八)に最初の発掘が行われた。その後数度の休鉱と経営者の交替があつたが明治四十三年(一九一〇)まで続き、最盛時には四百戸もの家が並んだとされている。

昭和十六年(一九四一)一月、倉谷鉱山再興の試掘が始まつたものの七人が雪崩の犠牲にあい死亡、その葬儀の場へも雪崩が押し寄せ十四名死という惨事に見舞われた。鉱山の再興はならなかつた。犀川をせき止めての多目的ダム建設が進み、昭和三十八年(一九六三)十月、住み慣れた古里を離れ全戸が金沢へ出た。

林 正一(金沢ナカオ山岳会)

うえうま・やすお

1951年兵庫県生まれ。金沢大学大学院理学研究科（生物学専攻）修了。山歩きとネイチャー写真が趣味。著書に「白山の四季」シリーズ、「山と高原地図・白山」（共著）など。

繁殖期にあたる五月から六月には、寺津から倉谷までの範囲ではホオジロとヒヨドリが非常に多く、全個体数の約二分の一を占め、次いでウグイス、ヤブサメ、オオルリが多いことが分かった。

また高二郎山の登山道では、コルリとウグイスが比較的多く（全個体数の約三割）、次いでシジュウカラ、ヒガラ、カケスの順となっていた。ホシガラス、ウソ、コマドリ、ヒンズイ、クロジなど、本来はより標高の高いところを中心にすんでいる鳥も見つかった。

△イヌワシとの出会い

鳥類個体数調査の中で何度か見ていたイヌワシだが、一九七四年の五月の出会いには、その後の私の進路に大きく影響することとなった。巣の発見と雛の巣立ちを確認することができたのである。その三年後から、県の調査としてこの鳥を調べることになり、多くの後輩の協力を得て、この地域に二つがいていることや、それらの行動範囲をつかむことができた。

イヌワシの存在は、それを支える餌となる動物（フウサギ、ヤマドリ、ヘビ類など）、そしてこれらの動物を支える生き物など、この

地域の自然の豊かさの証といえるだろう。見つけたい方は、犀川ダムから周辺の山の稜線を注意深く観察していると出会うはずである。

△ニホンザル

この地域では、昭和の初めから記録がなかったが、一九七一年ころ成ヶ峰付近で発見され、私の鳥類調査時期（一九七三～一九七六年）に、高二郎山のクラコシ尾根で糞や姿を何度か見ており、一九八一年五月には同じところで少なくとも九頭を確認した。一九九二年六月と一九九三年六月には、犀川の上流および奈良岳や見越山周

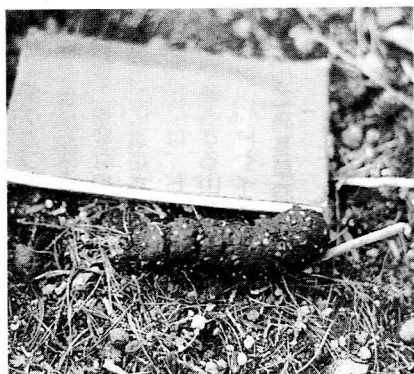


写真7 ニホンザルの糞
1976年8月12日、クラコシ尾根で9個連続して見つかったうちの1個で、姿も確認した。

辺で姿や糞、食べ跡を複数確認した。また、一九九六年五月には高二郎山のナガ尾根で、連続して新しい糞を見ている。

一九九八年二月には、滝澤均氏（いしかわ動物園）により犀川ダム下流の左岸で四十頭が数えられている。犀川源流地域に複数の群れがいることは間違いない。

△その他の動物

カモシカはここ三十年で数が増え、近年はダムよりはるか下流の集落周辺で普通にみられるようになっていた。

ツキノワグマは、毎年、春の有害鳥獣駆除の時期に何頭か捕獲されており、ブナにつけられた爪痕などが判断すると、この地域全域にすんでいるが、数はあまり多くないようだ。

この他、希少な動物としては、ヤマネ（一九七三年クラコシ尾根）、オコシヨ（一九七三年五月シヤクナゲ尾根）、カワネズミ（倉谷）を目撃している。

上馬康生（白山自然保護センター）

◆犀川源流自然環境保全地域

犀川源流域一帯は、昭和五十二年（一九七八）に県の自然環境保全地域に指定されている。面積は八一一・五畝で、全域が特別地区となっており、土地の形状変更や木竹の伐採等が禁じられている。区域は五十一ページの図のとおりであるが、白山国立公園区域とは奥三万山と奈良岳を結ぶ尾根および見越山にかけての石川・富山県境接線で接している。

また、平成十年（一九九八）には、大阪営林局が自然環境保全地域を含む一九九四畝の国有林を「犀川源流森林生物遺伝資源保存林」に設定した。これは、生物資源を保存するため、良好な自然林をそのまま残そうというもので、一九九九年五月現在、全国で十カ所が設定されている。さらにこの区域は、環境庁が指定する白山国立公園保護区の一部であるほか、千鈞以上の源流域に人工物や伐採地がない「原生流域」にもなっている。

このように、犀川源流地域は、白山地域と一体であり、県内で最も原生的な自然が残る極めて重要な地域であるといえる。

（石川県環境安全部自然保護課）

とが・のりまさ

1955年金沢市生まれ。金沢大学ワンダーフォーゲル部時代から白山山系の山を中心に登り続けている。石川県自然保護課勤務。著書に「白山花ガイド」「山と高原地図・白山」(共著)など。



写真4 ゴゼンタチバナ
見越山から奈良岳にかけては、亜高山性の植物がみられる

またがる自然度の高いブナ林となっている。また、高三郎山や県境稜線の瘦せた岩がちの尾根には、ヒノキやクロベ(ネズコ)、キタゴヨウなどからなるクロベ・ヒメコマツ林が成立し、林床にアカミノイヌツゲやホンシヤクナゲの群落を伴うことが多い。

さらに、奈良岳や見越山の山頂付近をはじめ、局所的にダケカンバやオオシラビソなどの亜高山帯植生がみられる。これらの三つの

植生(ブナ林、クロベ・ヒメコマツ林、ダケカンバ林)は、環境庁の自然環境保全基礎調査による「保護上重要な植物群落(特定植物群落)」に選定されている。

溪谷部には、トチノキやサワグルミが優占する山地溪畔林がみられ、シシウドやイタドリなどからなる山地高茎草原も発達している。

また、特筆すべき植生として、赤摩木古山・見越山間の湿地にみられるミスバシヨウ、リュウキンカなどの群落や見越山山頂付近の湿った岩場にみられるニツコウキスゲ、コバイケイソウ、ヒメシヤガ、イワシヨウブ、カライトソウなどからなる群落があげられる。そのほか犀川源流域では、キヤラボク、オオヤマレンゲ、オオバツツジなどの稀少な植物が確認または記録されている。

梅 典雅(石川植物の会)

※チシマササ・ブナ群集
植生区分のひとつで、県内の白山山系に多いブナ林のタイプ。ブナやミズナラ、ミネカエデ、オオカメノキ、チシマササ、トクワカソウ、ツバメオモトなどの植物からなる。

●動物

犀川源流域は、気象、地形、植生ともに尾添川流域など白山北部の自然環境に類似していること、そして人工物がほとんどなく人の入山も限られていることなど、現在の良好な自然の存在に結びついていると考えられる。ここでは、比較的调查のできている鳥類全般とイヌワシ、そしてニホンザルを中心にお話しよう。

△繁殖期の代表的な鳥V

金沢大学の学生であつた一九七〇年代、私はワンダーフォーゲル部の山行や、卒業研究の鳥類調査のため、この地域へは季節を問わず



写真6 イヌワシ若鳥
5月下旬～6月に巣立つ

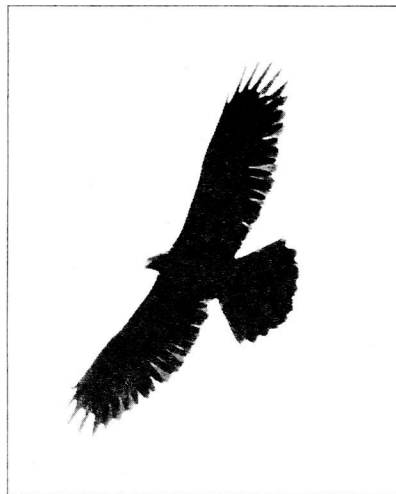


写真5 イヌワシ
犀川源流域には2つがいが見られている。

幾度となく通つた。犀川上流の寺津町から歩いて、犀川ダム、倉谷を通り、高三郎山の山頂までの間の鳥類個体数調査は、四十数回行つた。

その結果、九十六種を記録し、

犀川源流の自然

●位置と地形

犀川は、白山系の北端にあたる山々に源を発し、金沢市街を貫流して日本海に注ぐ全長約四十五キロ、流域面積約一千五百平方キロの二級河川である。白山の主峰、御前峰（二七〇二メートル）から北に延びる石川・岐阜の県境線は、北部白山地域とも称される三方岩岳（一七三六メートル）や笈ヶ岳（一八四一メートル）を経て、石川・富山県境となり、次第に標高を下げながら



写真1 犀川（二又川）源頭部 7月まで雪が残る（6月27日撮影）

医王山に連なっている。このうち、金沢市域の最高地点である奈良岳（一六四四メートル）や大門山（一五七一メートル）などの山岳が犀川の源流域を成しており、西は手取川水系の瀬波川および直瀬谷川、東は小矢部川および浅野川との分水嶺で囲まれた区域の水を集めている。

また、見越山（一六二二メートル）から高三郎山（一四二二メートル）に至る尾根によつて源流域は二分され、西を流れる本流の二又川と東を流れる倉谷川が犀川ダム湖の上流部で合流している。

一帯は、浸食の進んだ深いV字溪谷と痩せた尾根からなる急峻な地形が大半を占める。二又川の源流部は、落差約三十メートルの崖を除いて比較的穏やかな溪相であり、釣り人もかなり入っているが、倉谷川の源流部は、滝や「廊下」と呼ばれる兩岸が切り立った絶壁が続ぎ、容易に人を寄せつけない峡谷である。

また、熊走大橋が架かるあたりは小規模ながら峡谷となっており、上寺津発電所から下流にかけてみられる河成

段丘の段丘面は集落や水田に利用されている。

●植生

この区域の標高は、駒形町の一七〇メートルから犀川源流域の最高峰である奈良岳の一六四四メートルまでの幅を持つているが、植生帯別の面積としては、大部分がブナ帯（二五〇〇～一六〇〇メートル）に属する。

犀川ダムから下流域では、水葉山（八九一メートル）や吉沢山（八〇〇メートル）などの山頂付近にブナ林

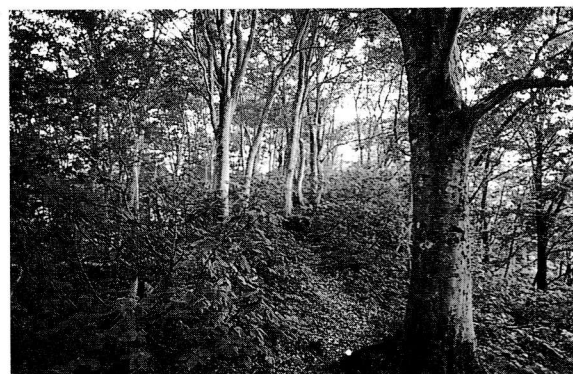


写真2 高三郎山ナガ尾根のブナ林(チシマザサ・ブナ群集)

が残るほかは、ミズナラなどの二次林やスギ植林が多く、河川部分にはケヤキやオニグルミなどの峡谷林もみられる。

犀川ダムから上流域では、ダムによつて廃村となった倉谷・二又の面集落で炭焼や林業が営まれていたため、集落の周辺から標高八〇〇メートルあたりまでは、ミズナラなどの二次林やスギ植林となつているところが多い。しかし、源流域の大半はチシマザサ・ブナ群集（※）が占め、直瀬谷川源流域に

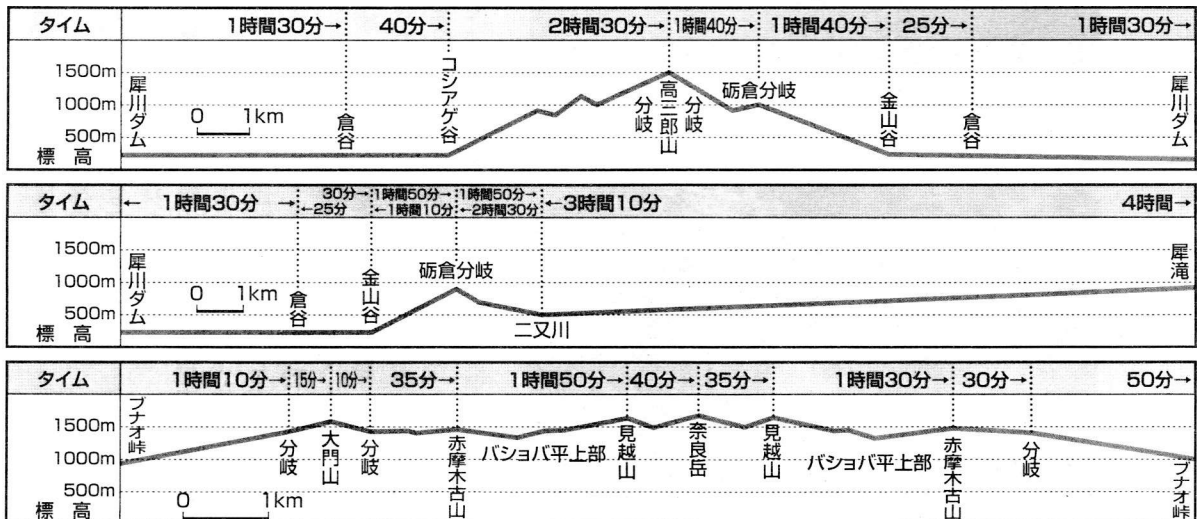


写真3 高三郎山クラコシ尾根 痩せた岩尾根にクロバエ・ヒメコマツ林が成立する（左下）

犀川源流案内図



- 高三郎山** の・はホンシャクナゲ、開花は5月上旬から中旬
見越山 の・はホンシャクナゲ、タチヤマウツボグサ、イワオウギ、カライトソウ、シモツケソウ、タカネナデシコなど
バショバ平 の・はハクサンシャクナゲ、イワショウブ、ミズバショウ、モウセンゴケ、コバイケイソウ、リュウキンカ、ニッコウキスゲ、ヤマトキシソウなど





犀川源流のシンボル「犀滝」
“魔の滝”と恐れられ、過去に
遭難者を出している(N)



高三郎山クラコシ尾根を登る(T)



五月の高三郎山を彩るホンシャクナゲ(高三郎山クラコシ尾根)(T)



秀麗な姿で知られる「加賀富士」大門山(高三郎山から)(T)



二又川の大淵(T)



見越山山頂付近に咲くニッコウキ
スゲ[右]とコバイケイソウ[左](T)

梅 典雅 (19期) 中村 和男 (金沢ナカオ山岳会)
上馬 康生 (15期) 舟田 節子 (金沢ナカオ山岳会・15期)

身近な自然再発見ガイド⑥

第2特集

犀川源流



大桑橋から望む犀川源流の山々
左から高三郎山、奈良岳(右は大笠山)
手前の山は、左が吉次山、右が拳原山(T)

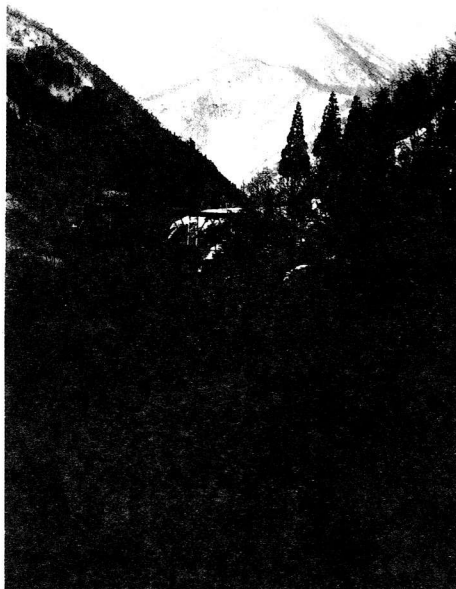
撮影/梅 典雅(T)
中村和男(N)



順尾山から望む犀川源流の山々 左:大門山 中:見越山 右:高三郎山(T)



残雪の犀川源流の山々 左:高三郎山 中:奈良岳 右:見越山(大笠山から五月上旬)(T)



熊走大橋付近の
犀川と水葉山(T)

初夏のころ、金沢の市街地から犀川の上流の方を眺めると、緑に染まる山並みの奥に、まだ雪を頂く白い峰々が目につく。犀川は、そういった山を源流とする川である。"流れゆたけき犀川や影静かなる浅野川"と金沢市民の歌に唄われるとおり、穏やかな浅野川を女川と表現するのに対し、犀川は男川とされる。このような二つの川の風情や性格を特徴づける要因のひとつに、源流域の違いを挙げることができる。

今回の特集では、犀川流域のうち、金沢市の駒帰町や熊走町より上流の一带(内川を除く)を対象として、その豊かな自然や登山コースなどを紹介しよう。(梅 典雅)

以下は前田顧問の冬山レポートです

26日午前4時前にバスで大学出発。人

数は4人減って総勢21人。

小荒島岳を過ぎてやっと雪山らしくな

りました。そこまでは根雪もとけてうっすらと
新雪がつもっているといった状態でし

た。石楠花平には午前中に着きました。根雪が
固く整地作業も簡単、水に困るという
ことはありませんでした。

27日 晴、もちが壁が大変でした。木

の根の間を埋めた古い雪が固く、その上に薄く
積もった新雪が気温が低いいため踏んで

も固まらずといった状態で、滑りやすかったか
らです。頂上の一等三角点の標石も初

めて見ました。それでも学生諸君はワンデリン

グの帰路にはシリセードを楽しんだり

していました。テント場に帰って、例年なら雪

洞を掘ったりカマクラを作ったりする

ところですが、30cm程度の積雪ではそうもいか
ず、

前夜のリーダー会議の結論に従い、下

山です。途中OB（OG？）の西村さん（とい
って節子さんではありません。33期の

西村かおりさんです）に出会いました。勝原ス
キー場の銀嶺荘は改築するとかで休

業、ビールは勝原駅までお預けでした。

学生諸君は今日（28日）打ち上げ会を

やるそうです。2回生がリーダー役を務めて雪
訓山行を計画するという話がまとま

るといいと思うのですが。なお、銀嶺荘前での
反省会では、夏合宿の感想とともに40

周年についての感想も述べあっていました。



冬山合宿

〔目的〕 春山の経験、雪山技術の修得

〔山域〕 後立山連邦 唐松岳

〔日程〕 3月16日から 3泊4日 予備3 非常1

〔行程〕

1日目 金沢==バス==八方尾根スキー場 --- ゴンドラリフト --- 八方池山荘
--- 八方池（泊）

2日目 雪上訓練（アイゼン、ピッケルワーク、ザイルワーク；滑落停止；耐風姿
勢）

偵察

3日目 テント場 --- 唐松山荘 --- 唐松岳（往復）

4日目 テント場 --- 八方池山荘 --- うさぎ平 --- ゴンドラリフト --- 白馬山麓

〔メンバー〕

Aパーティ L 佐藤豪一郎（工3） SL（CL） 竹内利行（工3） 笹田竜之
（文2）

坂本一樹（工2） 西脇幹男（工1） 加藤菜就（工1）

Bパーティ L 林 司（理3） SL 森田善文（工3） GSL 田村賢司（工3）

角谷 誠（工2） 矢内佑一（工2） 杉村明慶（教1）

〔連絡先〕 前川昌宏（076）263-9172

得田馨理（076）276-0077 / （070）5633-4141

（前田補足）第2日目の雪上訓練は、八方池の周辺ではあまり練習にならないと判
断される場合、「下の樺」下部で行う可能性もあります。

春合宿(偵察)

[目的地] 唐松岳
 [日程] 3月8, 9日 1泊2日 予備2 非常1
 [行程] 1日目 金沢==車==八方尾根駐車場==(ゴンドラリフト)==八方池山荘
 ----八方池(泊)
 テント設営後, 雪上訓練(アイゼン歩行, 滑落停止, 耐風姿
 勢, ザイルワーク)
 2日目 八方池----唐松岳----八方池----八方池山荘----うさぎ平
 ----白馬山麓
 [メンバー] L 竹内利行(工学部Ⅲ) SL 林司(理学部Ⅲ)
 佐藤豪一郎(工学部Ⅲ) 森田善文(工学部Ⅲ) 田村賢司(工学
 部Ⅲ)
 市山祐司(理学部Ⅲ) 矢内祐一(工学部Ⅱ)
 [連絡先] 得田馨理 076-276-0077 / 070-5633-4141
 伊藤純司 076-263-8353 / 090-2373-8365
 [備考] 春合宿本番は 3月16日~19日の3泊4日 予備3 です

雪上訓練

雪上訓練山行in医王山の計画書が届きました。
 ゼミ合宿で穂高町に出かけている間(多分2月12日)のことです。
 少雪だった荒島岳冬山合宿のリカバーです。

・1999年2月20日(土)~21日(日) 1泊2日 非常1
 ・雪山での基本技術の修得
 ・1日目 角間====見上峠(幕営)
 2日目 幕営地 --- 西尾平 --- 白兀山 --- 医王山(戻る)
 サブルート 幕営地 --- 西尾平 --- 白兀山(戻る)
 Leader 矢内祐一(工一物化Ⅱ)
 S.Leader 佐藤豪一郎(工一土建Ⅲ)
 このほかに3回生2名, 2回生3名, 1回生7名

A 比良山系

[目的] 関西の山に登ってみる
 [山域] 比良山系
 [日程] 3月30日から4月1日 2泊3日 予備1
 [行程]
 1日目 金沢++++近江塩津++++近江今津++++北小松 --- げん気村(幕営)
 2日目 げん気村 ---- ヤケ山 ---- 釈迦岳 ---- 比良ロッジ ---- 八雲ヶ原キャ
 ンプ場(幕営)
 3日目 八雲ヶ原キャンプ場 --- 武奈ヶ岳(往復) ---- 比良ロッジ ---- 大山口
 ---- イン谷口
 [メンバー]
 L 石川真心(法2) SL 志賀寛人(工2) 奥野岳志(工1) 杉村明慶(
 教1) 加藤菜就(工1)
 [連絡先] 竹内利行 (076)242-3241
 得田馨理 (076)276-0077 / (070)5633-4141

B 小豆島ロード

[目的] 1, 2年の親睦を深める
 [山域] 小豆島
 [日程] 3月29日から4月1日 3泊4日 予備1
 [行程]
 1日目 金沢++++長浜++++米原++++姫路++++相生++++日生====日生港
 ----大部港 --- 田井浜
 キャンプ場(幕営)
 2日目 田井浜キャンプ場 ---- 馬越 ---- 銚子溪 ---- 美しの原高原 ---- 寒霞
 溪 ---- 星ヶ城山(往復)
 ---- 猪の谷 ---- 草壁港 ---- 池田港 ---- 小豆島ふるさと村(幕営)
 3日目 ふるさと村キャンプ場 --- 池田港 ---- 岬の分教場&映画村 ---- マル
 キン記念館 ----
 オリブ公園 ---- 草壁港 ---- 池田港 ---- ふるさと村(幕営)
 4日目 ふるさと村 ---- 池田港 ---- 土庄港 ---- 新岡山港 岡山++++姫路
 +++++敦賀++++金沢
 [メンバー]
 L 坂本一樹(工2) SL 角谷 誠(工2) 越前聡子(文2) 井澤寿予(理
 1) 田中千恵(医保1)
 谷上 望(文1) 村松美樹
 [連絡先] 竹内利行 (076)242-3241
 得田馨理 (076)276-0077 / (070)5633-4141

C 佐渡ロード

[目的] 個々の体力を高め、1, 2年生の団結力を強くすること。佐渡の金山から砂金を持ち帰ること。

[山域] 佐渡が島

[日程] 3月27日から3月31日 4泊5日 予備1

[行程]

1日目 金沢++++富山++++直江津=====直江津港=====小木港-----城山公園(幕営)

2日目 城山公園-----小木-----真野新町-----史跡遊歩道-----アルコール共和国-----

佐渡歴史伝説館-----真野新町-----佐和田町-----二見-----橋(幕営)

3日目 橋-----夫婦岩-----相川-----水替無宿の墓-----佐渡金山-----版画村美術館

情死の墓-----達者(幕営)

4日目 達者-----戸中(平根崎)-----岩谷口-----大ザレの滝-----北鶴島-----大野亀-----

賽の河原-----二ツ亀-----鷺崎-----両津埠頭-----椎崎公園(幕営)

5日目 椎崎公園-----両津市観光-----両津港=====新潟港=====新潟++++金沢

[メンバー]

L 伊藤純司(工2) SL 矢内佑一(工2) 阿納真弓(文1) 芝 聖子(医保

1) 藤井恵美(医保1)

[連絡先] 佐藤豪一郎 (076)235-3137

得田馨理 (076)276-0077 / (070)5633-414

新トレ

'99 新入生トレーニング山行

[目的] 新入生に対してのトレーニング山行。2回生、3回生は上回生らしい責任を持った行動を取る。そして互いの親睦を深める。

[日程] 5月22日(土)、23日(日) 1泊2日 非常1日

[山域] 医王山

[行程] 1日目(5/22) 金沢大学-----見上峠-----医王の里(幕営)

2日目(5/23) 医王の里-----硯、蔦岩分岐(ザック置き場)-----

三蛇の滝-----蔦岩-----分岐--(ナカオ新道)--夕霧峠-----

白兀山(往復)-----医王の里=====角間

[メンバー] cL 矢内佑一(工-物化3)

Aパーティー

L 伊藤純司(工-物化3) sL 石川真心(法3) 加藤菜就(工-物化2)

小倉 亮(法2) 谷上 望(文-人間2) 岩成俊策(文-人間1)

秋葉裕崇(教-人間環境1) 日野鋼貴(文-人間1)

Bパーティー

L 越前聡子(文-人間3) sL 笹田竜之(文-史3) 奥野岳志(工-土建2)

西脇幹雄(工-機機2) 田中千恵(医-保作2) 藤井恵美(医-看護2)

西 大輔(工-人機1) 三浦信行(理-計1)

Cパーティー

L 角谷 誠(工-土建3) sL 森田善文(工-機機4)

csL 志賀寛人(工-土建2) 矢田部 桂(理-物2) 杉村明慶(教-人環

2)

井澤寿予(理-物2) 河原一美(教-教養1) 谷村一成(工-人機

1)

山本資治(工-人機1)

Dパーティー

L 坂本一樹(工-土建3) sL 佐藤豪一郎(工-土建3) cL 矢内佑一

阿納真弓(文-人間2) 清水健作(理-物2) 石原 諭(経1)

新田康博(教-教養1) 吉森幸世(文-人間1)

[連絡員]

市山裕司 264-4643

河村浩之 260-1283

前田達男

920-1192 金沢市角間町 金沢大学法学部研究室

Tel: (076)264-5379(直通) (076)264-5403(研究室事務)

Fax: (076)264-5405(研究室事務) (076)234-4067(直通)

Tatsuo MAEDA

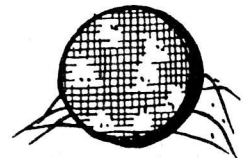
Faculty of Law Kanazawa University

920-1192 Kakumamchi, Kanazawa

Tel: +81-76-264-5379 Fax: +81-76-264-5405



- >
- > (A) '99 夏合宿第2回トレーニング山行 北アルプス野郎Party
- >
- > [目的] 夏合宿に向けて必要な体力, 技術, 精神力をつける. (歩荷25kg)
- > [日程] 7月3日(土)~4日(日) 1泊 2日 非常1日
- > [山域] 白山
- > [行程] 1日目(7/3) 金沢大学 == (車) == 別当出合 ---- 甚之助ヒュッテ ----- 南
 > 竜 ケ馬場 (幕営)
- > 2日目(7/4) 南竜 -- (展望コース) -- 室堂 ----- 御前峰 ---- 大汝峰
 > ----- 室堂 -----
- > 黒ボコ岩 ----- 殿ヶ池ヒュッテ別当出合 == (車) == 金
 > 沢大学
- > ☆サブルート 南竜 ---- 室堂 ---- 御前峰 ---- 室堂 ---- 甚之助 ----
 > 別当出合
- > (雨で観光新道の歩行が困難となる可能性があるとき)
- > ☆エスケープルート 南竜より砂防新道を下山
- > [メンバー]
- > 坂本一樹 (工-土建 3) sL 矢内佑一 (工-物化 3)
- > L 矢田部 桂 (理-物 2) 西脇幹雄 (工-機機 2, 医療)
- > 角田幸久 (経-1) 西 大輔 (工-人機 1)
- > 日野鋼資 (文-人間 1) 山本資治 (工-人機 1)
- > [連絡員]
- > 石川真心 (法3, 234-5319 ; 090-9764-7655)
- > 角谷 誠 (工-土建 3; 262-5879)
- > -----
- > (B) '99 夏合宿第2回トレーニング山行 (南アルプス御来光Party)
- >
- > [目的] 夏合宿に向けての(個人の限界を超える)力を身につける.
- > [日程] 7月3日(土)~4日(日) 1泊 2日 非常1日
- > [行先] 白山
- > [行程]
- > 1日目(7/3) 金沢駅 == (バス) == 別当出合 ---- 殿ヶ池避難小屋 (泊)
- > 2日目(7/4) 殿ヶ池 ---- 黒ボコ岩 ---- 室堂 ---- 御前峰 ---- 室堂 ---- 甚之
 > 助ヒュッテ ----
- > 中飯場 ---- 別当出合 == (バス) == 金沢駅
- > ☆サブルート 室堂 ---- 御前峰 往復をカット
- > ☆エスケープルート 殿ヶ池 ---- 黒ボコ岩 から砂防新道を下山
- > [メンバー]
- > 笹田竜之 (文-史 3) sL 伊藤純司 (工-物化 3)
- > L 加藤菜就 (工-物化 2) 阿納真由美 (文-人間 2)
- > 秋葉裕崇 (教-人間環境 1) 三浦信行 (理-計 1)
- > 小村ゆき (教-人間環境 1) 深山 (教-人間環境 2)
- > 松本なゆた (理-地球)
- > [連絡員]
- > 田村賢司 (工 - 人機 4) 076-233-3946 竹内利行 (工 - 物化 4) 070-5140-2230



／

> (C) '99 夏合宿第2回トレーニング山行 (南ア-志賀Party)

>

> [目的] 雨山行になれ、親しむ。歩荷 男30kg, 女21kg

> [日程] 7月10日(土)~11日(日) 1泊 2日 非常1日

> [行先] 白山

> [行程]

> 1日目(7/10) 金沢駅 ==(バス)== 別当出合 ---- 甚之助ヒュッテ ----- 南竜 ケ馬
> 場(幕営)

> 2日目(7/11) 南竜 ---- 室堂 ----- 御前峰 ---- 室堂 ---- 甚之助ヒュッテ ----
> 中飯場 ---- 別当出合 ==(バス)== 金沢駅

> ☆エスケープルート 南竜より砂防新道を下山

> [メンバー]

> sL 石川真心(法 3) , 志賀寛人(工-土建2)

> L 奥野岳志(工-土建 2) 杉村明慶(教-人環 2)

> 谷上 望(文-人間 2) 石原 論(経1)

> 吉森幸世(文-人間1) 加賀円将(教-人環1)

> [連絡員]

> 田村賢司(工 - 人機 4) 076-233-3946

> 佐藤豪一郎(工-土建 4) 076-235-3137
> -----

> (D) '99 夏合宿第2回トレーニング山行 (北アParty)

>

> [目的] 夏合宿に向けて歩荷力をつけ、パーティの団結力と雨天強行突破耐久力を
> つけ、

> 打たれ強くなり、天(天気)を憎んで人(リーダー)を憎まずの精神を身につ
> ける。

> [日程] 7月10日(土)~11日(日) 1泊 2日 非常1日

> [行先] 白山

> [行程]

> 1日目(7/10) 金沢駅 ==== 別当出合 ---- 甚之助ヒュッテ ----- 南竜 ケ馬場(幕
> 営)

> 2日目(7/11) 南竜 ---- 室堂 ----- 御前峰 ---- 室堂 ---- 甚之助ヒュッテ ----
> 別当出合 ==== 金沢駅

> ☆エスケープルート 南竜より砂防新道を下山

> ☆男25kg, 女17kgの歩荷

> [メンバー]

> L 角谷 誠(工-土建 3) sL越前聡子(文-人間 3)

> 井澤寿予(理-物2) 清水健作(理-物2)

> 小倉 亮(法 2) 福村岳代(教-障害1)

> 久原宗仁(文-史1) 谷村一成(工-人機1)

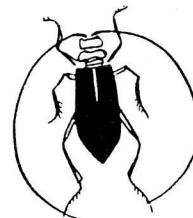
> [連絡員]

> 田村賢司(工 - 人機 4) 076-233-3946

> 佐藤豪一郎(工-土建 4) 076-235-3137



- > -----
- >
- > (A) '99 夏合宿 北アルプス野郎Party
- > [目的] 長期の山行により、北アルプスのすばらしさを体全体で味わう。
- > [日程] 8月3日(火)～11日(水) 8泊 9日 予備3日 非常1日
- > [山域] 北アルプス 剣岳～槍ヶ岳
- > [行程]
- > 1日目(8/3) 金沢駅 ++++ 富山駅 ++++ 立山駅 ==== 室堂 ---- 雷鳥平(幕営)
- > 剣御前小屋 --- 別山 (往復)
- > 2日目(8/4) 雷鳥平 --- 剣御前 --- 前剣 --- 剣 (往復)
- > 3日目(8/5) 雷鳥平 --- 一の越 --- 雄山 --- 大汝山(往復) --- 五色ヶ原(幕営)
- > 4日目(8/6) 五色ヶ原 --- 越中沢岳 --- スゴ乗越小屋(幕営)
- > 5日目(8/7) スゴ乗越 --- 薬師岳 --- 薬師峠(幕営)
- > 6日目(8/8) 薬師峠 --- 黒部五郎分岐よりピーク往復 --- 五郎平(幕営)
- > 7日目(8/9) 五郎平 --- 三俣分岐 --- 三俣山荘 --- 鷲羽岳(往復) --- 三俣蓮華岳
- > 華岳
- > --- 双六岳 --- 双六小屋(幕営)
- > 8日目(8/10) 双六小屋 --- 樺沢岳 --- 槍岳山荘(幕営)
- > 9日目(8/11) 槍岳山荘 --- 槍岳(往復) --- 槍平小屋 --- 新穂高温泉
- > ☆エスケープルート(1) 雷鳥平 → 室堂
- > (2) 五色ヶ原 → 室堂
- > (3) 薬師峠 → 折立
- > (4) 双六小屋 → 新穂高温泉
- > [メンバー]
- > L 矢内佑一(工-物化3) sL 坂本一樹(工-土建3)
- > 矢田部 桂(理-物2) 西脇幹雄(工-機機2, 医療)
- > 角田幸久(経-1) 西 大輔(工-人機1)
- > 日野鋼資(文-人間1) 山本資治(工-人機1)
- > [連絡員]
- > 竹内利行(070-5636-0131)
- > 森田善文(235-4807; 090-9760-4347)
- > -----



- > (B) '99 夏合宿 南アルプス北岳～甲斐駒パーティ
- > [目的] 南アルプスのきれいな景色を満喫する。
- > [日程] 8月3日(火)～10日(火) 6泊 7日 予備1日 非常1日
- > [行先] 南アルプス北岳～甲斐駒岳
- > [行程]
- > 1日目(8/3) 金沢駅 ++++ 糸魚川 ++++ 松本 ++++ 甲府 == (バス) == 広河原 (幕営)
- > 2日目(8/4) 広河原 --- 白根御池小屋 --- 北岳肩ノ小屋 (幕営)
- > 3日目(8/5) 肩ノ小屋 --- 北岳(往復) --- 両俣小屋 (幕営)
- > 4日目(8/6) 両俣小屋 --- 野呂川越 --- 高望池 --- 仙丈 (幕営)
- > 5日目(8/7) 仙丈 --- 小仙丈岳 --- 北沢長衛小屋 (幕営)
- > 6日目(8/8) 北沢長衛小屋 --- 甲斐駒ヶ岳 --- 北沢峠 == (バス) == 伊那北 ++++ 金沢

> ☆ エスケープルート(1) 広河原 → 伊那

> (2) 北岳肩ノ小屋 → 広河原

> (3) 両俣小屋 → 北沢峠

> (4) 仙丈小屋 → 北沢峠

> [メンバー]

> L 伊藤純司(工-物化 3) sL 笹田竜之(文-史 3)

> 加藤菜就(工-物化 2) 阿納真弓(文-人間 2)

> 秋葉裕崇(教-人間環境 1) 三浦信行(理-計 1)

> 小村由希(教-人間環境 1) 深山貴裕(工-土建 2)

> [連絡員]

> 得田馨理(医 - 保看 4) 076-276-0077; 070-5633-4141

> 竹内利行(工 - 物化 4) 070-5636-0131; 076-242-3241

>

> -----

> (C)'99 夏合宿《南アルプス南下Party》

> [目的] 南アルプスの豊かな自然に触れ、よごれた心を浄化する。

> [日程] 8月1日(日)~8日(日) 7泊 8日 予備3日 非常1日

> [行先] 南アルプス 甲斐駒ヶ岳~塩見岳

> [行程]

> 1日目(8/1) 金沢駅 +++++ 甲府駅 ==(バス)== 大樺沢出合 ==(バス)== 北沢峠

> (幕営)

> 2日目(8/2) 北沢峠 --- 甲斐駒ヶ岳(往復)

> 3日目(8/3) 北沢峠 --- 小仙丈岳 --- 仙丈小屋 (幕営)

> 4日目(8/4) 仙丈小屋 --- 高望池 --- 野呂川越 --- 両俣小屋(幕営)

> 5日目(8/5) 両俣小屋 --- 北岳 --- 北岳山荘 (幕営)

> 6日目(8/6) 北岳山荘 --- 間ノ岳 --- 三国平 --- 熊ノ平小屋 (幕営)

> 7日目(8/7) 熊の平小屋 --- 北荒川岳 --- 塩見岳 --- 三伏峠 (幕営)

> 8日目(8/8) 三伏峠 --- 塩川 ==(バス)== 伊那大島駅 ++++ 金沢

> ☆ エスケープルート(1) 仙丈小屋 → 北沢峠

> (2) 北岳山荘 → 広河原

> (3) 熊の平小屋 → 大門沢小屋 (幕営) → 奈良田

> [メンバー]

> L 志賀寛人(工-土建2) sL 石川真心(法 3)

> 奥野岳志(工-土建 2) 杉村明慶(教-人環2)

> 谷上 望(文-人間 2) 石原 諭(経 1)

> 吉森幸世(文-人間 1) 加賀円将(教-人環1)

> 河原一美(教-1)

> [連絡員]

> 主 竹内利行(工 - 物化 4) 070-5636-0131; 076-242-3241

> 副 得田馨理(医 - 保看 4) 076-276-0077; 070-5633-4141



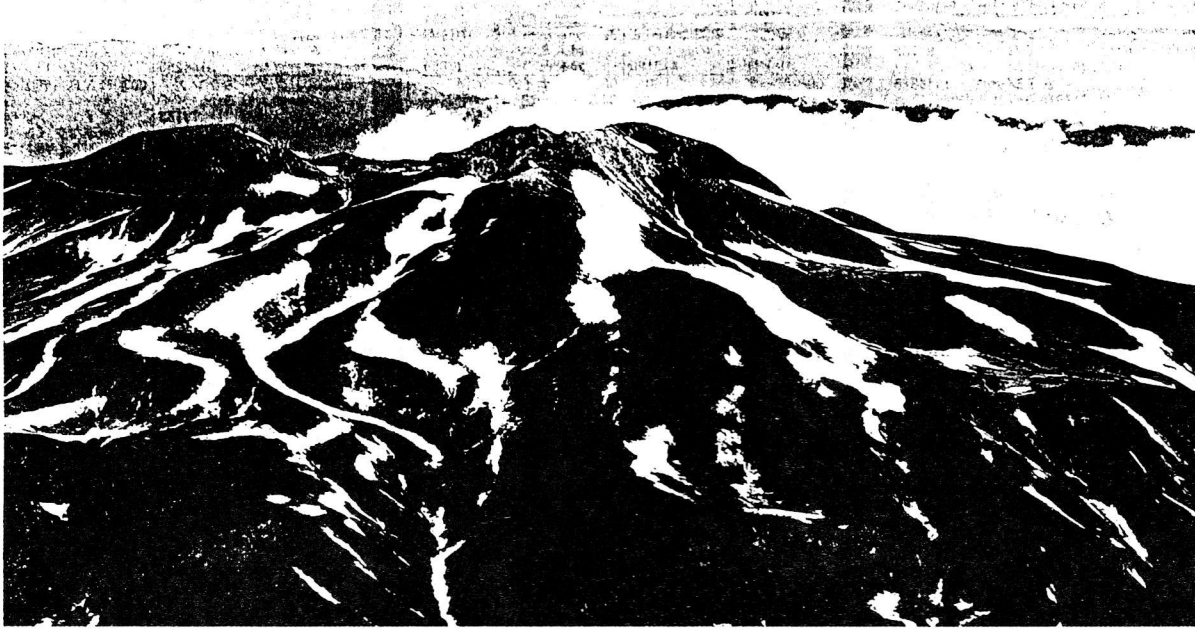
- ／

> ---
> (D) '99 夏合宿 らのじParty in 北アルプス
> [目的] 厳しくそして、華麗な自然を体験し、豊かな人間性を育む。
> [日程] 8月6日(金)～13日(土) 7泊8日 予備3日 非常1日
> [行先] 北アルプス 薬師岳～槍ヶ岳
> [行程]
> 1日目(8/6) 金沢駅 +++ 富山駅 ==(バス)== 折立 --- 太郎平小屋 --- 薬師峠 (幕
> 営)
> 2日目(8/7) 薬師峠 --- 薬師岳 (往復)
> 3日目(8/8) 薬師峠 --- 太郎平小屋 --- 北ノ俣岳 --- 中俣乗越 --- 黒部五郎岳
> ---
> 黒部五郎小舎 (幕営)
> 4日目(8/9) 黒部五郎小舎 --- 三俣山荘
> 5日目(8/10) 三俣山荘 --- 鷲羽岳 --- 水晶小屋 --- 水晶岳(往復)
> --- 三俣蓮華岳 --- 双六岳 --- 双六小屋 (幕営)
> 6日目(8/11) 双六小屋 --- 樺沢岳 --- 千丈沢乗越 --- 槍岳山荘 (幕営)
> 7日目(8/12) 槍岳山荘 --- 槍ヶ岳(往復)
> --- 槍平小屋 --- 白出小屋 --- 新穂高温泉 (幕営)
> 8日目(8/13) 新穂高温泉 ==== (高山? 神岡?) +++++ 金沢駅
> ☆ エスケープルート (1) 薬師峠 → 折立
> (2) 黒部五郎小舎 → 太郎平小屋 → 折立
> (3) 双六小屋 → 鏡平小屋 → わさび平小屋 → 新穂高温泉
> (4) 槍岳山荘 → 槍平小屋 → 白出小屋 → 新穂高温泉
> [メンバー]
> L 越前聡子 (文-人間 3) sL 角谷 誠 (工-土建 3)
> 井澤寿予 (理-物 2) 清水健作 (理-物 2)
> 小倉 亮 (法 2) 福村岳代 (教-障害1)
> 久原宗仁 (文-史 1) 谷村一成 (工-人機 1)
> [連絡員]
> 得田馨理 (医 - 保看 4) 076-276-0077; 070-5633-4141
> 竹内利行 (工 - 物化 4) 070-5636-0131; 076-242-3241

>
>
> 前田達男
> 920-1192 金沢市角間町 金沢大学法学部研究室
> Tel: (076)264-5379 (直通) (076)264-5403 (研究室事務)
> Fax: (076)264-5405 (研究室事務) (076)234-4067 (直通)
>
> T a t s u o M A E D A
> Faculty of Law Kanazawa University
> 920-1192 Kakumamchi, Kanazawa
> Tel: +81-76-264-5379 Fax: +81-76-264-5405



夏山開きを待つ白山。後方は北アルプス＝23日午前9時20分、北國新聞社ヘリ「あすなろ」から



雲間にりりよう線くつきり

白山 夏山開き近し

室堂改装で 仮設食堂準備進む

二十三日の石川県内は、梅雨前線が南下したため、晴れ間が広がり、午前九時の気温は金沢で二五・一度(平年三・六度)、輪島で二三・三度(同二・四度)と七月上旬並みに上がった。七月一日の夏山開きを控えた白山では、室堂ヒジターセンターの建設工事により今年から食事の提供ができなくなるため、持ち込んだ弁当を食べる登山者向けの仮設食堂の設置作業が急ピッチで進められている。

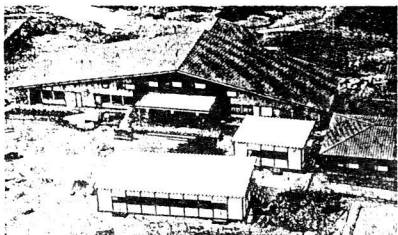
黒は岩付近など三方所に雪が残っているという。室堂センター前で設置が進んでいる仮設食堂は、夏山開きに合わせた完成する見通しで、平成十三年までの三シーズンにわたって利用される。食事提供はできないが、湯や茶の有料提供は従来通り続ける予定で、百十席を備える。

県自然保護課などは、白峰村など白山周辺のコンビニエンスストアや給油所に食事の持ち込みを呼び掛け、岐阜、福井両県側の登山口付近に看板を設置して注意を促す計画である。

週末にマイカー規制
石川県白山自動車利用適正化連絡協議会は二十三日、週末と交通混雑を目的に、白山の夏山登山ピークの週末マイカー利用規制を今年も実施することを決めた。

規制区間は、主要地方道白山公園線の白峰村市ノ瀬一別当合登山口間六・二キロで、期間は七月二十三日から八月十一日までの毎週金曜午後時から日曜正午まで、七月十六日から二十日、十八日から二十一日の間に規制される。

期間中は、市ノ瀬別当合間を路線バスが午前五時から午後五時までビストン運行される。片道料金は大人四百円、子供二百円となっている。



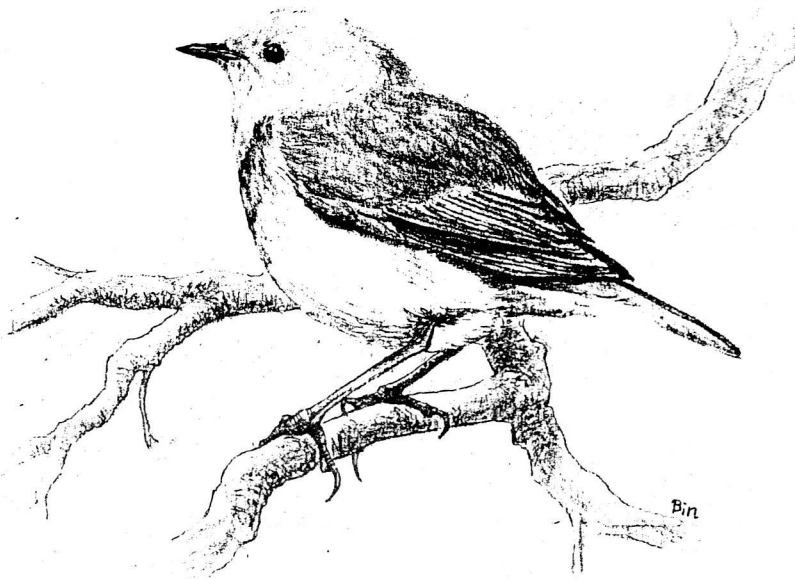
室堂センター改修のため設置された仮設食堂(手前)＝23日午前9時20分、北國新聞社ヘリ「あすなろ」から

登山者が多い白山での食事、金沢市のコープ新神田店、下の軽井沢ガスコンロの取り扱い提供が今シーズンからなくなる。夏山登山用のコーナーには、石川県内の登山用品店では乾燥食品や携帯コンロ約百品目を並べた。湯や水に登山愛好者の関心が高まるこの売り上げ増加に期待が、今月下旬に試食

携帯食品など取り扱い拡充
県内の登山用品店、会を開き、白米をはじめ、牛どんや雑炊、ビラフなど幅広い品ぞろえを強調する。各店とも七月がピークとみて、特に携帯に便利な品を揃えている。



山開きを前に、乾燥食品やコンロを選ぶ登山愛好者＝23日午前10時40分、金沢市内の登山用品店



コマドリ

OB会報「やまざと」11号
(' 9 9 夏号)

発行日 平成11年8月

発行者 奥名 正啓

編集責任者 舟田 節子

印刷 プリントショップ多田

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

事務局 920-0911 金沢市橋場町10-49

電話 076-222-9288

E-mail settyan-f@muc.biglobe.ne.jp

(舟田 節子)

URL :www02.u-page.so-net.jp/pa2/ma-okuna/kuwv/

E-mail:ma-okuna@pa2.so-net.ne.jp (奥名 会長)

E-mail:nagura@wnk.njk.co.jp (名倉 名簿担当)